

## 5. 医学系研究科

I	医学系研究科の教育目的と特徴	・・・・・・・・	5	—	2
II	「教育の水準」の分析・判定	・・・・・・・・	5	—	4
	分析項目 I 教育活動の状況	・・・・・・・・	5	—	4
	分析項目 II 教育成果の状況	・・・・・・・・	5	—	97
III	「質の向上度」の分析	・・・・・・・・	5	—	115

## I 医学系研究科の教育目的と特徴

### 1. 教育目的

医学系研究科においては、人材の養成に関する目的を次のように定めている（医学系研究科規程第1条の2）。

**医学系研究科：**高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。

**博士課程：**医科学及び生命科学領域において、①高度な知識及び科学的・論理的思考に基づき、独創性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者、②各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い医療倫理観と研究マインドを持った臨床医、並びに③地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医（以下「ジェネラリスト」という）を養成することを目的とする。

**修士課程：**看護学領域において豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備え、地域保健医療福祉に貢献できる看護職及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的とする。

上記の人材養成の目的を達成することにより、医学・看護学の進展、国民の健康増進、社会福祉及び国際社会に貢献することを教育理念としている。

### 2. 組織の特徴

医学系研究科は本学の基本的目標でもあり、第2期中期目標でもある「21世紀の社会で活躍できる優れた人材、高度専門職業人を育成する」ことを目標として、福井医科大学医学部の創設理念である「原子力の平和的医学利用」と、現在の問題である「地域医療」の課題を総合的に解決するための教育課程を設定した。これらのコースを一体化して教育することによって、スペシャリストとジェネラリスト、グローバルとローカルという価値観の異なる学生の問題意識を共有させることができる体制が特徴である。

**博士課程：**平成25年度に「統合先進医学専攻」の1専攻に統一し、従来のコースとともに本邦初の「地域総合医療学コース」を新設した。「地域総合医療学コース」は福井県の地域性を鑑み、被ばく医療も視野に入れた地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた質の高いジェネラリストの養成を目指すものである。

**修士課程：**看護に求められる社会のニーズを踏まえ、平成26年度には本邦初の災害看護専門看護師教育課程（以下「災害看護CNS課程」という）、平成27年度にはがん看護専門看護師教育課程（以下「がん看護CNS課程」という）を開設し、卓越した看護実践能力の修得に向けたスペシャリスト教育を開始した。また、平成23年度より、医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門 看護キャリアアップセンター（以下「看護キャリアアップセンター」という）を設置し、慢性呼吸器疾患看護課程、続いて平成26年度より手術看護課程を開講し、変動する社会環境の中で高度専門化する医療・看護の社会的ニーズに応えるべく看護基礎教育を終了した看護師のキャリアアップ支援を行い、地域の現任教育に貢献している。

### 3. 入学者の状況

博士課程では、平成25年度の改組時に入学定員を25名に見直し、年間2回の学生募集を行い、改組前の平成13年度から引き続き秋季入学生も受け入れている。グローバル化に対応した秋季入学は、外国人留学生並びに日本人学生にとっても利便性が十分に活用されている。設置以後平成27年度までに604名の大学院生を受入れ、平成27年3月までに413名の修了生を輩出している。なお、改組後の平成25年度から平成27年度においては、入学定員における充足率は100%を維持している。

修士課程の入学定員は12名であり、年間2回の学生募集を一般選抜と社会人特別選抜とで実施している。設置以後平成27年度までに169名の大学院生を受入れ、平成27年

3月までには120名の修了生を輩出している。なお、第1期中期目標期間（以下「第1期」という）の入学定員充足率の平均は76.4%であったが、第2期中期目標期間（以下「第2期」という）は98.6%と大幅に改善された。

**[想定する関係者とその期待]**

- **大学院生**：スペシャリスト，ジェネラリストとして独り立ちできる科学的・論理的思考力，実践力の基本的能力の獲得
- **地域社会**：地域に貢献できる優れた医療人の養成と確保
- **医療・医学研究機関**：高度な医療技術・技能，研究能力を備え，将来教育的指導と臨床研究を担い，国際的に活躍し地域をリードする高度専門職業人の養成と確保

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

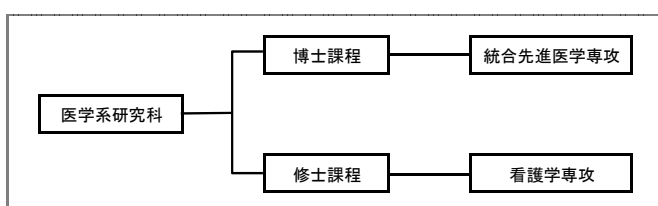
(観点に係る状況)

●教員組織編成や教育体制の工夫とその効果に関する例

【教育プログラムとしての実施体制】

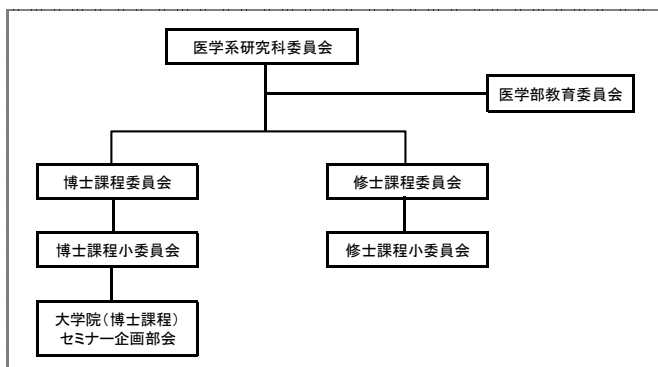
医学系研究科は博士課程及び修士課程から構成され、両課程の教育プログラムはそれぞれの課程委員会の統轄のもと一貫した運営がなされている。なお、平成 27 年度より医学教育分野別評価基準に沿った委員会改組が行われ、医学系研究科を含めた医学部全体において、プログラム実施体制が整備されている(資料 1-1-1, 2(1), 2(2))。

資料 1-1-1 医学系研究科の組織



(事務局資料)

資料 1-1-2(1) 医学系研究科の運営体制(1)



※研究科委員会及び教育委員会の委員長は医学部長(研究科長を兼務)をあてており、責任の所在が明白な教学ガバナンス体制となっている。

(事務局資料)

資料 1-1-2(2) 医学系研究科の運営体制(2)

**各委員会等の審議事項等**

●福井大学大学院医学系研究科委員会規程

(組織)

第2条 研究科委員会は、医学系研究科長及び医学系研究科担当の教授をもって構成する。

(審議事項)

第3条 研究科委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (2) 専攻・課程等教育研究組織の設置又は改廃に関する事項
- (3) 大学院担当教員の選考に関する事項
- (4) 教育課程の編成及び研究指導に関する事項
- (5) 試験及び単位の認定に関する事項
- (6) 学位論文の審査及び最終試験に関する事項
- (7) 学生の入退学、修了、賞罰等その身分に関する事項
- (8) 学生の厚生及び補導に関する事項
- (9) その他大学院の教育、研究及び管理運営に関する重要事項

(課程委員会)

第9条 研究科委員会に、博士課程及び修士課程に関する事項を調査審議するため、医学系研究科博士課程委員会及び医学系研究科修士課程委員会（以下「課程委員会」という。）を置く。

2 研究科委員会は、研究科委員会の議に基づき、第3条に規定する審議事項のうち、一部の審議を課程委員会に付託し、議決させることができる。

●福井大学大学院医学系研究科課程委員会規程

(組織)

第2条 医学系研究科博士課程委員会（以下「博士課程委員会」という。）の構成員は、医学系研究科博士課程担当の教授とする。

2 医学系研究科修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の構成員は、医学系研究科修士課程担当の教授とする。

(審議事項)

第3条 課程委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医学系研究科委員会から付託された事項
- (2) その他該当課程の運営に関し必要な事項

●医学系研究科博士課程小委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、福井大学大学院医学系研究科課程委員会規程（平成16年福大院医規程第2号）第7条第2項の規定に基づき、大学院医学系研究科博士課程小委員会（以下「博士課程小委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 博士課程小委員会は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 博士課程担当の教授のうちから、医学系研究科長が指名する教授1名
- (2) 博士課程担当の教授 各専攻から2名

●医学系研究科修士課程小委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、福井大学大学院医学系研究科課程委員会規程（平成16年福大院医規程第2号）第7条第2項の規定に基づき、大学院医学系研究科修士課程小委員会（以下「修士課程小委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 修士課程小委員会は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 修士課程委員会委員長
- (2) 修士課程担当の教授

●福井大学医学部教育委員会規程

(目的)

第2条 委員会は、教育に関する医学部（大学院を含む）の委員会等を統括し、医学部教育の円滑な実施を図るとともに、教育改革を推進することを目的とする。

(協議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 医学部（大学院を含む）における医学・看護学教育全般の統括、管理運営及び教育改革に関する事項
- (2) 教育に係る中期目標・中期計画に関する事項
- (3) 教育課程の編成に関する事項
- (4) 非常勤講師の任用計画、選考等に関する事項
- (5) 学生の退学、進級及び卒業、賞罰等その身分に関する事項
- (6) その他医学部の教育に関する重要事項

(事務局資料)

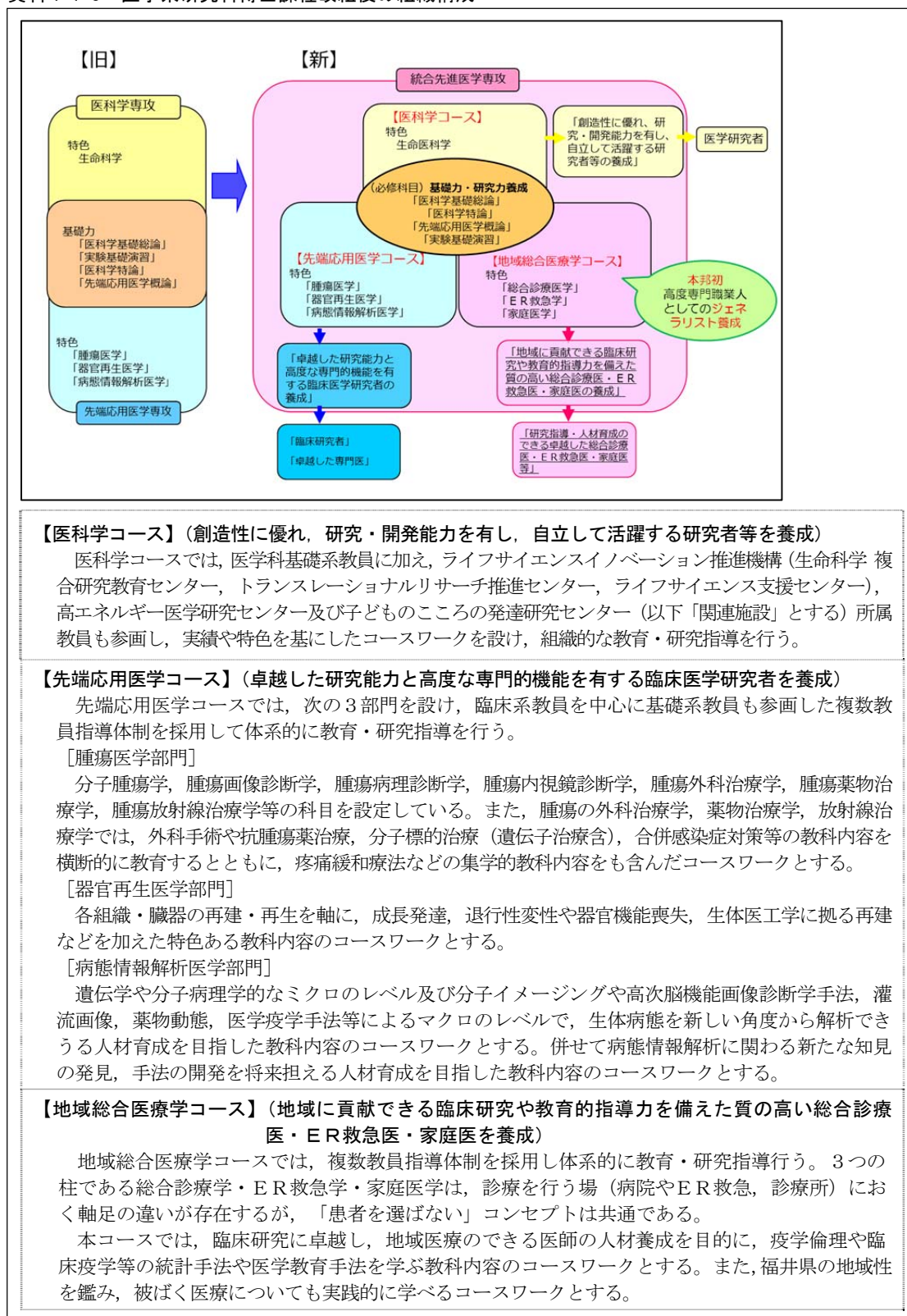
**【組織体制】**

博士課程では、平成25年度改組に伴い福井県の地域性、ジェネラリストの育成に対する社会的ニーズに応えるため、本邦初のコースとして「地域総合医療学コース」を設置し、「医科学コース」「先端応用医学コース」とともにコースの枠を越え有機的、横断的

に学ぶ体制を整えた（資料 1-1-3, 4）。

修士課程では、災害の多い日本に必要とされる卓越した災害看護実践能力を有する専門看護師の育成を目指し、平成 26 年度に本邦初の災害看護 CNS 課程を開設した。更に、福井県におけるがん看護専門看護師不在という状況を受けて、平成 27 年度にがん看護 CNS 課程を開設した（資料 1-1-5, 6）。

資料 1-1-3 医学系研究科博士課程改組後の組織構成



**【医科学コース】（創造性に優れ、研究・開発能力を有し、自立して活躍する研究者等を養成）**

医科学コースでは、医学科基礎系教員に加え、ライフサイエンスイノベーション推進機構（生命科学 複合研究教育センター、トランスレーショナルリサーチ推進センター、ライフサイエンス支援センター）、高エネルギー医学研究センター及び子どものこころの発達研究センター（以下「関連施設」とする）所属教員も参画し、実績や特色を基にしたコースワークを設け、組織的な教育・研究指導を行う。

**【先端応用医学コース】（卓越した研究能力と高度な専門的機能を有する臨床医学研究者を養成）**

先端応用医学コースでは、次の 3 部門を設け、臨床系教員を中心に基礎系教員も参画した複数教員指導体制を採用して体系的に教育・研究指導を行う。

**【腫瘍医学部門】**

分子腫瘍学、腫瘍画像診断学、腫瘍病理診断学、腫瘍内視鏡診断学、腫瘍外科治療学、腫瘍薬物治療学、腫瘍放射線治療学等の科目を設定している。また、腫瘍の外科治療学、薬物治療学、放射線治療学では、外科手術や抗腫瘍薬治療、分子標的治療（遺伝子治療含）、合併感染症対策等の教科内容を横断的に教育するとともに、疼痛緩和療法などの集学的教科内容をも含んだコースワークとする。

**【器官再生医学部門】**

各組織・臓器の再建・再生を軸に、成長発達、退行性変性や器官機能喪失、生体医工学に拠る再建などを加えた特色ある教科内容のコースワークとする。

**【病態情報解析医学部門】**

遺伝学や分子病理学的なミクロのレベル及び分子イメージングや高次脳機能画像診断学手法、灌流画像、薬物動態、医学疫学手法等によるマクロのレベルで、生体病態を新しい角度から解析できる人材育成を目指した教科内容のコースワークとする。併せて病態情報解析に関わる新たな知見の発見、手法の開発を将来担える人材育成を目指した教科内容のコースワークとする。

**【地域総合医療学コース】（地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・E R 救急医・家庭医を養成）**

地域総合医療学コースでは、複数教員指導体制を採用し体系的に教育・研究指導を行う。3つの柱である総合診療学・E R 救急学・家庭医学は、診療を行う場（病院やE R 救急、診療所）におく軸足の違いが存在するが、「患者を選ばない」コンセプトは共通である。

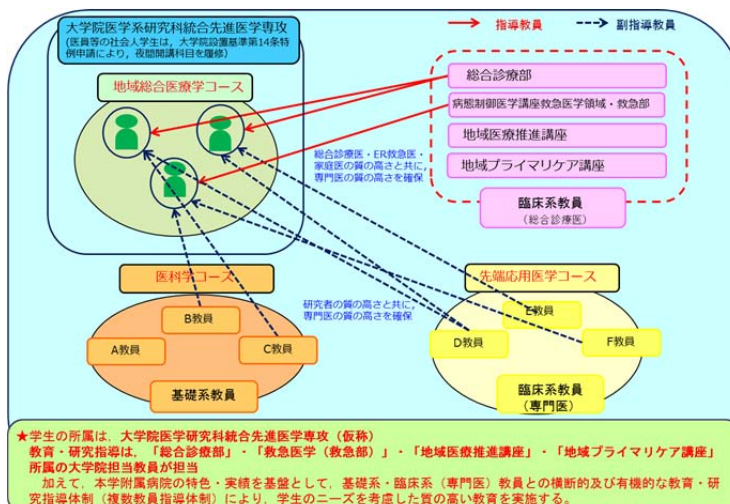
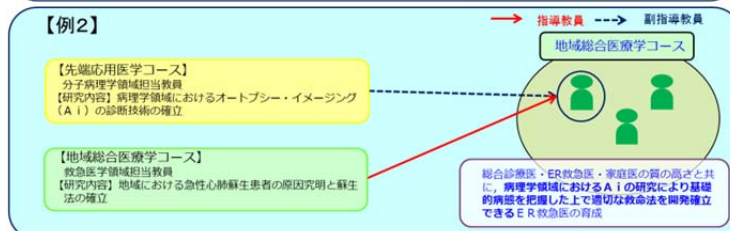
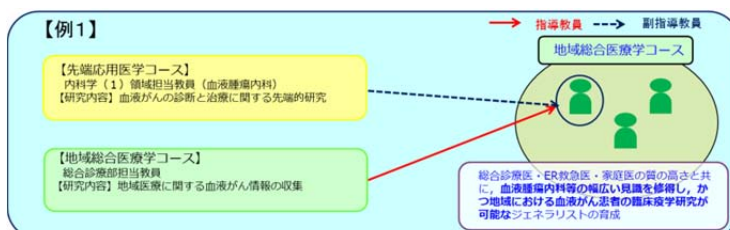
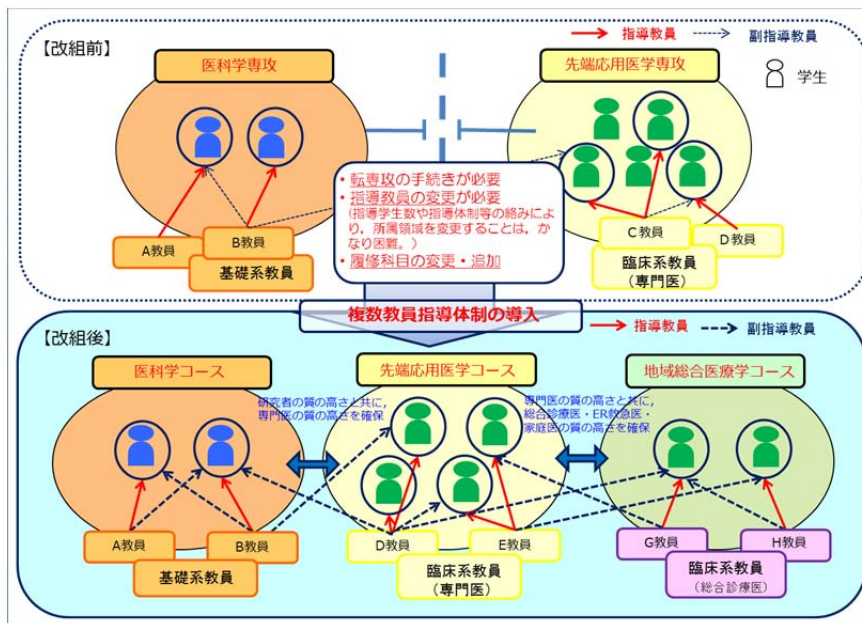
本コースでは、臨床研究に卓越し、地域医療のできる医師の人材養成を目的に、疫学倫理や臨床疫学等の統計手法や医学教育手法を学ぶ教科内容のコースワークとする。また、福井県の地域性を鑑み、被ばく医療についても実践的に学べるコースワークとする。

（事務局資料）

資料 1-1-4 博士課程改組後の指導体制

● コースを越えた横断的な指導体制の確立

平成 25 年度に「統合先進医学専攻」1 専攻、「医科学コース」、「先端応用医学コース」、「地域総合医療学コース」の 3 コースに改組したことにより、3 コース間で横断的に指導が受けられる体制としている。例えば、「地域総合医療学コース」の大学院生を「先端応用医学コース」内科学(1)領域担当教員（血液腫瘍内科）が協働して指導し、総合診療医・ER 救急医・家庭医の質の高さと共に、血液腫瘍内科等の幅広い見識を修得し、かつ地域における血液がん患者の臨床疫学研究が可能なジェネラリストの育成が期待できる。





資料 1-1-5 修士課程 CNS 課程開設検討経過

年度	検討内容等
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害看護専門看護師教育課程の検討の必要性について修士課程委員会で承認（中期目標・計画との関連）</li> <li>・災害看護専門看護師ワーキンググループで検討開始</li> <li>・災害看護専門看護師シラバスの策定、科目担当者教員の決定、履修単位の確認（38単位）</li> </ul>
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害看護専門看護師教育課程設置に向けて講演会実施</li> <li>・災害看護専門看護師教育課程実習施設の決定</li> <li>・福井大学医学系研究科修士課程に災害看護領域を設置</li> <li>・日本看護系大学協議会に災害看護専門看護師課程教育機関設置申請書類提出</li> <li>・がん看護専門看護師教育課程の検討の必要性について修士課程委員会で承認（中期目標・計画との関連）</li> </ul>
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害看護専門看護師教育機関認可</li> <li>・災害看護専門看護師課程教育開始（入学生5名）</li> <li>・がん看護専門看護師教育課程設置に関するワーキンググループを設置</li> <li>・がん看護専門看護師教育課程設置大学院の事例調査</li> <li>・がん看護専門看護師教育課程修了者への情報収集および非常勤講師の打診</li> <li>・日本看護系大学協議会がん看護CNS認定委員会専門分科会副委員長との複数回の事前相談</li> <li>・がん看護専門看護師シラバスの策定・検討、科目担当教員・非常勤講師案の検討・策定</li> <li>・がん看護専門看護師実習施設・計画の情報収集及び検討・策定</li> <li>・がん看護専門看護師教育機関申請書類を日本看護系大学協議会に送付（H26年7月末）</li> <li>・申請認可（H27年2月）</li> </ul>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん看護専門看護師教育機関認可</li> <li>・がん看護専門看護師教育機関設置・教育開始（入学生4名）</li> </ul>

（事務局資料）

資料 1-1-6 災害看護専門看護師（CNS）教育課程・がん看護専門看護師（CNS）教育課程募集ちらし

**平成26年度** 新 開 設

**福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻**  
**災害看護専門看護師課程**

福井大学医学系研究科修士課程看護学専攻に、災害看護学分野を平成25年度から設置しました。現在、災害看護専門看護師課程教育機関認定を申請予定です。本課程では、災害分野において卓越した看護実践能力を有する**専門看護師**の育成を行います。資格取得の機会と場を是非ご利用ください。

●専門看護師の役割とは？

実践
相談
調整
倫理
教育
研究

●どのような講義があるの？

履修単位は38単位

共通科目A	共通科目B	専攻分野科目
看護研究	ヘルスアセスメント	災害看護学特論
看護倫理	病態生理学	災害看護学演習
看護理論	臨床薬理学	災害看護学実習
看護教育論		災害看護課題研究
看護管理論		
看護政策論		
コンサルテーション論		

●お問い合わせ先

**福井大学**  
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3  
福井大学医学部看護学科 酒井明子 TEL: 0776-61-8556  
FAX: 0776-61-8556 E-mail: sakaiaiki@u-fukui.ac.jp

**平成27年度 開設予定**

福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻  
**がん看護専門看護師課程**

福井大学医学系研究科修士課程看護学専攻に、平成27年度よりがん看護学領域の開講を予定しています。現在、がん看護専門看護師課程教育機関認定を申請予定です。本課程では、がん看護分野において卓越した看護実践能力を有する**専門看護師**の育成を行います。資格取得の機会と場を是非ご利用ください。

●専門看護師の役割とは何ですか？

専門看護分野において、  
【実践】【相談】【調整】【倫理】【教育】【研究】  
の役割を果たします。

●どのような講義がありますか？

履修単位は38単位で、以下のような講義があります。

共通科目 A	共通科目 B	専攻分野科目
看護研究	ヘルスアセスメント	がん看護学特論
看護倫理	病態生理学	がん看護学演習
看護理論	臨床薬理学	がん看護学実習
看護教育論		
看護管理論		
看護政策論		
コンサルテーション論	大学・短大・専門学校卒業生が入学可能です。	

●お問い合わせ先

**国立大学法人 福井大学**  
〒910-1193  
福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3  
福井大学医学部看護学科 事務局  
TEL: 0776-61-8568 / FAX: 0776-61-8145  
E-mail: hy0527@u-fukui.ac.jp

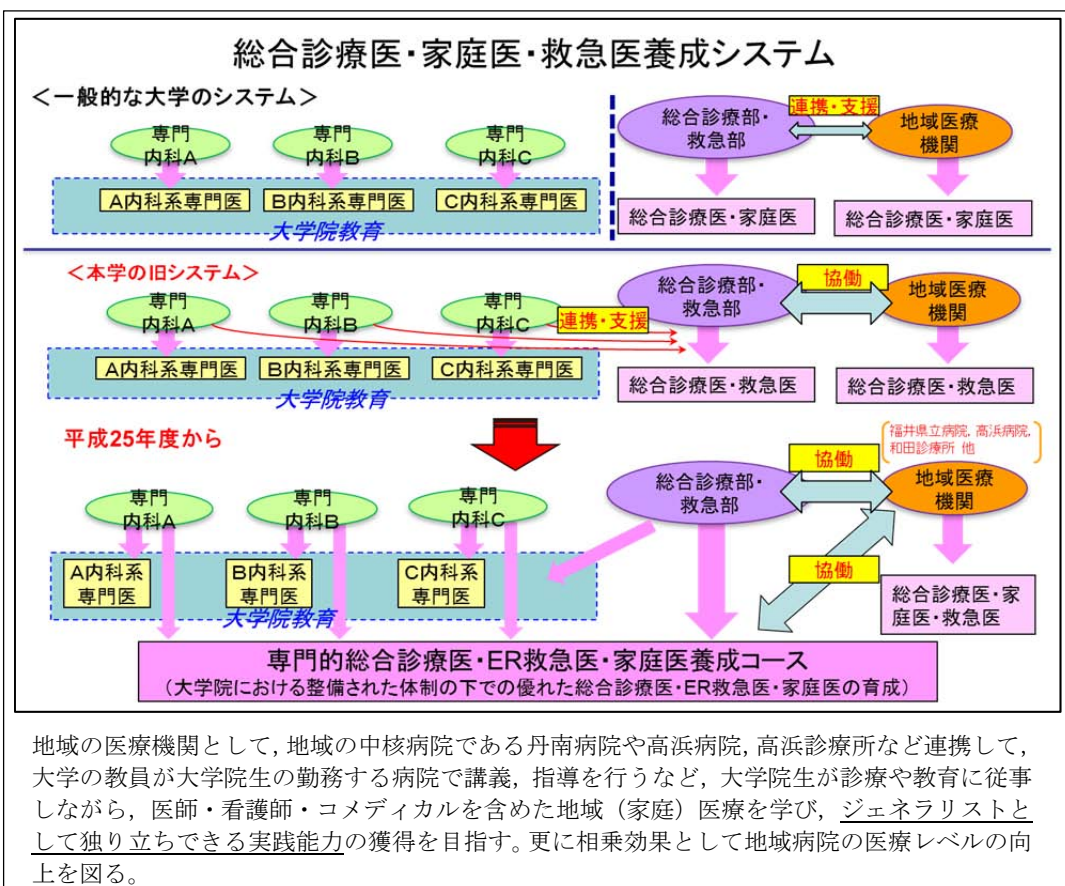
（事務局資料）

**【外部組織との連携】**

- ① 博士課程の「地域総合医療学コース」では、地域の中核病院や診療所等とより密接に連携した教育指導体制を導入し、ジェネラリスト養成のための教育・研究指導体制が整えられており、関係者の期待に応えるものとなっている（資料 1-1-7）。

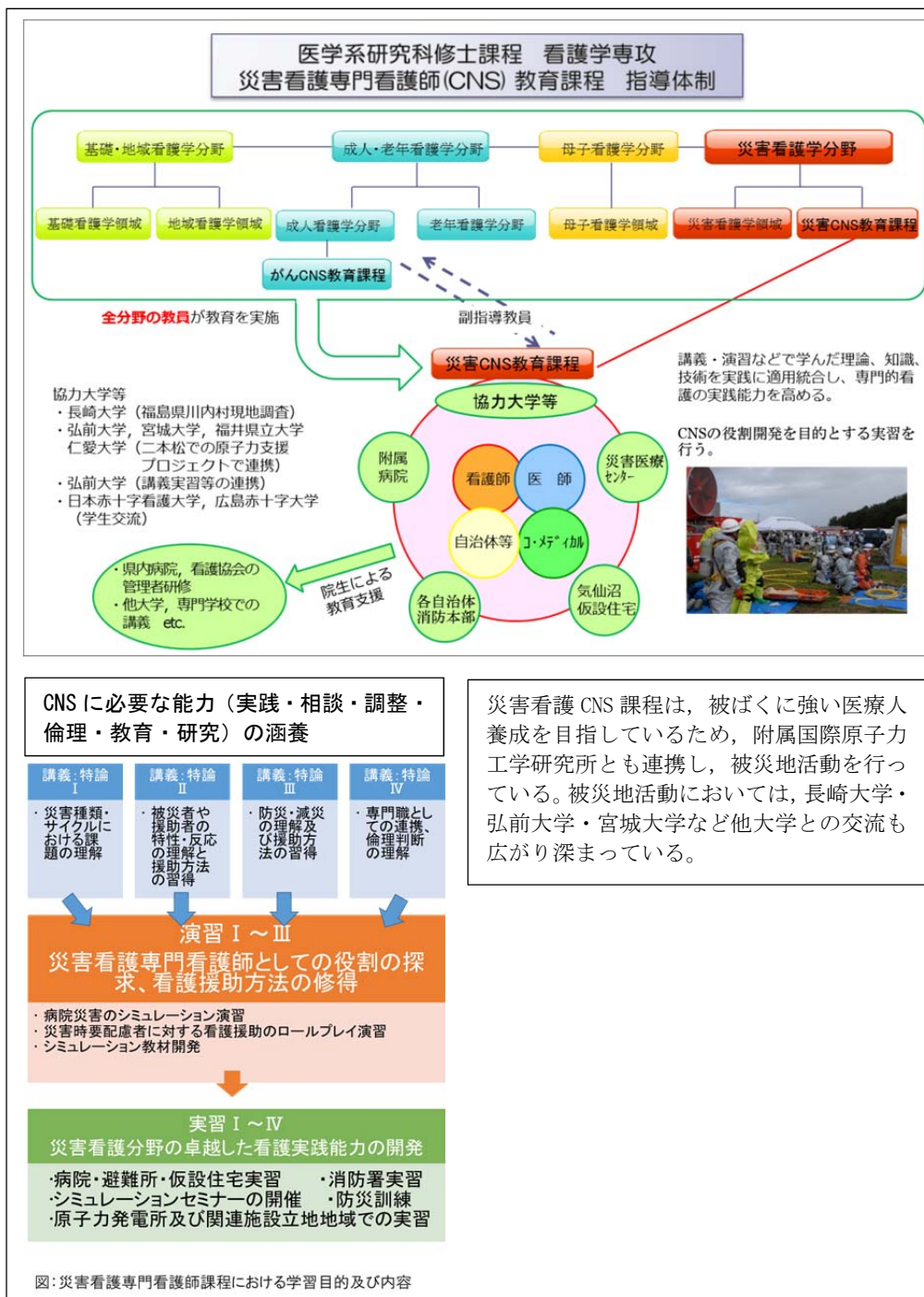


資料 1-1-7 博士課程 地域総合医療学コース教育体制



- ② 修士課程の「災害看護 CNS 課程」では、国立病院機構災害医療センター、宮城県仮設住宅等と協力した教育・研究指導体制を整えている。また、長崎大学と協働した現地調査や、原発事故による課題に対するプロジェクトに弘前大学や福井県内の大学と共に参画するなどの活動も積極的に行っている（資料 1-1-8, 9）。

資料 1-1-8 修士課程 災害看護 CNS 課程の指導体制



(事務局資料)

資料 1-1-9 修士課程 災害看護 CNS 課程活動一覧

年度	日程	内 容
平成25年度	7月	愛知県看護協会セミナー 病院災害図上訓練 弘前大学・宮城大学 仁愛大学連携 福島県二本松市放射線災害被災母子支援イベント 遊びとリラクゼーションの提供
	2月	東日本大震災仮設住宅支援 調査
	3月	COC事業 大学立地地域での備えのための講習会 (三角巾 搬送法等) 被ばく医療演習 基礎知識・養生等)
平成26年度	6月	東日本大震災 仮設住宅支援 健康相談、講話、イベント開催等) 調査
	7月	愛知県看護協会セミナー 病院災害図上訓練
	9月	国立病院機構との連携 病院における備え・防災訓練・教育研修の実施 福島支援室での看護活動
	10月	福井県立病院防災訓練
	11月	福井赤十字病院防災訓練
	12月	COC事業 大学立地地域での備えのための講習会 (三角巾 搬送法等)
	1月	国立病院機構との連携 病院における備え・防災訓練・教育研修の実施 福島支援室での看護活動
	2月	東日本大震災 仮設住宅支援 健康相談、講話、イベント開催等) 調査
平成27年度	3月	福井大学医学部附属病院 病院災害図上訓練
	6月	日本災害看護学会教育活動委員会セミナーでの発表 災害看護専門看護師の視点から考える災害時のリーダーの役割 原子力関連施設との連携 平時からの備え・発災時の対応等) 県内消防との連携 平時からの備え・教育研修 搬送法等)
	7月	福島県二本松市放射線災害被災母子支援 イベント 遊びとリラクゼーションの提供 愛知県看護協会セミナー 病院災害図上訓練
	8月	日本災害看護学会年次大会 教育活動委員会企画 専門看護師の役割についての発表 日本災害看護学会年次大会 ワークショップ 病院災害図上訓練 国立病院機構との連携 病院における備え・防災訓練・教育研修の実施 福島支援室での看護活動
	9月	長崎大学連携 福島県川内村原子力災害被災地支援 現地消防・大学との交流、被災者宅訪問・放射線量測定等 公立丹南病院 病院災害図上訓練
	10月	福井県看護協会 災害支援ナース向け研修 病院災害図上訓練 嶺北丸岡消防署との連携 高速道路での事故・災害対応訓練 (備え 搬送等) 福井県看護協会管理者向け災害看護に関する講義
	11月	福井医療短期大学 災害看護論講義6コマ 関東東北豪雨被災地支援 常総市避難所での看護活動
	12月	三重大学防災訓練 COC事業 大学立地地域での備えのための講習会 (三角巾 搬送法等)
	1月	国立病院機構との連携 病院における備え・防災訓練・教育研修の実施 福島支援室での看護活動
	2月	東日本大震災 仮設住宅支援 健康相談、講話、イベント開催等) 調査
	3月	福島県いわき市放射線災害被災母子支援 イベント 遊びとリラクゼーションの提供 中部地区COC事業採択校学生交流会での発表

(災害看護専門看護師教育課程資料より)

【学生支援】

博士・修士課程に入学する大学院生はほぼ社会人であり、両課程ともに授業の夜間開講（大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用）、長期履修制度導入等、学びやすい環境を整備するとともに（資料 1-1-10～14）、指導教員、保健センター、学生総合相談室及び事務局が連携し、身体・精神面からも修学をサポートしている（資料 1-1-15, 16）。また、医学図書館は24時間開館しており、個々の状況に合わせ利用可能となっている（資料 1-1-17）。これら支援に対する学生の満足度は良好で、第1期に比べ向上した（資料 1-1-18）。

## 福井大学医学系研究科 分析項目 I

資料 1-1-10 医学系研究科における社会人入学者の状況

(人)

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計	備考
博士課程	社会人入学者数	16 (2)	26 (9)	27 (12)	24 (6)	26 (7)	25 (11)	144 (47)	
	全入学者数	16 (2)	27 (10)	27 (12)	25 (7)	26 (7)	25 (11)	146 (49)	
修士課程	社会人入学者数	12 (10)	11 (11)	10 (7)	12 (10)	14 (11)	12 (12)	71 (61)	
	全入学者数	12 (10)	11 (11)	10 (7)	12 (10)	14 (11)	12 (12)	71 (61)	
医学系研究科計	社会人入学者数	28 (12)	37 (20)	37 (19)	36 (16)	40 (18)	37 (23)	215 (108)	
	全入学者数	28 (12)	38 (21)	37 (19)	37 (17)	40 (18)	37 (23)	217 (110)	

\*( )内は女子で内数

(事務局資料)

資料 1-1-11 修士課程における夜間開講時間割

時限	1	2	3	4	5	6	7
曜日	8 45～10 15	10 30～12 00	13 00～14 30	14 45～16 15	16 30～18 00	18 00～19 30	19 40～21 10
月			看護研究 (長谷川智 <sup>印</sup> )	看護管理論 (上野 <sup>印</sup> )		※看護研究 (長谷川智 <sup>印</sup> )	※看護管理論 (上野 <sup>印</sup> )
火			成人看護学特論 (繁田 <sup>印</sup> )	基礎看護学特論 (長谷川智 <sup>印</sup> )		※成人看護学特論 (繁田 <sup>印</sup> )	※基礎看護学特論 (長谷川智 <sup>印</sup> )
			がん看護学特論Ⅰ (片山 <sup>印</sup> )			がん看護学特論Ⅰ (片山 <sup>印</sup> )	
水			地域看護学特論 (長谷川美 <sup>印</sup> )	病態生理学 (重松 <sup>印</sup> )		※地域看護学特論 (長谷川美 <sup>印</sup> )	※病態生理学 (重松 <sup>印</sup> )
			がん看護学特論Ⅱ (上野 <sup>印</sup> )			※がん看護学特論Ⅱ (上野 <sup>印</sup> )	
木			老年看護学特論 (中村)	コンサルテーション論 (長谷川智 <sup>印</sup> )		※老年看護学特論 (中村)	※コンサルテーション論 (長谷川智 <sup>印</sup> )
			がん看護学特論Ⅲ (繁田 <sup>印</sup> )			※がん看護学特論Ⅲ (繁田 <sup>印</sup> )	
金			看護理論 (上野 <sup>印</sup> )	母子看護学特論 (上澤 <sup>印</sup> )		※看護理論 (上野 <sup>印</sup> )	※母子看護学特論 (上澤 <sup>印</sup> )

同じ授業科目を夜間にも開講  
勤務のため、18:00からの授業に間に合わない場合を考慮し、次年度は6限  
目と7限目の授業を入れ替え、1年目で履修できなければ、2年目で履修で  
きるよう時間割を組んでいる。

注) ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

(事務局資料)

資料 1-1-12 長期履修学生規程

福井大学大学院長期履修学生規程（一部抜粋）
<p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規程は、福井大学大学院学則（平成16年福大則第2号。以下「大学院学則」という。）第35条の規定に基づき、長期履修学生について、必要な事項を定める。</p> <p>(長期履修期間)</p> <p>第2条 本学大学院が、長期履修学生に対し、その計画的な履修を認める期間（以下「長期履修期間」という。）は、教育学研究科修士課程・教職大学院の課程、医学系研究科修士課程及び工学研究科博士前期課程においては4年以下、医学系研究科博士課程及び工学研究科博士後期課程においては6年以下とする。</p> <p>(審査)</p> <p>第5条 前2条の申請については、別に定めるところにより審査を行い、学長が許可する。</p> <p>2 学長は、前項の規定により許可を与えるに当たり当該研究科の教授会の意見を聴くものとする。</p> <p>(最長の在学期間)</p> <p>第6条 長期履修学生が、長期履修期間を超える場合、在学できる最長の在学期間は、教育学研究科修士課程・教職大学院の課程、医学系研究科修士課程及び工学研究科博士前期課程においては5年、医学系研究科博士課程においては9年、工学研究科博士後期課程においては7年とする。</p>

(事務局資料)

資料 1-1-13 長期履修学生に関する申合せ

医学系研究科長期履修学生に関する申合せ（一部抜粋）
<p>医学系研究科の長期履修学生については、当分の間、次のとおりとする。</p> <p>1 福井大学大学院学則第35条における「職業を有している等」の者とは、次のとおりとする。</p> <p>(1) 正規に雇用されている者又は自ら事業を行っている者</p> <p>(2) アルバイト、パートタイム等の職業に就いている者で、その負担により修学に重大な影響がある者</p> <p>(3) 出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者</p> <p>(4) その他やむを得ない事情があると認められる者</p> <p>3 長期履修学生規程第3条の「申請」及び第4条の「長期履修期間の変更」にかかる審査は、当該課程小委員会において審査し、当該課程委員会において承認する。</p>

(事務局資料)

資料 1-1-14 医学系研究科における長期履修制度の適用状況

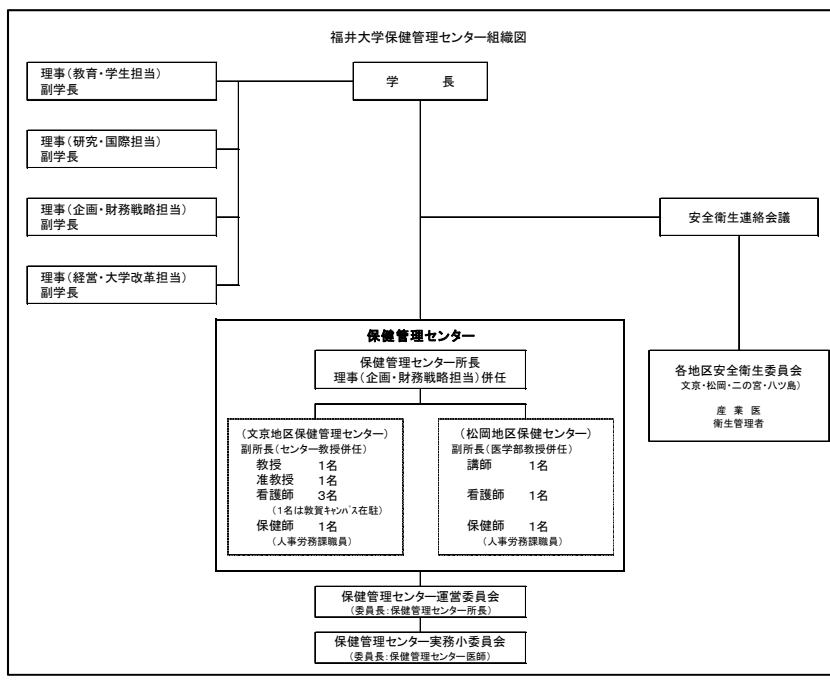
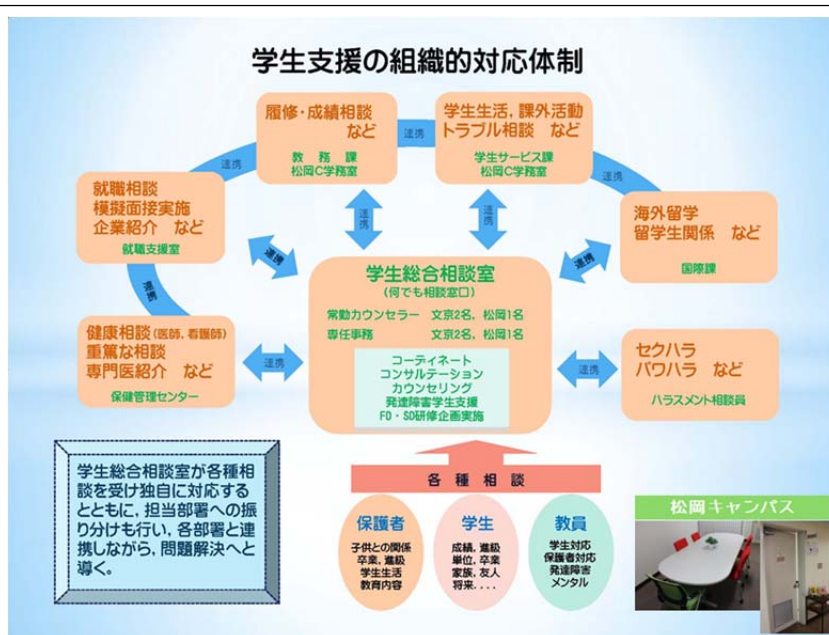
(人)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計	備考
	長期履修者数	長期履修者数	長期履修者数	長期履修者数	長期履修者数	長期履修者数	長期履修者数	
	(在学者数)	(在学者数)	(在学者数)	(在学者数)	(在学者数)	(在学者数)	(在学者数)	
博士課程	0	0	0	0	0	0	0	
	(93)	(102)	(111)	(111)	(117)	(128)	(662)	
修士課程	2	4	4	8	15	15	48	
	(22)	(27)	(28)	(30)	(30)	(32)	(169)	
医学系研究科 計	2	4	4	8	15	15	48	
	(115)	(129)	(139)	(141)	(147)	(160)	(831)	

(事務局資料)



資料 1-1-15 福井大学学生支援体制



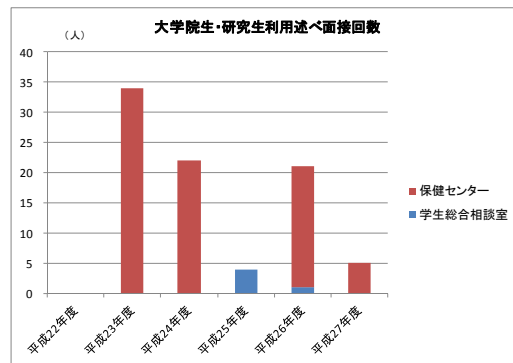
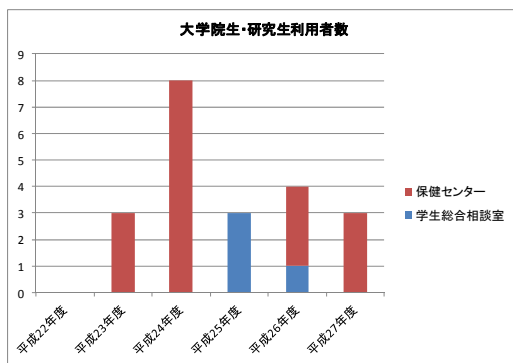
(事務局資料)



資料 1-1-16 松岡キャンパス学生総合相談室及び保健センター利用状況

年度	区 分	学生総合相談室						保健センター						計					
		実数(人)			延べ面接回数(回)			実数(人)			延べ面接回数(回)			実数(人)			延べ面接回数(回)		
		女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計
平成22年度 (2010)	医学部生							45	22	67	272	255	527	45	22	67	272	255	527
	院生・研究生										0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学生計							45	22	67	272	255	527	45	22	67	272	255	527
	コンサルテーション												97						97
	その他(卒業生等)												54						54
	総 計							45	22	67	272	255	527	45	22	67	272	255	527
平成23年度 (2011)	医学部生							74	22	96	382	165	547	74	22	96	382	165	547
	院生・研究生							1	2	3	12	22	34	1	2	3	12	22	34
	学生計							75	24	99	394	187	581	75	24	99	394	187	581
	コンサルテーション												117						117
	その他(卒業生等)												31						31
	総 計							75	24	99	394	187	581	75	24	99	394	187	581
平成24年度 (2012)	医学部生	35	9	44	98	46	144	45	29	74	327	76	403	80	38	118	425	122	547
	院生・研究生	0	0	0	0	0	0	3	5	8	13	9	22	3	5	8	13	9	22
	学生計	35	9	44	98	46	144	48	34	82	340	85	425	83	43	126	438	131	569
	コンサルテーション												187						187
	その他(卒業生等)												57						57
	総 計	35	9	44	98	46	144	48	34	82	340	85	425	83	43	126	438	131	569
平成25年度 (2013)	医学部生	12	10	22	36	25	61	69	34	103	301	66	367	81	44	125	337	91	428
	院生・研究生	0	3	3	0	4	4				0		0	0	3	0	4	4	4
	学生計	12	13	25	36	29	65	69	34	103	301	66	367	81	47	128	337	95	432
	コンサルテーション						14						126						140
	その他(卒業生等)						0						64						64
	総 計	12	13	25	36	29	79	69	34	103	301	66	367	81	47	128	337	95	432
平成26年度 (2014)	医学部生	28	23	51	111	75	186	42	9	51	307	20	327	70	32	102	418	95	513
	院生・研究生	0	1	1	0	1	1	2	1	3	19	1	20	2	2	4	19	2	21
	学生計	28	24	52	111	76	187	44	10	54	326	21	347	72	34	106	437	97	534
	コンサルテーション						56						69						125
	その他(卒業生等)						0						41						41
	出張相談	5	0	5	9	0	9							5	0	5	9	0	9
	総 計	33	24	57	120	76	252	44	10	54	326	21	457	77	34	111	446	97	709
平成27年度 (2015)	医学部生	39	42	81	202	102	304	24	8	32	186	39	225	63	50	113	388	141	529
	院生・研究生	0	0	0	0	0	0	2	1	3	4	1	5	2	1	3	4	1	5
	学生計	39	42	81	202	102	304	26	9	35	190	40	230	65	51	116	392	142	534
	コンサルテーション						92	15	9	24	72	9	81						173
	その他(卒業生等)	0	1	1	0	3	3	3	2	5	8	3	11	3	3	6	8	6	14
	出張相談	3	0	3	3	0	3							3	0	3	3	0	3
	総 計	42	43	85	205	105	402	44	20	64	270	52	322	68	54	122	414	147	561

松岡キャンパス学生総合相談室：平成24年度開設



大学院生は社会人がほとんどであり、学部生と比して相談件数自体が少なく、利用者数は平成24年度以外はほぼ横ばいである（研究生の利用実績はない）。  
 述べ面接回数の減少については、大学院生の相談に対し、的確な支援を行った結果、利用の必要がなくなったためであり、有効な支援が行われていると言える（平成23、24年度利用者と平成26年度利用者は異なる大学院生である）。

(事務局資料)

資料 1-1-17 学生（大学院生含む）による図書館利用状況（平成 27 年度）

学生の医学図書館利用状況(平成27年度実績)				[24時間開館]
曜日	学生数(人)	総利用者数(人)	学生利用率(%) [学生数/総利用者数]	1日当たりの学生利用者数(人)
平日	115,647	123,729	93	479
土曜	13,309	14,014	95	256
日曜	16,997	17,166	99	316
祝日	5,566	7,127	78	379
合計	151,519	162,036	94	419

年度	蔵書数(冊)			購入数(冊)
	和書	洋書	合計	
平成22年度	60,770	62,497	123,267	3,188
平成23年度	62,900	63,257	126,157	2,763
平成24年度	63,993	63,842	127,835	2,582
平成25年度	65,614	64,465	130,079	2,132
平成26年度	66,315	64,629	130,944	1,744
平成27年度	66,573	64,552	131,125	2,013

\* 電子ジャーナル、データベース、外国雑誌の毎年の度重なる高騰により、図書を購入する予算が圧迫されており、医学部、附属病院から補助金を受けている。  
 \* 蔵書数に関しては、書架スペースの問題から随時重複図書等の廃棄を行っているため、若干の伸びにとどまっている。

■ 医学図書館の増改修状況

第1期に引き続き、学生の学修支援の基盤となるラーニングコモンズ機能を向上するため、医学図書館では学習スペース拡大のための増改築、言語開発センターの設置を行った。

●医学図書館

1. 第2期増築(情報工房 14室)  
 (開館)平成23年  
 (面積)3,015㎡ (旧 2,484㎡)  
 (座席)427席 (旧 287席)  
 14室(各室 最大10名程度として、140席を加算。実際の利用では各室3から6名程度で、チュートリアル授業時やゼミなどでは10名程度で利用。)  
 (特徴)少人数グループ学習室14室を増築し、小規模ゼミ・グループ学習などの環境改善

2. 改築・改修  
 言語開発センター、2階閲覧室  
 (開設)平成26年  
 (面積)3,307㎡ (旧 3,015㎡)  
 (特徴)・言語開発センターを開設し、個別ブース、多目的演習室、DVDステーションなど自主的語学学習に適した教材や設備の提供  
 ・2階閲覧室の参考図書室等を改修・整備し、開架用書架の増設

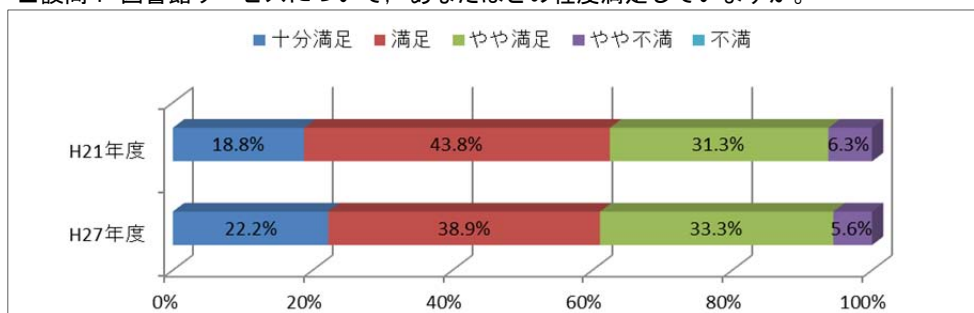
(事務局資料)

資料 1-1-18 平成 21 年度、平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査（学生支援）

学生支援に対する満足度は第 1 期から高い水準にあったが、第 2 期の最終年度に当たる平成 27 年度の調査において、ほとんどの項目で満足度が上がっている<sup>※</sup>。

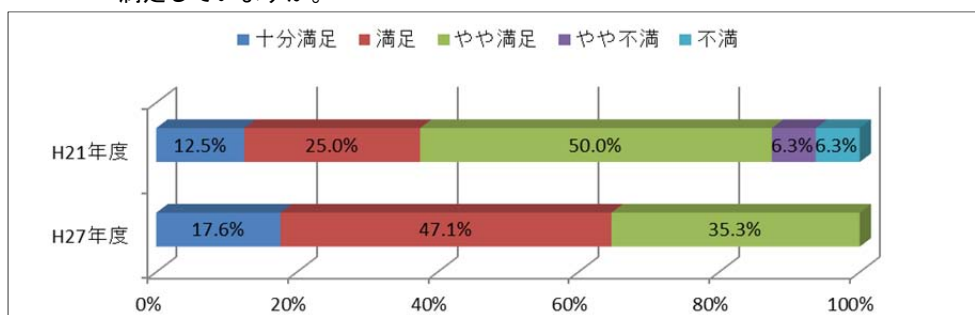
（注：全学対象調査より、医学系研究科大学院生を抽出）

■設問：図書館サービスについて、あなたはどの程度満足していますか。



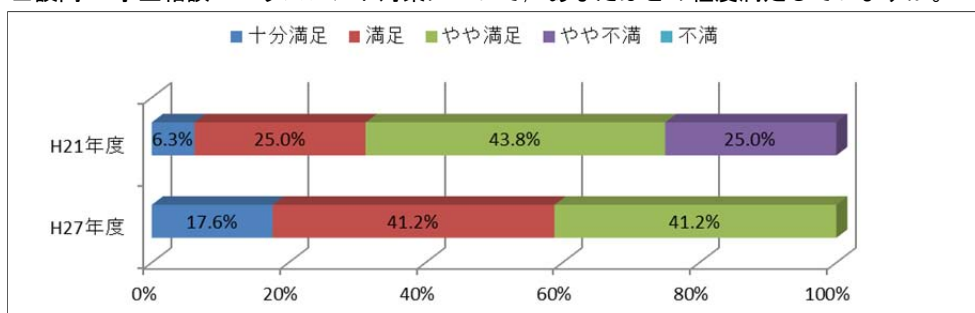
※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度(十分～やや満足と回答した割合)は、0.7%向上している。

■設問：教育支援（指導・助言教員、オフィスアワー等）について、あなたはどの程度満足していますか。



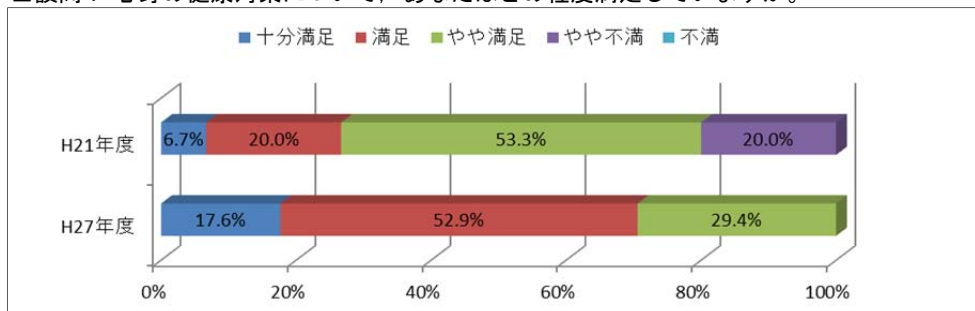
※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度(十分～やや満足と回答した割合)は、12.5%向上している。特に十分満足および満足と回答した割合は27.2%向上した。

■設問：学生相談・ハラスメント対策について、あなたはどの程度満足していますか。



※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度(十分～やや満足と回答した割合)は、25.0%向上している。やや不満および不満と回答した割合は0%となった。

■設問：心身の健康対策について、あなたはどの程度満足していますか。



※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度(十分～やや満足と回答した割合)は、20.0%向上している。やや不満および不満と回答した割合は0%となった。

（平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋）

【研究指導体制】

博士・修士課程ともに大学院生ごとに一人の主指導教員だけでなく副指導教員を置く指導体制となっている（資料 1-1-19, 20）。博士課程においては、改組により 1 専攻に統合したことにより、コースを越えた横断的指導がより効果的に行える体制となり、大学院生の満足度も良好である（資料 1-1-21, P5-7 前掲資料 1-1-4, P5-10 前掲資料 1-1-8）。

資料 1-1-19 副指導教員制度を定めた規則

大学院博士課程の指導教員の 2 人制に関する申合せ	
<p>大学院医学系研究科博士課程の学生は、学位論文作成に対する指導を受けるため、所属の主指導教員と相談の上 1 名の副指導教員を当教員了承のもと所属領域外より選ぶことが望ましい。</p> <p>大学院学生は副指導教員を選んだ場合は、その教員名を学務室へ届け出る。</p> <p>研究テーマの変更があれば、大学院学生と主指導教員の希望で副指導教員の変更は可能とする。</p> <p>副指導教員は大学院博士課程の担当教員とし、少なくとも半年に一度は主指導教員とともに大学院学生の指導・相談にあたるものとする。</p> <p>副指導教員は単なる半年に一度程度の指導・相談によって、当該論文の共著者たることを求めないことを原則とする。</p>	
福井大学大学院医学系研究科修士課程担当教員に関する申合せ（一部抜粋）	
<p>福井大学大学院医学系研究科修士課程（以下「修士課程」という。）の教育を担当する教員に関し、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>（副指導教員）</p> <p>第 3 研究指導を行う上で、指導教員が有益と認める場合は、副指導教員を置くことができる。</p> <p>2 副指導教員は、「特別研究」を担当する教授、准教授、講師又は助教の中から、修士課程委員会の議を経て、学生ごとに定める。</p>	

（事務局資料）

資料 1-1-20 副指導教員制度適用状況

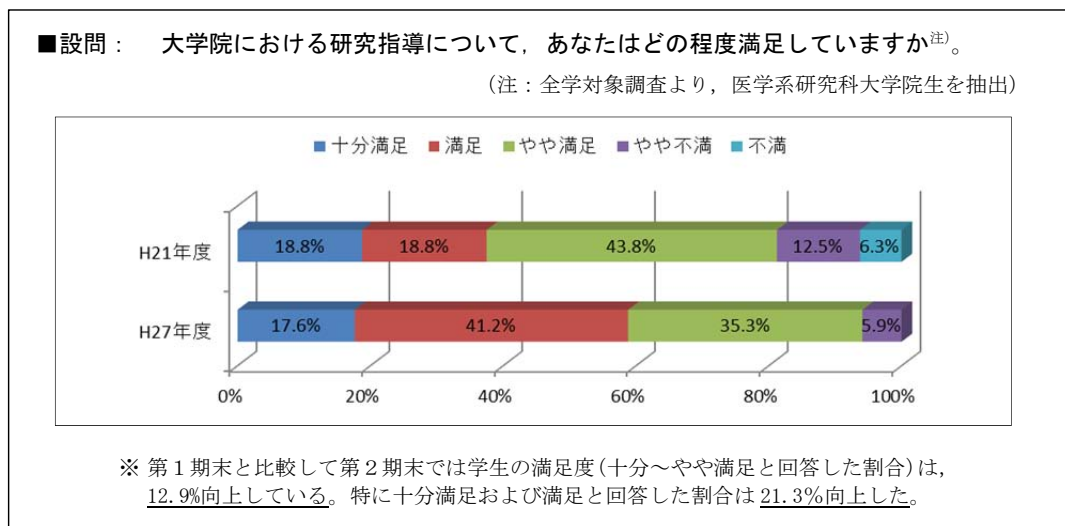
区 分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	計	備 考
博士課程	10	14	8	20	19	14	85	
	16	27	25	25	26	25	144	
修士課程	7	1	1	0	0	8	17	2 年次に副指導教員を決定
	12	11	10	12	14	12	71	
医学系研究科計	17	15	9	20	19	22	102	
	28	38	35	37	40	37	215	

（注）各区分の下欄は、各年度の入学者数

博士課程においては、主に臨床医学系領域に所属する学生が基礎医学系領域教員を副指導教員に選ぶことが多い。また、このようにして選ばれた副指導教員は学位論文の共著者にならないことで、自由な立場から意見が述べられることに特徴がある。

（事務局資料）

資料 1-1-21 平成 21 年度, 平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査 (研究指導)



(平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

●多様な教員の確保の状況とその効果に関する例

【教育目的を実現するための教員構成】

医学系研究科の教員は医学部及び関連施設教員が兼務している。研究指導教員及び研究指導補助教員の配置数は、大学院設置基準第 9 条の規定に適合しており、大学院課程を遂行するために必要な教員が確保されている (資料 1-1-22)。また、博士・修士の両課程ともニーズに応じた最新の知見等を教授する必要があるため、精選した内容に関して学外から非常勤講師を招聘している (資料 1-1-23)。

資料 1-1-22 医学系研究科における教員の配置状況

(人) 平成27年5月1日現在

区分	平成11年文部省告示第175号に定める教員数		研究指導教員数			研究指導補助教員数				合計	備考	
	研究指導教員数	その他の教員組織	教授	准教授	計	教授	准教授	講師	助教			計
博士課程 統合先進医学専攻	30	研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて60以上とする。	41	12	53		21	5	33	59	112	
修士課程 看護学専攻	6	研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて12以上とする。	8		8		6	4	1	11	19	

※ 関連施設教員 (ライフサイエンスイノベーション推進機構 (生命科学 複合研究教育センター, トランスレーショナルリサーチ推進センター, ライフサイエンス支援センター), 高エネルギー医学研究センター及び子どものこころの発達研究センター教員) 含む

※ 教授については、公募制であり大学院教育を担当するのに必要な教育研究業績を有する優秀な教員を採用している。

(事務局資料)

# 福井大学医学系研究科 分析項目 I

資料 1-1-23 医学系研究科 (博士・修士) 非常勤講師一覧

年度	専攻科目	氏名	本務先	役職名	勤務形態	担当科目		
22	先心病用医学専攻	田中 雅人	株式会社システムエッジ	代表取締役	後期 2			
		新藤 明人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		山口 功	学校法人物産学院	専任教員	後期 2			
		大沢 正幸	放射線医学総合研究所	研究員	前期 2			
		松本 由夫	放射線医学総合研究所	シニアフロッダー	前期 2			
		高橋 隆夫	九州大学大学院医学研究科	助教	前期 2			
		加藤 祐志	中部大学学生健康科学部	教授	後期 2			
		工川 清文	東京慈恵会医科大学	非常勤講師	後期 2			
		菅原 正清	富山大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		成宮 亮	京都大学大学院医学研究科	助教	後期 2			
		大塚 和子	立命館大学大学院医学研究科	助教	後期 2			
		大塚 博	富山大学大学院医学研究科	准教授	後期 2			
		23	先心病用医学専攻	福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
				田中 雅人	株式会社システムエッジ	代表取締役	後期 2	
				玉城 美英	北海道大学大学院医学研究科	教授	後期 2	
				中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部	教授	後期 2	
				松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2	
				山口 功	学校法人物産学院	専任教員	後期 2	
高田 伸弘	福井大学医学部			シニアフロッダー	前期 2	計34		
大沢 正幸	放射線医学総合研究所			研究員	後期 2			
工藤 康	長崎大学大学院看護学総合研究科			教授	後期 2			
佐賀 慎夫	放射線医学総合研究所			フレッダー	後期 2			
藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター			センター長	後期 2			
榎本 善介	放射線医学総合研究所			教授	後期 2			
岡田 仁	日本赤十字社血液センター中央血液研究所			研究開発部長	後期 2			
清水 重昭	京都大学血液腫瘍学系研究科			教授	後期 2			
柳 茂	東京医科大学生命科学部			教授	後期 2			
24	先心病用医学専攻			大沢 正幸	放射線医学総合研究所	研究員	後期 2	
				榎本 善介	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	センター長	後期 2	
				藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	センター長	後期 2	
		福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2			
		河原 和夫	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	教授	後期 2			
		玉城 美英	北海道大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部	教授	後期 2			
		松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		山口 功	学校法人物産学院	専任教員	後期 2			
		高田 伸弘	福井大学医学部	シニアフロッダー	前期 2	計32		
		八木 秀男	兵庫県立大学	教授	後期 2			
		上原 雅隆	富山県立大学	准教授	後期 2			
		工藤 康	長崎大学大学院看護学総合研究科	教授	後期 2			
		堀田 博	神戸大学医学部	教授	後期 2			
		小室 雅司	(元) 早稲田大学人間科学部	教授	前期 2			
		八木 洋行	福島県立医科大学	教授	前期 2			
		25	先心病用医学専攻	榎本 善介	放射線医学総合研究所	教授	後期 2	
				大沢 正幸	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	センター長	後期 2	
松原 雅人	九州大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
佐多 肇太郎	富山県衛生研究所			所長	後期 2			
武田 忠司	北海道大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
田嶋 和仁	東京大学大学院工学系研究科			助教	後期 2			
野村 博行	東京大学大学院工学系研究科			教授	後期 2			
松下 昌樹	(元) 筑波大学大学院研究センター			主任研究員	後期 2			
榎本 善介	放射線医学総合研究所			教授	後期 2			
小室 雅司	富山大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
関口 徳男	奈良大学理学部日本地域環境研究センター			臨床実務 助教	前期 2			
村松 昭弘	福井大学分子イメージング研究センター			特任教授	後期 2			
榎本 善介	放射線医学総合研究所			フレッダー	後期 2			
藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター			センター長	後期 2			
八木 秀男	兵庫県立大学医学部			准教授	前期 2			
福寺 秀邦	富山大学医学部			教授	前期 2			
26	先心病用医学専攻			上原 雅隆	富山県立大学	助教	後期 2	
				福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
		中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部	教授	後期 2			
		松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		山口 功	学校法人物産学院	専任教員	後期 2			
		西山 康	京都大学大学院医学研究科	内科 講師	後期 2			
		高田 伸弘	福井大学医学部	准教授	前期 2	計4		
		尾崎 博	東京大学大学院医学系生命科学研究科	教授	前期 2			
		中野 雅光	富山大学医学部	教授	前期 2			
		村山 千恵子	東京大学医学部	講師	後期 2			
		水田 浩志	九州大学大学院医学研究科	学術研究員	前期 4			
		林 康紀	理化学研究所放射線総合研究センター	チームリーダー	前期 2			
		海老原 安寿夫	名古屋大学大学院医学系生命科学研究科	特任教授	後期 2			
		藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	特任教授	後期 2			
		野村 博行	東京大学大学院工学系研究科	特任教授	後期 2			
		中村 祥一郎	久米大学医学部	教授	後期 2			
		27	先心病用医学専攻	工藤 康	長崎大学大学院看護学総合研究科	教授	前期 2	
				福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
河原 和夫	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科			教授	後期 2			
玉城 美英	北海道大学大学院医学研究科			特任教授	後期 2			
中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部			教授	後期 2			
松原 雅人	九州大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
山口 功	学校法人物産学院			専任教員	後期 2			
水田 浩志	九州大学大学院医学研究科			助教	前期 4			
上原 雅隆	富山県立大学			助教	後期 2			
西山 康	京都大学大学院医学研究科			内科 講師	後期 2			
Robert O Abbott	滋賀医科大学アジア研究センター			特任教授	前期 2			
鈴木 一徳	熊本大学医学部附属病院			准教授	後期 2			
松浦 博	滋賀医科大学医学部			教授	後期 2			
新井 一郎	日本医科大学医学部			教授	後期 2			
28	先心病用医学専攻			榎本 善介	放射線医学総合研究所	教授	後期 2	
				大沢 正幸	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	センター長	後期 2	
				松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2	
				佐多 肇太郎	富山県衛生研究所	所長	後期 2	
		武田 忠司	北海道大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		田嶋 和仁	東京大学大学院工学系研究科	助教	後期 2			
		野村 博行	東京大学大学院工学系研究科	教授	後期 2			
		松下 昌樹	(元) 筑波大学大学院研究センター	主任研究員	後期 2			
		榎本 善介	放射線医学総合研究所	教授	後期 2			
		小室 雅司	富山大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		関口 徳男	奈良大学理学部日本地域環境研究センター	臨床実務 助教	前期 2			
		村松 昭弘	福井大学分子イメージング研究センター	特任教授	後期 2			
		榎本 善介	放射線医学総合研究所	フレッダー	後期 2			
		藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	センター長	後期 2			
		八木 秀男	兵庫県立大学医学部	准教授	前期 2			
		29	先心病用医学専攻	上原 雅隆	富山県立大学	助教	後期 2	
				福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
				中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部	教授	後期 2	
松原 雅人	九州大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
山口 功	学校法人物産学院			専任教員	後期 2			
西山 康	京都大学大学院医学研究科			内科 講師	後期 2			
高田 伸弘	福井大学医学部			准教授	前期 2	計4		
尾崎 博	東京大学大学院医学系生命科学研究科			教授	前期 2			
中野 雅光	富山大学医学部			教授	前期 2			
村山 千恵子	東京大学医学部			講師	後期 2			
水田 浩志	九州大学大学院医学研究科			学術研究員	前期 4			
林 康紀	理化学研究所放射線総合研究センター			チームリーダー	前期 2			
海老原 安寿夫	名古屋大学大学院医学系生命科学研究科			特任教授	後期 2			
藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター			特任教授	後期 2			
野村 博行	東京大学大学院工学系研究科			特任教授	後期 2			
中村 祥一郎	久米大学医学部			教授	後期 2			
30	先心病用医学専攻			工藤 康	長崎大学大学院看護学総合研究科	教授	前期 2	
				福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
		河原 和夫	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	教授	後期 2			
		玉城 美英	北海道大学大学院医学研究科	特任教授	後期 2			
		中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部	教授	後期 2			
		松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		山口 功	学校法人物産学院	専任教員	後期 2			
		水田 浩志	九州大学大学院医学研究科	助教	前期 4			
		上原 雅隆	富山県立大学	助教	後期 2			
		西山 康	京都大学大学院医学研究科	内科 講師	後期 2			
		Robert O Abbott	滋賀医科大学アジア研究センター	特任教授	前期 2			
		鈴木 一徳	熊本大学医学部附属病院	准教授	後期 2			
		松浦 博	滋賀医科大学医学部	教授	後期 2			
		新井 一郎	日本医科大学医学部	教授	後期 2			
		31	先心病用医学専攻	榎本 善介	放射線医学総合研究所	教授	後期 2	
				大沢 正幸	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	センター長	後期 2	
				松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2	
				佐多 肇太郎	富山県衛生研究所	所長	後期 2	
武田 忠司	北海道大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
田嶋 和仁	東京大学大学院工学系研究科			助教	後期 2			
野村 博行	東京大学大学院工学系研究科			教授	後期 2			
松下 昌樹	(元) 筑波大学大学院研究センター			主任研究員	後期 2			
榎本 善介	放射線医学総合研究所			教授	後期 2			
小室 雅司	富山大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
関口 徳男	奈良大学理学部日本地域環境研究センター			臨床実務 助教	前期 2			
村松 昭弘	福井大学分子イメージング研究センター			特任教授	後期 2			
榎本 善介	放射線医学総合研究所			フレッダー	後期 2			
藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター			センター長	後期 2			
八木 秀男	兵庫県立大学医学部			准教授	前期 2			
32	先心病用医学専攻			上原 雅隆	富山県立大学	助教	後期 2	
				福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
				中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部	教授	後期 2	
		松原 雅人	九州大学大学院医学研究科	教授	後期 2			
		山口 功	学校法人物産学院	専任教員	後期 2			
		西山 康	京都大学大学院医学研究科	内科 講師	後期 2			
		高田 伸弘	福井大学医学部	准教授	前期 2	計4		
		尾崎 博	東京大学大学院医学系生命科学研究科	教授	前期 2			
		中野 雅光	富山大学医学部	教授	前期 2			
		村山 千恵子	東京大学医学部	講師	後期 2			
		水田 浩志	九州大学大学院医学研究科	学術研究員	前期 4			
		林 康紀	理化学研究所放射線総合研究センター	チームリーダー	前期 2			
		海老原 安寿夫	名古屋大学大学院医学系生命科学研究科	特任教授	後期 2			
		藤林 康久	放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター	特任教授	後期 2			
		野村 博行	東京大学大学院工学系研究科	特任教授	後期 2			
		中村 祥一郎	久米大学医学部	教授	後期 2			
		33	先心病用医学専攻	工藤 康	長崎大学大学院看護学総合研究科	教授	前期 2	
				福寺 秀邦	富山大学医学部	教授	後期 2	
河原 和夫	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科			教授	後期 2			
玉城 美英	北海道大学大学院医学研究科			特任教授	後期 2			
中平 浩人	新潟県立大学看護福祉心理学部			教授	後期 2			
松原 雅人	九州大学大学院医学研究科			教授	後期 2			
山口 功	学校法人物産学院			専任教員	後期 2			
水田 浩志	九州大学大学院医学研究科			助教	前期 4			
上原 雅隆	富山県立大学			助教	後期 2			
西山 康	京都大学大学院医学研究科			内科 講師	後期 2			
Robert O Abbott	滋賀医科大学アジア研究センター			特任教授	前期 2			
鈴木 一徳	熊本大学医学部附属病院			准教授	後期 2			
松浦 博	滋賀医科大学医学部			教授	後期 2			
新井 一郎	日本医科大学医学部			教授	後期 2			

(事務局資料)



## ●入学者選抜方法の工夫とその効果に関する例

## 【入学者募集方針】

博士・修士課程ともにアドミッション・ポリシー(AP)を設定し、大学ホームページ、学生募集要項、大学院案内に掲載し周知している(資料 1-1-24(1), 24(2))。また、全ての試験に面接(口頭試問)を課し、APに沿った入学者選抜に努めるとともに、適宜改善を図っている。特に修士課程では、一般選抜と社会人特別選抜を実施しており、個別学力検査、面接及び学業成績証明書の内容で総合的に選抜している(資料 1-1-25, 26)。

なお、博士課程では、学修成果や社会ニーズに基づき平成 25 年度の改組時に定員を 30 名から 25 名に適正化した(資料 1-1-27)。

## 資料 1-1-24(1) 博士課程アドミッション・ポリシー(一部抜粋)

<p>1 アドミッション・ポリシー</p> <p>■求める学生像</p> <p>理念・目標を達成するために、 博士課程では、</p> <p>① 医学・生命科学領域において、科学的・論理的な思考で高い水準の研究の遂行・発信を目指す人</p> <p>② 各医療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な臨床技能を備えた医学研究者を目指す人</p> <p>③ 研究・教育指導の出来る卓越した総合診療医・ER救急医・家庭医を目指す人を求めています。</p> <p>■入学者選抜の基本方針</p> <p>博士課程では、将来、医療ならびに関連分野の中核として活躍する多くの人材を育成するため、以下のように入学の門戸を広げています。</p> <p>① 入学の時期：春季(4月)と秋季(10月)の年2回とし、それに合わせて入学試験を年2回行っています。</p> <p>② 出願資格：大学の医学、歯学又は修業年限6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者だけでなく、他学部卒業者及び短大や専修学校修了者に対しても、教育、研究又は診療に従事した期間の研究業績を持って、卒業と同等以上の学力があると審査した者には出願資格を認めています。</p> <p>③ 学力検査等：筆記試験(英語)と志望する専攻・部門(コース)についての口頭試問を行い、語学力及び専門的知識を評価します。</p> <p style="text-align: center;"><a href="http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/admi_policy/med03/">http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/admi_policy/med03/</a></p>
--

(事務局資料)

資料 1-1-24(2) 修士課程アドミッション・ポリシー(一部抜粋)

<p>1 アドミッション・ポリシー</p> <p><b>■求める学生像</b>                  理念・目標を達成するために、                  修士課程では、</p> <p>① 高度な専門性を有しかつ社会性に富み、                  ② 地域医療に貢献する志を持ち、                  ③ 新たな課題に取り組み、研究能力を身につける意欲がある人を求めています。</p> <p><b>■入学者選抜の基本方針</b>                  修士課程では、「求める学生像」にふさわしい者を選抜するため、多様な観点から受験者の学力や資質を評価します。また、全ての試験に面接を課し、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜に努めています。</p> <p>① 一般選抜                  大学を卒業した者及び同等以上の学力があると認められた者に対し、個別学力検査及び面接並びに学業成績証明書の内容を総合して選抜します。                  個別学力検査では、志望する研究領域における専門的知識、語学力を評価します。</p> <p>② 社会人特別選抜                  大学を卒業した者及び同等以上の学力があると認められた者で、看護師、保健師又は助産師の免許を有し、一定期間の看護実務経験を有する者に対し、個別学力検査及び面接並びに学業成績証明書の内容を総合して選抜します。                  個別学力検査では、論理的思考力を評価します。</p> <p style="text-align: right;"><a href="http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/admi_policy/med02/">http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/admi_policy/med02/</a></p>
---

(事務局資料)

資料 1-1-25 大学院医学系研究科入学者選抜の種類と方法(平成28年度入学生)

課程	選抜の種類と方法	実施期日
修士課程	一般選抜(募集人員12名(社会人特別選抜を含む)) 【学力検査(専門科目, 英語, 面接), 書類審査(成績証明書)】	第1回:平成27年9月1日 第2回:平成28年2月19日 第3回(2次募集):平成28年3月3日
	社会人選抜(一般選抜と併せて募集人員12名) 【学力検査(小論文, 面接), 書類審査(成績証明書)】	
博士課程	一般選抜(募集人員:25名) 【学力検査(筆記試験, 口頭試問), 書類審査(成績証明書)】	第1回:平成27年9月1日 第2回:平成28年2月19日
	秋季(10月)入学(一般選抜と併せて募集人員25名) 【学力検査(筆記試験, 口頭試問), 書類審査(成績証明書)】	秋季入学:平成27年9月1日

(事務局資料)

資料 1-1-26 大学院医学系研究科入学者選抜方法等の改善について

年度	博士課程	修士課程
平成22年度 (平成23年度入試)	・「初期研修同時履修コース」を開始	
平成23年度 (平成24年度入試)	・各専攻の募集定員を統一化	
平成24年度 (平成25年度入試)	・1専攻3コースに改組 ・募集人員の適正化(5名減) ・出願資格に修業年限6年の薬学を追加	
平成25年度 (平成26年度入試)		・災害看護学領域を追加 ・第1回, 第2回入学試験とし, 募集要項を年1冊合冊に変更
平成26年度 (平成27年度入試)	・募集要項を英文併記で作成, 公表 ・出願資格審査及び出願様式の一部を大学ウェブサイトからダウンロード可能	・災害看護専門看護師(CNS)教育課程の募集を開始 ・出願資格審査及び出願様式の一部を大学ウェブサイトからダウンロード可能
平成27年度 (平成28年度入試)		・「がん看護専門看護師(CNS)教育課程」の募集を開始

(事務局資料)

資料 1-1-27 博士課程 入学定員の見直し・適正化状況

福井大学大学院医学系研究科（博士課程）の改組について（決定）

福井大学大学院医学系研究科の改組（平成 25 年 4 月から）について、平成 24 年 8 月 28 日に設置報告書が文部科学省に受理され、正式に決定した。

（博士課程）

現在の 2 専攻を下表のとおり 1 専攻に統合する。平成 25 年 4 月入学者は全員「統合先進医学専攻」に入学することとなる。

（旧）		➔	（新）	
専攻名	定員		専攻名	定員
医科学専攻	5		<b>統合先進医学専攻</b>	<b>25</b>
先端応用医学専攻	25			

（事務局資料）

【入学者確保と選抜】

- ① 入学者を確保するために広報を積極的に行うとともに、修学及び経済的サポートを行った。第 1 期と比べ大学院生の経済的支援に対する満足度は向上している（資料 1-1-28～39）。

資料 1-1-28 大学院医学系研究科における入学者確保の工夫について

博士課程	修士課程
大学院案内：博士課程2013版発行＜英文併記＞ (平成22年度作成) (資料1-1-29)	
大学院案内：博士課程2014改定，修士課程版作成 大学ホームページにデジタルパンフレットとして公開 (平成23年度作成) (資料1-1-29, 30)	
平成26年度秋季(10月)入学・平成27年度第1回・第2回募集要項の英文併記 (資料1-1-31) (平成26年度作成)	
平成27年度募集要項(博士課程，修士課程)の出願書類様式のダウンロードサービス開始 (平成26年度) <a href="http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/med/med04/grad_guideline/">http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/med/med04/grad_guideline/</a> <a href="http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/med/med03/grad_guideline/">http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/med/med03/grad_guideline/</a>	
秋季入学の実施 外国人留学希望者や勤務状況に合わせ，10月入学も実施している。 (資料1-1-31, 32)	社会人特別選抜の実施 現役看護師のスキルアップ，地域医療現場のリーダーの輩出を目指す (資料1-1-33)
	県内外の総合病院等を訪問 (平成22年度入学生の確保のため平成21年度より実施) ・志願者の獲得のため，大学院への進学及び看護キャリアアップセンターの認定 看護師課程，人材育成部門の看護実践能力開発講座について情報を提供 ・現場の声の聞き取り調査 (資料1-1-34)
	選抜方法の改正 学校教育を離れた社会人学生の受験を促すため，英文出題のみとしていた社会人特別選抜の小論文試験を，平成22年度入試より，和文でも出題 (資料1-1-35)
修学サポート	
[長期履修制度] 標準就業年限を越えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修 (P5-13 前掲資料1-1-12～14)	
[夜間開講] 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例 昼夜開講制による授業を実施。授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に履修することができる。 (資料1-1-36)	
[医学図書館の24時間開館] 閉館時の無人開館を実施。原則24時間利用可となっており，社会人大学院生が勤務後に利用しやすい環境が整えられている。 (P5-16 前掲資料1-1-17)	

(事務局資料)

資料 1-1-29 大学院案内

## UNIVERSITY OF FUKUI

### Graduate School of Medical Sciences

福井大学大学院  
医学系研究科  
博士課程  
2015



 福井大学  
UNIVERSITY OF FUKUI

研究科長メッセージ Message from Dean



福井大学大学院医学系研究科 研究科長  
Dean, Graduate School of Medical Sciences  
University of Fukui

山口 明夫  
Akiyo Yamaguchi

本研究科は医学、先端応用医学、地域総合医療学の3コースよりなる総合先進医学専攻として組織されています。医科学コースは独創性・創造性に優れ、自立して活躍できる研究者を、先端応用医学コースでは卓越した臨床研究能力と先端的で高度な専門的スキルを備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医の養成に努めます。地域総合医療学コースは地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた総合診療医・内科救急医・家庭医を養成する目的で、国立大学では初めて設置されました。従来の研究主体となる博士課程とは異なり、地域医療をリードするジェネラリストの養成が目的で、この分野に興味があり、将来指導的立場を目指す人を求めています。

本研究科には親身になって世話をする優秀な教員が多く、履修の教員による指導体制を整備して、専攻に誇れない柔軟な対応、支援により質の高い教育を受けることができますと確信しています。ライフサイエンス支援センターには動物実験施設や各種の大型機器を設置し、また全学組織である高エネルギー医学研究センターや子どもこころの発達研究センターとも連携が可能な、先進した研究生活ができる環境を整えています。

多くの人が本学医学系研究科に入って、大きく育ち、21世紀のグローバル社会において、国際的にも活躍できる人材として選ばれたことを期待しています。

The Graduate School of Medical Science is dedicated to Integrated and Advanced Medical Sciences and offers three courses: the Life Sciences Course, the Advanced Biomedical Sciences Course, and the Comprehensive Community Medicine Course. The Life Sciences Course is aimed at nurturing original and creative researchers who can work independently, whereas the Advanced Biomedical Sciences Course is focused on producing clinicians with sophisticated clinical expertise. The Comprehensive Community Medicine Course has been established to produce General Physicians, Emergency Physicians, and Family Physicians with clinical research abilities and educational leadership who can contribute to their local communities. Unlike conventional PhD courses in which research is the main focus, the aim of this course is to train Generalist Physicians who can guide the healthcare of local communities.

The Graduate School of Medical Sciences has a system in place where by a high level of education can be provided by our excellent teaching staff. This system also creates an excellent environment for students to fulfill all of their research needs.

Our hope is that students who are interested in learning will join us at The Graduate School of Medical Sciences, a place where we feel that they will flourish in our globalized 21st Century society.

< 博士課程大学院案内 > 英語を併記

## UNIVERSITY OF FUKUI

### Graduate School of Medical Sciences, Master's Program in Nursing

福井大学大学院  
医学系研究科  
修士課程  
看護学専攻  
2015



 福井大学  
UNIVERSITY OF FUKUI

(事務局資料)

資料 1-1-30 医学系研究科 大学院案内デジタルパンフレットホームページ掲載状況



(事務局資料)

資料 1-1-31 博士課程募集要項 (抜粋)

■平成 26 年度秋季 (10 月) 入学および平成 27 年度募集要項 (平成 26 年度作成) より英文併記

平成27年度 秋季(10月)入学  
平成28年度 第1回・第2回  
Admission for October 2015  
Admission for April 2016, 1<sup>st</sup> time and 2<sup>nd</sup> time

大学院医学系研究科 (博士課程)  
Graduate School of Medical Sciences  
(Doctoral Program)

**学生募集要項**  
**Admission Guidelines**

平成27年 6 月  
June 2015

創造力、実践力。  
国立大学法人  
**福井大学**  
UNIVERSITY OF FUKUI

history.  
Examination: We evaluate the applicant's language ability and expert knowledge through an English examination and interview and through their knowledge of their desired field.

**2. Number of Students to Be Admitted**

	October 2015	April 2016
Integrated and Advanced Medical Course	7 students	Total 25 students

**3. Term of Admission**  
October 2015 or April 2016

**4. Qualifications for Application**

- (1) A person who has graduated or will graduate from a university (which has a course in medical science or dental science, or a 6-year course in pharmaceutical science or veterinary science) by March 2016 (September 2015 for an Examinee for fall 2015).
- (2) A person who has completed or will complete an 18-year course of school education in a foreign country by March 2016 (September 2015 for an Examinee for fall 2015).
- (3) A person who has completed or will complete an 18-year course in a foreign country's school education system taking class subjects in Japan through correspondence courses run by the said foreign educational establishments by March 2016 (September 2015 for an Examinee for fall 2015).
- (4) A person who has completed a foreign country's university course at an educational institution in Japan (limited to persons who have completed an 18-year course of school education which is designated in the said foreign country's education system as having a foreign university's curriculum and specifically designated in the said foreign country's education system as having a foreign university's curriculum and specifically designated by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan).
- (5) A person designated by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan.  
(Notification No. 39 of the Ministry of Education, 1955)  
(Note) The designated person above refers to a person who falls under any of the following provisions.  
(a) A person who has completed medical science or dental science courses at the faculty of medicine or dentistry of a university under the old University Ordinance (Imperial Ordinance No. 388 of 1918), and who has graduated from these faculties.  
(b) A person who has graduated or will graduate from the National Defense Medical College under the Act for Establishment of the Ministry of Defense (Act No. 164 of 1954).

-21-

(平成 27 年度秋季 (10 月) 入学および平成 28 年度募集要項より抜粋)

資料 1-1-32 博士課程における秋季入学の状況

(人)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計	備考
	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	秋季入学者数 (全入学者数)	
博士課程	6	12	6	11	11	7	53	
	16	27	27	25	26	25	146	

(事務局資料)



資料 1-1-33 修士課程募集要項表紙及び出願資格

平成 27 年度

大学院医学系研究科  
看護学専攻（修士課程）

**学生募集要項**

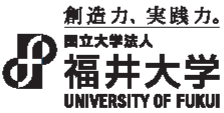
〔一般選抜・社会人特別選抜〕

**5 出願資格**

(1) 一般選抜

(2) 社会人特別選抜

「(1) 一般選抜」の出願資格のいずれかに該当する者で、看護師、保健師又は助産師の免許を有し、平成 27 年 4 月 1 日時点で、看護実務経験 3 年以上を有するもの及び有することを見込めるもの



創造力、実践力。  
福井大学  
UNIVERSITY OF FUKUI

(事務局資料)

資料 1-1-34 修士課程病院等 PR 訪問実績及び出願状況

訪問先	21年度訪問	H22年度入試 受験者数	22年度訪問	H23年度入試 受験者数	23年度訪問	H24年度入試 受験者数	24年度訪問	H25年度入試 受験者数	25年度訪問	H26年度入試 受験者数	26年度訪問	H27年度入試 受験者数	27年度訪問	H28年度入試 受験者数
国立病院機構 あわら病院	○	2	○		○	1	○		○		○		○	
杉田玄白記念 公立小浜病院	○		○		○				○		○		○	
公立丹南病院	○		○		○		○	1	○	1	○		○	
国立病院機構 敦賀医療センター(福井病院)	○		○		○		○						○	
市立敦賀病院(敦賀市立看護専門学校)	○		○		○		○	2	○		○		○	
福井愛育病院				1			○							
地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院	○		○		○		○	1	○		○		○	
福井県済生会病院	○	1	○			2	○		○	4	○	1	○	
福井県立病院	○	1	○		○		○		○	1	○	2	○	1
医療法人 福井厚生病院	○	1	○		○		○		○		○		○	
医療法人 福井看護専門学校	○		○	1	○		○		○		○		○	
福井赤十字病院	○	1	○		○	1	○	1	○	1	○	1	○	1
財団法人 福井総合病院(福井医療短期大学)	○	2	○	5	○	2	○	3	○	1	○		○	
加賀市民病院										1	○		○	
山中温泉医療センター											○			
廣行 健康福祉部地域医療課					○		○		○		○		○	
福井健康福祉センター					○		○		○		○		○	
丹南健康福祉センター(鯖江庁舎)					○		○		○		○		○	
坂井健康福祉センター					○		○		○					
奥越健康福祉センター					○									
北陸電力株式会社 福井健康管理センター							○							
訪問病院・施設数 (注)1は内数で集計	12 (0)		12 (0)		16 (0)		17 (0)		16 (0)		16 (2)		16 (1)	
<訪問施設以外を受験者数>														
福井大学医学部附属病院		4		3		4		3		2		6		7
その他				1				1		2		2		3
職歴なし										1				
受験者数 計		12		11		10		12		14		12		12

(事務局資料)

資料 1-1-35 修士課程募集要項：入学者選抜方法

**9 入学者選抜方法**

入学者の選抜方法は、一般選抜、社会人特別選抜とも、提出された成績証明書、研究志願調査及び学力検査等（筆記試験、面接）の結果を総合して合格者を決定します。

(1) 学力検査等の期日

- ・平成28年度第1回入学試験 平成27年9月1日(火)
- ・平成28年度第2回入学試験 平成28年1月22日(金)

(2) 学力検査科目等及び時間

科目等	時間	一般選抜	社会人特別選抜
専門科目 〔基礎看護学、地域看護学、成人看護学、 老年看護学、母子看護学、災害看護学〕	9：00～10：30	○	
英語	11：00～12：00	○	
小論文	11：00～12：00		○
面接	13：00～	○	○

(備考)

- ① 一般選抜における専門科目は、「基礎看護学」、「地域看護学」、「成人看護学」、「老年看護学」、「母子看護学」、「災害看護学」から第1志望の教育・研究領域の1題を含め、2題を選択し、解答してください。がん看護専門看護師（CNS）教育過程を志望する場合は、「成人看護学」を含め、2題を選択し、解答してください。
- ② 小論文は、英文及び和文を用いて出題し、和文で解答を求めます。
- ③ 英語及び小論文の試験については、英和辞書（電子辞書類を除く）1冊の持ち込みを許可します。ただし、医学辞書、参考書（単語帳を含む）等を辞書代わりに使用することは認めません。
- ④ 社会人特別選抜における面接においては、看護に関する専門知識の口頭試問を行います。

(事務局資料)

資料 1-1-36 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例（〔夜間開講〕の適用状況）

○大学院設置基準第14条(教育方法の特例)

大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
博士課程	72	91	97	99	103	113	575
修士課程	22	25	27	30	30	32	166
小計	94	116	124	129	133	145	741

(人)

(事務局資料)

資料 1-1-37 医学系研究科における入学者確保の工夫について（経済的サポート）

博士課程	修士課程
[大学院入学時成績優秀による授業料免除制度] 現職教員等又は医療機関、企業等に勤務している社会人であって、大学院入学時の成績が優秀と認められる者医学系研究科において、ATMプログラム等を利用し優秀な成績で合格したと認められる者等を対象 (別添資料1)	
[福井大学大学院医学系研究科振興奨学金] 医学系研究科の高度専門医療人育成を図ることを目的とし、医学領域又は看護領域における優れた研究・実践力を有する医療人を目指す社会人大学院生（医師を除く）対象 (別添資料2)	
[福井大学大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金] 基礎医学系分野の研究者を目指す大学院生対象 (別添資料3)	
[福井大学大学院医学系研究科画像医学振興奨学金] 画像診断分野の高度専門医療人育成を目的し、医科学コース機能画像医学に入学した大学院生を対象 (別添資料4)	
[福井大学大学院医学系研究科私費外国人留学生振興奨学金] 私費外国人留学生の経済的支援を目的 (別添資料5)	

(事務局資料)

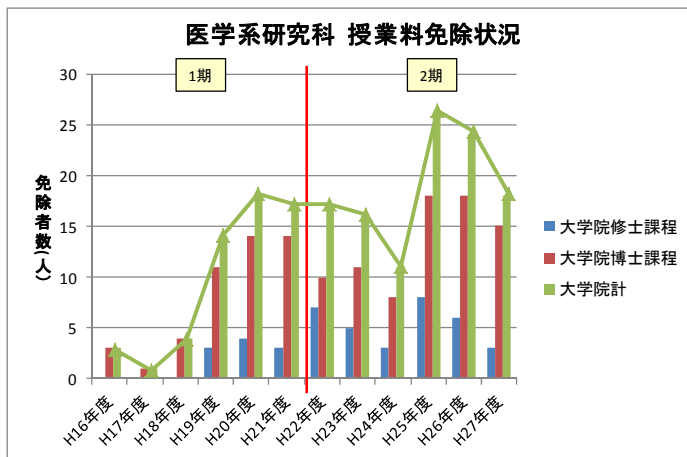
資料 1-1-38 授業料免除、奨学金等利用状況

授業料免除決定者数は第2期前半は第1期より若干減少していたが、第2期後半の平成25年度にATMプログラム等を利用し優秀な成績で合格したと認められる者の推薦可能人数を増やし、より多くの大学院生が経済的サポートを受けられるよう申合せを改正したことにより、授業料免除者数が増え、大学院生の経済的支援の拡充となっている（別添資料1）。

授業料免除者 決定者人数一覧(H16～27年度)

(人)

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
大学院修士課程	0	0	0	3	4	3	7	5	3	8	6	3
大学院博士課程	3	1	4	11	14	14	10	11	8	18	18	15
大学院計	3	1	4	14	18	17	17	16	11	26	24	18



医学系研究科大学院生対象の奨学金は、第1期の平成20年度に「医学系研究科基礎医学振興奨学金」を導入。第2期に更に「医学系研究科振興奨学金」「医学系画像医学振興奨学金」を追加導入したことによって、大学院生の経済的支援が更に拡充された。

【医学系研究科基礎医学振興奨学金】平成20年3月6日施行

内訳	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新規	1	0	0	0	0	0	0	0
継続	0	1	1	1	0	0	0	0
計	1	1	1	1	0	0	0	0

【医学系研究科振興奨学金】平成22年4月1日施行

内訳	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新規	2	1	0	0	3 (1)	1 (1)
継続	0	2	3	2	0	3 (1)
計	2 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (1)	4 (2)

\*(修士課程学:内数)

【医学系画像医学振興奨学金】平成23年4月1日施行

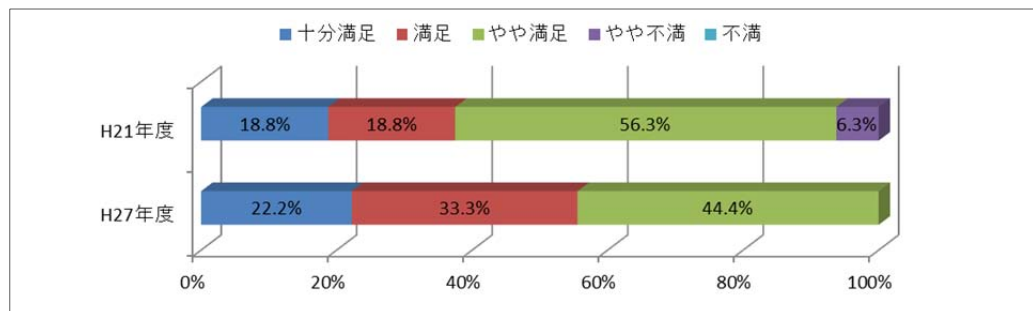
内訳	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新規	2	0	0	0	0
継続	0	2	2	2	1
計	2	2	2	2	1

(事務局資料)

資料 1-1-39 平成 21 年度、平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査（経済的支援）

■設問：奨学金・授業料免除等経済的支援について、あなたはどの程度満足していますか<sup>注)</sup>。

(注：全学対象調査より、医学系研究科大学院生を抽出)



※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度(十分～やや満足と回答した割合)は、6.3%向上している。やや不満および不満と回答した割合は 0%となった。

(平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

② 医学系研究科の第 2 期における入学定員充足率は、博士・修士課程とも第 1 期に比べ大幅に是正され、概ね適切である（資料 1-1-40, 41）。

特に、修士課程では、長期履修制度を活用した社会人学生が増えてきている（P5-13 前掲資料 1-1-14）。また、看護キャリアアップセンターの認定看護師教育課程の収容定員充足率は、概ね 100%であり、適切である（資料 1-1-42）。

資料 1-1-40 入学定員充足率の適正化に向けた改善の実施とその成果

■入学定員充足率適正化に向けた取組

博士課程における取組

①組織見直し（平成 25 年度）

- ・日本初「地域総合医療学コース」の新設を含む、2 専攻から 1 専攻 3 コースへの改組を行い、合わせて入学定員を 30 名から 25 名に適正化

②ATM (Advanced Training of Medico-research) プログラムの実施（平成 23 年度）

- ・卒後臨床研修を行いながらの大学院進学（大学院博士課程初期研修同時履修コース）
- ・学部学生による大学院講義の先取り履修（博士課程科目早期履修コース）

③留学生を対象とした私費外国人留学生振興奨学金制度の創設

④医博士課程を紹介するパンフレット（英文併記）の作成

■平成 25 年改組後の入学定員, 実入学者数

研究科名	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		直近 3 年間の平均
	入学定員 入学者	入学定員 充足率	入学定員 入学者	入学定員 充足率	入学定員 入学者	入学定員 充足率	
博士課程	25 25	1.00	25 26	1.04	25 25	1.00	1.01

修士課程における取組

①専門看護師(CNS)教育課程の開設

- ・社会ニーズを踏まえ、平成 26 年度に日本初の「災害看護 CNS 課程」を開設、翌年には「がん看護専 CNS 課程」を開設し、毎年学生の受け入れを行っている

②県内外総合病院等への PR 訪問

- ・志願者獲得のため、病院等を訪問し、大学院修士課程の入学試験及び大学院での学びについて説明し、PP を行っている

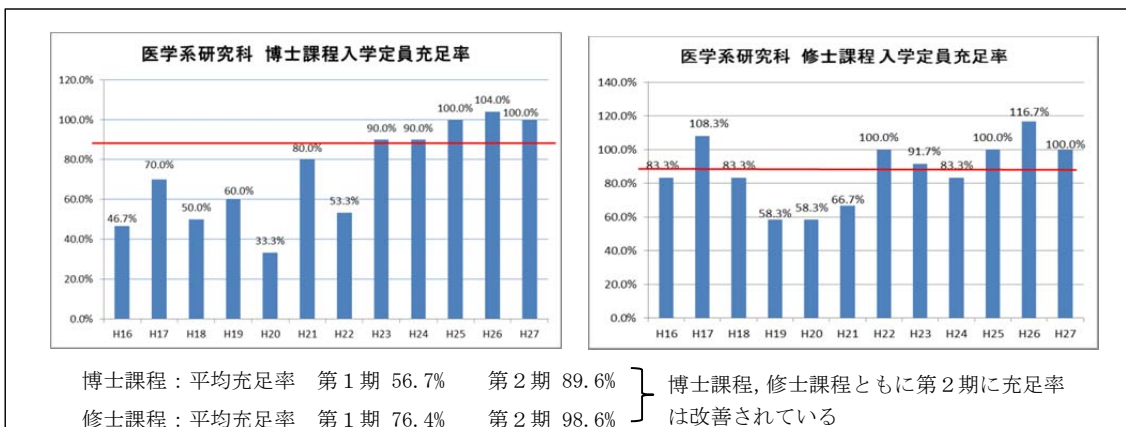
③修士課程を紹介するパンフレットの作成

■平成 25 年以降の入学定員, 実入学者数

研究科名	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		直近 3 年間の平均
	入学定員 入学者	入学定員 充足率	入学定員 入学者	入学定員 充足率	入学定員 入学者	入学定員 充足率	
修士課程	12 12	1.00	12 14	1.17	12 12	1.00	1.06

(事務局資料)

資料 1-1-41 医学系研究科における入学定員充足率



(事務局資料)

資料 1-1-42 看護キャリアアップセンター 認定看護師教育課程 収容定員充足率

課程	年度	収容定員数 (a)	学生数 (b)	収容定員充足率 (%) (b) ÷ (a) × 100	休学及び退学者
慢性呼吸器疾患看護分野	平成23年度	30	30	100.0	
	平成24年度		28	93.3	1 (退学者)
	平成25年度		29	96.7	
	平成26年度		29	96.7	
	平成27年度		24	80.0	1 (休学者)
手術看護分野	平成26年度	20	22	110.0	
	平成27年度		22	110.0	

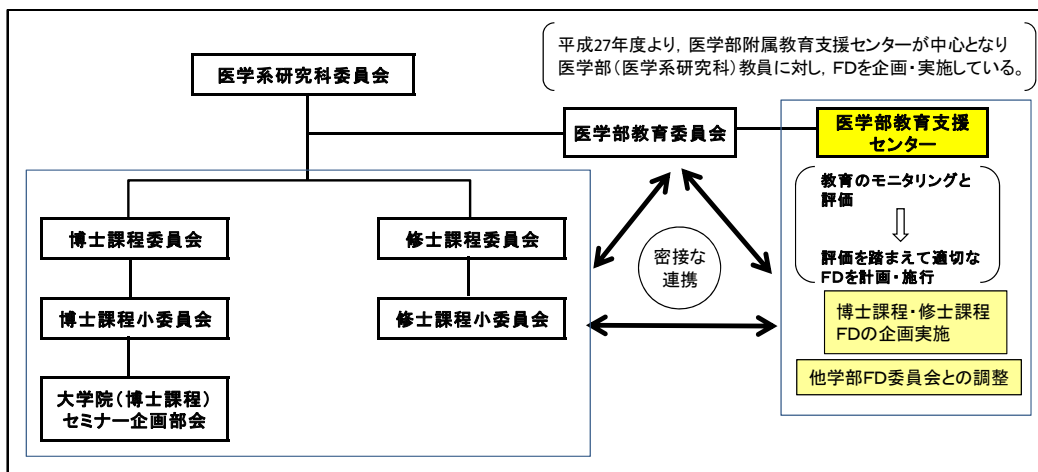
(看護キャリアアップセンター資料から)

●教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果に関する例  
【FD・教員評価】

医学系研究科の担当は学部教員の兼務であり, ファカルティ・ディベロップメント (FD) は, 大学院教育についても包括して実施している (資料 1-1-43, 44)。更に, 本学教員は FD 活動に対し高い意欲を有している (資料 1-1-45(1), 45(2))。

第1期に引き続き, 教育評価ともなる教員個人評価を実施し, その一環として, 大学院教育に対する貢献を評価している (資料 1-1-46, 47)。

資料 1-1-43 FD 体制図



(事務局資料)

資料 1-1-44 平成 27 年度 医学部・医学系研究科 FD 活動状況

内 容	開催日	参加人数
医学部チューター養成ワークショップ	H27. 4. 8	(人) 34
FD 講演会 (学習支援システム説明会)	H27. 7. 10	47
FD 講演会 (教育システム活用セミナー)	H27. 9. 25	37
FD 講演会 (専門領域を超えて専門領域を深める —育ちあい、響きあう学修環境を目指して—)	H28. 3. 8	31

(平成27年度より医学部教育支援センターにて企画・実施)

〔医学部教育支援センターを中心に、FDを企画：平成27年度においては、学生のための主体的学びに効果的なITCを利用した「教育システムの活用セミナー」や、「専門領域を超えたカリキュラムの検討」について等、医学部・医学研究科の現在の課題を考慮したFDを実施し、効果的であった。〕

(事務局資料)



資料 1-1-45(1) 教員の FD 活動に対するアンケート結果(1)

2015,9,25

平成27年度福井大学医学部FD講演会  
『教育システム活用セミナー』

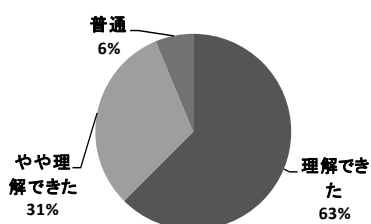
アンケート集計結果

(参加者37名/アンケート回収率86.5%)

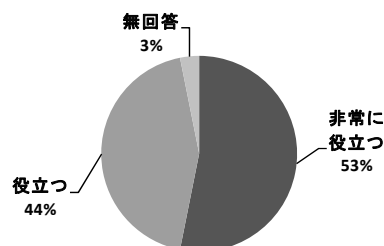
アンケート回答者

(教授6名, 准教授4名, 講師4名, 助教5名, 事務系職員3名, その他10名)

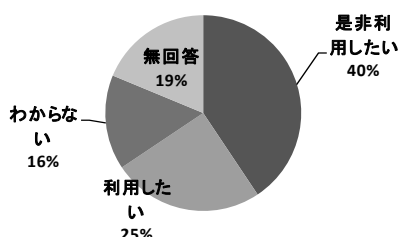
1. 講演内容は理解できましたか。



2. このシステムは、医学教育に役立つと思いますか。



3. このシステムをご自分の講義実習で利用したいと思いますか。



「あまり利用したくない」「利用したくない」の場合は理由もお願いします。

- ・ 準備に時間がかかりそうだけど、一度つくれば全国的に使えるかも。
- ・ 自分の講義がないので。また、私の専門分野では、画像診断することがないですが、映像が十分活用できることが分かりよかったです。
- ・ 使いこなせる自信がない。(「わからない」の回答でのコメント)

4. 講演に関するご意見、ご感想などがございましたらご記入ください。

- ・ 会議のため途中退出し、失礼しました。とても良いシステムと思います。
- ・ 医学教育の現状も分かって良かったです。
- ・ このようなシステムがあることを初めて知りました。
- ・ 現状の進捗状況が良くわかりました。是非システムを使用させていただきたいです。
- ・ 使用する人間の労力の軽減がポイントだと思いますが、大いなる可能性を感じました。
- ・ 現状は教える側(教員)からの利用が中心であるが、学ぶ側(学生)からの使い方・機能を更に強化していただきたい。
- ・ 出来れば大学からハード面での協力をお願いしたい。
- ・ 学生個々の能力・理解度に応じた学習環境の構築の可能性を感じました。
- ・ 学内でのシステムの周知が必要です。使用に関しては教員へサポート(スタッフ)があると現実的です。
- ・ 拡散する方法を考えてください。
- ・ 関連病院でも使用できるとよいと思いました。
- ・ 学生に簡単に解を導いてしまいそうで、迷わせるには、それなりのダミー画像等も必要となるので、結構大変そうな気がします。自分でMacのiOSかiBooksで作れるか少し試してみます。
- ・ ありがとうございます。
- ・ システムの問題が目につきました。改善できそうな内容もあると思いますので、徐々に良くしていきたいと思いました。
- ・ 先生方も学生様もあるものを利用して学習している姿に感動しました。

(事務局資料)

資料 1-1-45 (2) 教員の FD 活動に対するアンケート結果 (2)

2015.2.2

平成 26 年度ライフサイエンスイノベーション推進機構セミナー  
 (医学部看護学科 FD 専門委員会共催研修事業)  
 『ヒーリングタッチと看護について』

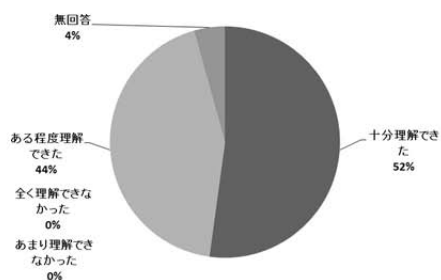
**アンケート集計結果**

(参加者 24 名 / アンケート回収率 95.8%)

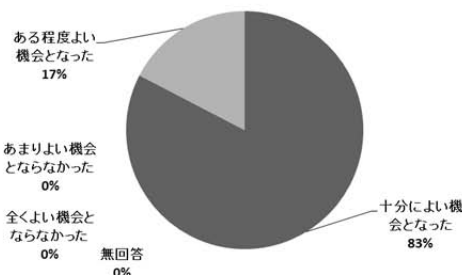
アンケート回答者

(教授 5 名, 准教授 2 名, 講師 3 名, 助教 6 名, 医員 2 名, 看護師 3 名, チェックなし 2 名)

1. 講演内容は理解できましたか。



2. 講演会は、今後の教育等に役立つ機会となりましたか。



3. 講演に関するご意見、ご感想などがございましたらご記入ください。

- ・ヒーリングタッチ、もっと深く知りたいと思いました。リリースがとても勉強になりました。
- ・リリースという事を改めて考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・講演ありがとうございました。ミラー効果(センタリングとグラウンディング)とリリース、とても大事だと思いました。今後も意識していきたいと思います。
- ・CAMにもともと興味があったので、よかったです。がんPEさんのCAMについて興味があります。
- ・NCCAMからNCCIHに変更された人が、位置づけが変わったことは素晴らしい。学生自身が「癒される体験」を持つことは、本当に大切だと思う。看護師が手を使う技術そのものがヒーリングタッチであり、元気のもとであると改めて考えました。
- ・ヒーリングタッチについて知り、今後の可能性が期待できる療法だと思いました。「リリース」は大切だと思いました。元気のもとになるご講義を頂き、ありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。ヒーリングタッチは看護の基本ですね。有難うございました。
- ・ヒーリングタッチが具体的にどのようなことをするのかを、初めにVTRで見せてもらえるより理解できたと思う。CureからCareへと視点が動いている時代なんだと感じた。エビデンス(生理学的指標)の確立が必要だと思った。
- ・ヒーリングタッチが、いかに人間の根源的な係わりが学べました。治らない病気(incurable disease)へのアプローチにつながると思います。
- ・パワフルな先生で、とてもよい刺激になりました。
- ・ヒーリングタッチの話は初めてで新鮮でした。次は具体的な話を聞かせて頂きたいです。
- ・看護師が元気になること、波及効果として周りが元気になっていくこと、とても実感しました。今日教えて頂いたことを実行していきたいと思いました。とても良い機会になりました。
- ・ヒーリングタッチについて学ぶ機会があまりなかったため、貴重な機会となり良かったです。GENKIを共通語にという考え方がとても素敵だと思いました。この考え方がもっと広がると良いなと感じました。

(事務局資料)

資料 1-1-46 教員個人評価における大学院教育に関する評価項目

平成 26 年度に、国立大学改革プラン等に適切に対応するため、規程等の改正など、従来の教員個人評価制度を全面的に改正した。学長は、中期目標達成への大きな貢献や卓越した教育研究等をなした教員を「SS」又は「S」として高く評価し、他方、活動状況に問題があり改善を要すものは「D」と評価することとした。

各評価領域の評価項目及び基準

1 教育活動領域

【評価項目】

A 一つの教育活動（授業科目等）ごとの項目

(中 略)

2 大学院教育の実績（科目毎に記入）

- ① 授業科目（等）名（A：博士課程・B：修士課程の別，一般・社会人の別，必修・選択の別）
- ② 履修者数
- ③ 単位取得者数（優○名，良○名，可○名，不可○名）
- ④ 授業形式（A：講義 B：セミナー C：実験・演習・実習 F：その他）
- ⑤ 主な役割（A：全てを担当 B：分担 C：コーディネーター E：その他）
- ⑥ 担当時間数
- ⑦ 使用言語（A：日本語 B：英語 C：その他）
- ⑧ 学生による授業評価アンケート結果
- ⑨ 教育目標の達成状況（A：十分達成された B：大体達成された C：ある程度達成されたが不十分な点もある D：あまり達成されていない）
- ⑩ ⑨においてそう判断する理由を簡潔に記載
- ⑪ 特記事項（授業に対する取組や改善事項について，特記する事項があれば記載）

3 大学院学生の指導実績（学生毎に記入）

- ① 指導学生の氏名、学籍番号
- ② 学生種別（A：修士（主） B：修士（副） C：博士（主） D：博士（副） E：その他（特別研究学生など）
- ③ 指導法（A：実験の立案 B：実験技術の直接指導 C：実験技術の間接指導 D：論文作成の指導 E：その他）
- ④ 指導学位論文
- ⑤ その他の指導論文
- ⑥ 就職（ポスドク含む）、進学（博士課程）先
- ⑦ 教育目標の達成状況（A：十分達成された B：大体達成された C：ある程度達成されたが不十分な点もある D：あまり達成されていない）
- ⑧ ⑦においてそう判断する理由を簡潔に記載
- ⑨ 特記事項（指導に対する取組や改善事項について，特記する事項があれば記載）

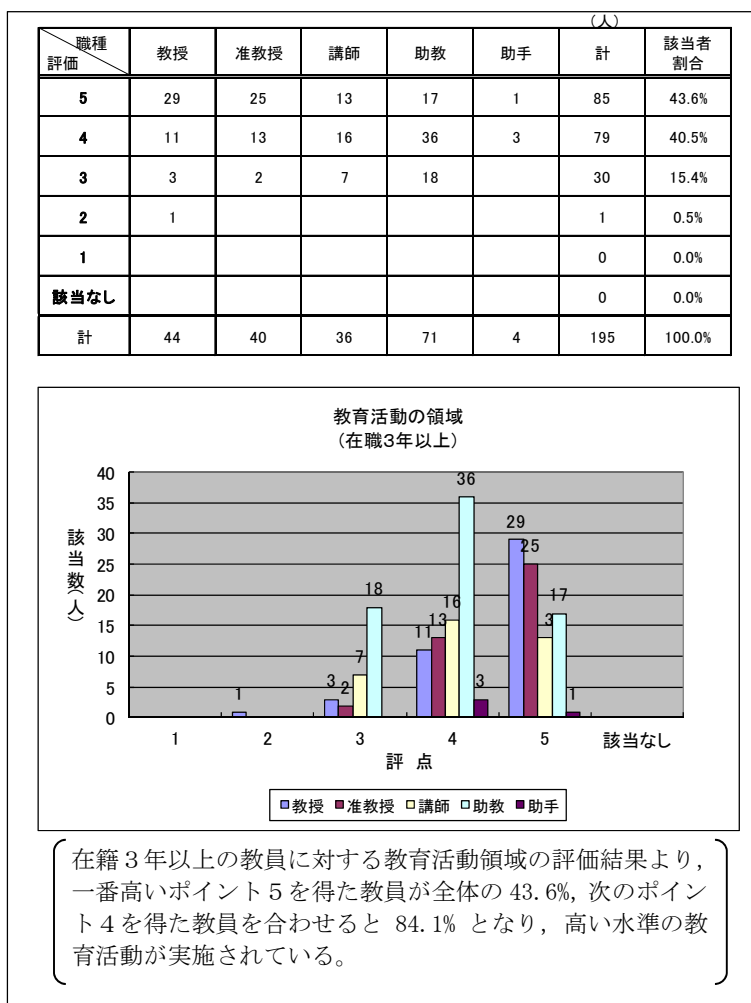
(中 略)

【評価基準】

- ・ 上記の評価項目をデータ入力し，以下の5段階により自己評価する。
  - 5：特に優れている
  - 4：水準を上回っている
  - 3：水準に達している
  - 2：やや問題があり改善の余地がある
  - 1：問題があり改善を要する

(事務局資料)

資料 1-1-47 教員個人評価結果（教育活動領域）



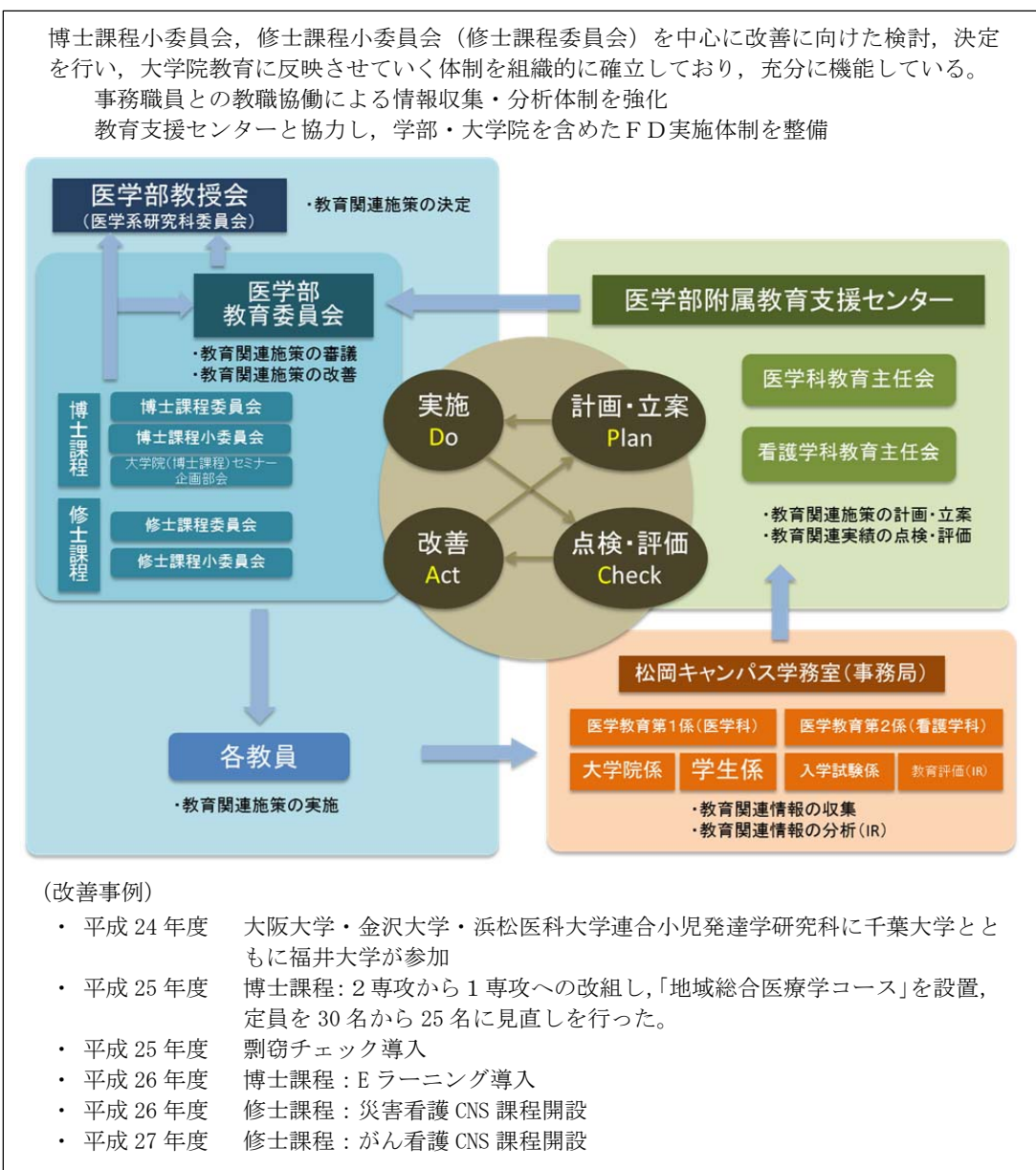
(事務局資料)

●教育プログラムの質の保証・質向上のための工夫とその効果に関する例

【教学マネジメント体制】

大学院生の修学状況等を把握し、改善につなげる体制を確立、機能させており（資料 1-1-48）、例えば社会人学生の修学支援として、指定の時間に大学院講義に出席できないことを補うためにEラーニングによる補習学習体制を整えた。

資料 1-1-48 教学マネジメント体制



【外部評価・第三者評価】

本学と大学の規模等が類似している山梨大学との相互評価を組織的に行っており，平成 27 年 3 月には本学医学部において医学部及び医学系研究科について意見交換と評価を行った。修士課程の専門看護師教育などについて高い評価を得た（資料 1-1-49）。

資料 1-1-49 平成 26 年度 山梨大学・福井大学相互評価報告書（一部抜粋）

平成 26 年度 山梨大学医学部・福井大学医学部相互評価報告書

日 時 平成 27 年 3 月 9 日（月） 15 時 ～ 17 時  
平成 27 年 3 月 10 日（火） 9 時 ～ 11 時

会 場 福井大学松岡キャンパス 管理棟 3 階 大会議室, 中会議室 他

出席者 別紙のとおり

（山梨大学側報告書抜粋）

（全体を通しての福井大学における特徴等）

- ・ 施設面：新病棟はもとより，講義棟の改修における学習意欲がわくような空間づくりや学生の意見を取り入れた椅子等の設置，シミュレーションセンター建設及び充実した設備の導入，言語教育センターの建設など，建物や設備等のハード面において優れている。
- ・ 国際基準におけるカリキュラム及び関連の委員会について，整備が進んでいる。
- ・ 入試改革に関する検討を始めるなど，改革に前向きに取り組んでいる。なお，入試における面接試験に関しては，面接基準についての社会的説明をいかに行うか，について問題意識をもち検討を行っている。
- ・ 看護学科新卒者 55 人中，32 人が附属病院に就職するなど，安定的に看護師を供給できる体制が整っている。
- ・ 看護学科 3 年次編入を廃止する取り組みを早くから始め，修士課程における専門看護師の養成コースを設置するなど，課題を見つけて改革に結びつけている。

平成 27 年 3 月 28 日

山梨大学医学部

（事務局資料）

### 【関係者の意見聴取】

医学系研究科では，修了生及び勤務機関へのアンケート，聴き取り調査を組織的に行っており，その結果を教育内容・方法の改善に反映させている（資料 1-1-50, 51）。

特に，修士課程では，平成 16 年度から修了予定者を含む全大学院生に対してアンケートを継続実施しており，その結果を全て修士課程委員会で周知し，問題点を審議し改善につなげている（資料 1-1-52, 53）。



資料 1-1-50 医学系研究科（博士課程・修士課程）修了生アンケート

卒業生に対する大学教育の成果調査【医学系研究科（博士課程）卒業生対象】（一部抜粋）

福井大学では、卒業生の皆様に本学の教育についてのアンケート調査を実施し、その評価を明らかにすることで教育に随時修正・改善を加え、より良い医学教育カリキュラムを構築できるよう努めたいと考えております。

そこで、本学卒業生の皆様に以下の項目についてご回答をお願いいたします。

臨床業務等で大変お忙しいところのお願いで申し訳ありませんが、ご協力よろしくをお願いいたします。

- いただいた回答は統計的に処理しますので、個別の回答結果を外部に公開することはありません。
- 回答に迷う場合には、最も近いものを選んで回答してください。

【問1】あなたについて教えてください。

性別： 1. 男 2. 女

----- 社会でご活躍の現時点で、あなたの知識や能力についてお聞きします。 -----

【問2】本学では以下の能力を育成することを教育の目標としています。そこで、大学院教育を土台として現在培われたあなたの知識や臨床を含むさまざまな能力について、該当する番号に○をつけてご回答ください。

----- 本学の大学院生であった時の、あなたの学修状況についてお聞きします。 -----

----- あなたの履修した大学院のカリキュラム等についてお聞きします。 -----

----- 大学院の医学教育全体についてお聞きします。 -----

<全27設問>

卒業生に対する大学院教育の成果調査【医学系研究科（看護学専攻）卒業生対象】（一部抜粋）

福井大学では、卒業生の皆様に本学の教育についてのアンケート調査を実施し、その評価を明らかにすることで教育に随時修正・改善を加え、より良い医学教育カリキュラムを構築できるよう努めたいと考えております。

そこで、本学卒業生の皆様に以下の項目についてご回答をお願いいたします。

臨床業務等で大変お忙しいところのお願いで申し訳ありませんが、ご協力よろしくをお願いいたします。

- いただいた回答は統計的に処理しますので、個別の回答結果を外部に公開することはありません。
- 回答に迷う場合には、最も近いものを選んで回答してください。

【問1】あなたについて教えてください。

性別： 1. 男 2. 女

●社会でご活躍の現時点で、あなたの知識や能力についてお聞きいたします。

【問2】本学では以下の能力を育成することを教育の目標としています。そこで、大学院教育を土台として培われたあなたの知識や臨床を含むさまざまな能力について、該当する番号に○をつけてご回答ください。

●本学の大学院生であった時の、あなたの学修状況についてお聞きします。

●大学院の医学教育全体についてお聞きします。

<全10設問>

（事務局資料）

資料 1-1-51 医学系研究科（博士課程・修士課程）修了生勤務先アンケート

「福井大学医学系研究科（博士課程）卒業生についてのアンケート調査」（一部抜粋）

[平成 22 年度～平成 26 年度修了者対象]

【問 1】 本学医学系研究科（博士課程）の知識や臨床を含むさまざまな能力についてお尋ねします。該当する番号に○をつけてご回答ください。

① 高度な医学知識を有していますか？  
1. 非常に当てはまる 2. かなり当てはまる 3. 普通 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない

② 高度な臨床能力・医療技能を有していますか？  
1. 非常に当てはまる 2. かなり当てはまる 3. 普通 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない

(略)

⑩ 診療について、将来指導的な役割を担う能力を有していますか？  
1. 非常に当てはまる 2. かなり当てはまる 3. 普通 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない

【問 2】 本学卒業生から判断して、本学の教育は満足できるものとお考えですか？  
1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

「福井大学医学系研究科（修士課程）卒業生についてのアンケート調査」（一部抜粋）

[平成 22 年度～平成 26 年度修了者対象]

【問 1】 本学医学系研究科（修士課程）の知識や臨床を含むさまざまな能力についてお尋ねします。該当する番号に○をつけてご回答ください。

① 看護師（助産師・保健師）として高度な知識を有していますか？  
1. 非常に当てはまる 2. かなり当てはまる 3. 普通 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない

② 看護師（助産師・保健師）として高度な臨床能力・医療技能を有していますか？  
1. 非常に当てはまる 2. かなり当てはまる 3. 普通 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない

(略)

⑩ 臨床業務について、将来指導的な役割を担う能力を有していますか？  
1. 非常に当てはまる 2. かなり当てはまる 3. 普通 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない

【問 2】 本学卒業生から判断して、本学の教育は満足できるものとお考えですか？  
1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

(事務局資料)

資料 1-1-52 修士課程在学学生教育評価アンケート

大学院教育に関する調査(平成27年2月実施)(一部抜粋)		ま 非 常 に 当 て は	ま ま か り 当 て は	い ど ち ら で も な	ま ま ら な い 当 て は	ま ま ら な く い ち 当 て は
● 学年 M1						
I 大学院教育全体について						
1	大学院教育全体について満足している。	5	4	3	2	1
2	自分の学習目標は達成されている。	5	4	3	2	1
3	自分のキャリア形成、向上に役立っている。	5	4	3	2	1
II カリキュラム(教育課程・時間割)・シラバスについて						
1	カリキュラムは学習しやすく編成されている。	5	4	3	2	1
2	共通科目と専門科目の配置は満足している。	5	4	3	2	1
3	2年間の学習過程(講義予定・研究に関する全体日程など)は問題がない。	5	4	3	2	1
4	シラバス内容(教育内容・方法・評価・テキスト他)はわかりやすい。	5	4	3	2	1
5	シラバスを活用している。	5	4	3	2	1
III 講義を中心とした教育活動について						
A 共通科目						
A1【看護研究】						
1	教育内容・方法に関するオリエンテーションが充分である。	5	4	3	2	1
2	シラバス内容と教育内容が一致している。	5	4	3	2	1
3	教育内容は無駄がなく、順序だてて整理されている。	5	4	3	2	1
4	学習目標が達成できる内容である。	5	4	3	2	1
5	教育方法は教育内容に適している。	5	4	3	2	1
6	教育内容は満足している。	5	4	3	2	1
7	課題(レポートなど)は適切である。	5	4	3	2	1
8	教員は講義の準備を充分している。	5	4	3	2	1
9	講義中の雰囲気は満足している。	5	4	3	2	1
10	講義中の教員と学生の関係に満足している。	5	4	3	2	1
11	学習内容について、教員と学生間、学生相互間の意見交換がなされている。	5	4	3	2	1
A2	【看護倫理】 履修(有・無)					
A3	【看護理論】 履修(有・無)					
A4	【看護教育論】 履修(有・無)					
A5	【看護管理論】 履修(有・無)					
A6	【看護政策論】 履修(有・無)					
A7	【コンサルテーション論】 履修(有・無)					
A8	【ヘルスアセスメント】 履修(有・無)					
A9	【病態生理学】 履修(有・無)					
A10	【臨床薬理学】 履修(有・無)					
B 特論						
C 演習						
IV 学習環境について						
1	講義室の環境は満足している。	5	4	3	2	1
2	院生室をよく使用している。	5	4	3	2	1
3	院生室の環境(備品、照明、広さ等)は満足している。	5	4	3	2	1
4	図書館は利用しやすい。	5	4	3	2	1
5	図書館をよく利用している。	5	4	3	2	1
6	図書館の蔵書に満足している。	5	4	3	2	1
7	図書館以外の学習資源に満足している。	5	4	3	2	1
8	パソコンの使用に満足している。	5	4	3	2	1
9	学習資源の印刷やコピーの機器に満足している。	5	4	3	2	1
10	学習環境に関して学生の意見が反映されている。	5	4	3	2	1
11	仕事と学業との両立ができています。	5	4	3	2	1
12	教員は学生の意見を反映して教育活動をしている。	5	4	3	2	1
13	履修や学生生活について相談できるシステムがある。	5	4	3	2	1
14	他領域の学生との交流や関係に満足している。	5	4	3	2	1
● 学年 M2【CNS学生用】						
I 大学院教育全体について						
II カリキュラム(教育課程・時間割)・シラバスについて						
III 特論						
IV 演習						
V 実習						
VI 研究活動を中心とした教育活動について(課題研究)						
1	課題研究の指導は適切である。	5	4	3	2	1
2	研究準備の段階での支援は適切である。	5	4	3	2	1
3	データ収集の段階での支援は適切である。	5	4	3	2	1
4	データ分析の段階での支援は適切である。	5	4	3	2	1
5	論文作成の段階での支援は適切である。	5	4	3	2	1
6	口頭発表の段階での支援は適切である。	5	4	3	2	1
7	最終試験の段階での支援は適切である。	5	4	3	2	1
8	研究過程において主体的に学習した。	5	4	3	2	1
VII 学習環境について						
● 学年 M2【CNS学生以外用】						
I 大学院教育全体について						
II カリキュラム(教育課程・時間割)・シラバスについて						
III 研究活動を中心とした教育活動について(特別研究)						
IV 学習環境について						

(事務局資料)

大学院教育に関する調査集計[大学院生への回答](平成26年度)

II カリキュラム(教育課程・時間割)・シラバスについて

(カリキュラムに関して意見がありましたら自由に書いてください。)

- 領域の説明と、その領域の研究テーマや先生の教育テーマ等を表示してあれば、わかりやすいと思う。(M-1)

領域の説明は、履修要項中の「教育課程の構成・実施の方針(カリキュラムポリシー)」に記載しており、また、毎年発行している修士課程看護学専攻の紹介パンフレットの中に、領域の研究テーマや先生の教育テーマ等を記載しており、ホームページ上でもデジタルパンフとしてご覧いただけます。  
なお、疑問点等は、先取的に指導教員等にお尋ねいただくなど、大学院生のみなさんには自発性をもって学習に取り組んでいただきたいと考えております。

III 研究活動を中心とした教育活動について

(科目に関して意見・要望等がありましたら自由に書いてください。)

A1 看護研究

- 分析方法や研究方法にもう少し重点をおいて授業を行ってほしかった。「はじめに」「結論」「おわりに」等の言葉の違いを教えてほしかった。(M-1)
- 分析方法について、もう少し時間を多くしてほしい。文献クリティークの方法や文献カードの説明なく、ゼミの導入で困った。(M-1)

いずれの科目も、順を追って学んでいただき、学習が進むにつれ、理解いただけるようになっていきます。ご自分のペースで学習を進めていく上で、知り得たいこと等が生じた場合には、指導教員等にお尋ねください。

A4 看護教育論

- グループわけによるプレゼンテーションは内容が深く理解できてよかった。また外部講師のより専門的な内容が聞けて良かった。(M-1)

今後も、授業内容の工夫や外部講師による講義などにより、充実した授業となるよう、努力します。

A6 看護政策論

- 講義の7割以上出席であれば、追加レポート不要では?と思いました。(M-1)

追加レポートについては、状況的に、担当教員が必要と判断すれば提出を課すことがあります。

A8 ヘルスアセスメント

- 講義を行うDrが、講義内容をしっかり理解されていない方も多く、講師へのオリエンテーションをしっかりと行ってほしい。(M-1)

この科目は、医学科の教員が多くの講義を担当しており、事前に教員への指導等を行いました。徹底されなかったようです。ご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。今後、学生のみなさんに不信感を抱かれることのないよう、教員への指導等を徹底してまいります。

A9 病態生理学

- 講師の欠席(ドタキャン)があった時は、すごく困りました。代替講義に出られなかったため、今後は事前にDrに確認をお願いです。(M-1)
- 講義を忘れて、来ない先生がおり、次の講義の先生に迷惑がかかった。(M-1)

この件に関しては、学生のみなさんにご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ありませんでした。その後の再発防止策として、講義日間に看護学専攻事務担当より担当教員への確認を徹底するようにしました。また、担当教員との連絡を今まで以上に密にするようにしました。

A10 臨床薬理学

- 教科書での授業は、とても分かりやすく理解できた。もう少し臨床薬剤師の講義も聞きたかった。(M-1)

今後も、より分かりやすく、興味を抱かれる授業となるよう、随時、授業内容等の改善を図ってまいります。

V その他ご意見がありましたら自由に書いてください。

- 院生室の使用法等のオリエンテーションを入学時に行ってほしい。(M-1)

ご意見を踏まえ、次年度以降、入学時のオリエンテーションでご説明することになります。

- 履修科目について、どれを履修すれば学び得る内容か、将来的な方向性について助言をほしかった。(M-1)

履修科目については履修届の提出前に、将来的な方向性についても事前に助言が必要であったのであれば、いずれも指導教員にご相談いただきたかったと思います。今後も、学習に関することで不明点などは、随時、指導教員、内容によっては大学院係にお気軽にご相談ください。

- 院生講義室のプロジェクターを天井吊りにしてほしい。(M-1)

- 院生講義室の椅子の静電気がすごく、硬くて痛い。もう少しクッション性のあるものを購入してほしい。(M-1)

- 照明を左右でなく前後でON/OFFできるようにしてほしい。(M-1)

- 文献検索するのに、院生用のパソコンと、パソコンから印刷できるよう、印刷機(カラー)も一緒に購入してほしい(M-1)

- USBから印刷する機器を設置してほしい。(M-1)

- パソコン室のプリンターの操作方法が分からず使用できないので、院生専用の印刷機が講義室にあればありがたいと思います。(M-1)

設備については、予算の関係もありますが、学生のみなさんがより快適に学習できるよう、随時、改修・更新等を行ってまいります。ちなみに、講義室のプロジェクターは天井吊りのものに更新しました。また、備品類についても、大学として備えるべきと考えられるものは、随時、購入して考えています。

- 院生室の冷暖房について考えてほしい。(M-1)

本学においても、国の政策に従い、省エネルギーに取り組んでおり、冷暖房についても設定温度を制限しております。このことを是非ともご理解のうえ、各自で衣服の調整等により対処いただきますよう、ご協力をお願いします。

平成 26 年度アンケートで要望のあったプレゼンテーション設備の充実として、プロジェクターを天井つりさげ型に更新した結果、教育方法の改善等にも繋がった。

(資料「在学学生教育評価アンケート結果」より抜粋)

【教育改善の取組】

地域・在宅医療から先端医療まで様々なニーズに対応できる医療者の養成と，県全体の医療のレベルアップ及び質の高い医療サービスの提供を目的として，福井メディカルシミュレーションセンターを平成26年度に開設した。同センターでは，大学病院ならではの高度先進医療を繰り返し学ぶことができ，かつ地域の病院として在宅医療に関する学びや，多職種が連携してのトレーニングも可能であり，大学院生の学びに大きく貢献しており，関係者の期待に応えている（資料1-1-54, 55）。

資料1-1-54 福井メディカルシミュレーションセンター学生利用状況（大学院生含む）

年度	月	学生利用(出席)者数		学生部屋貸出者数	
		学内	学外	学内	学外
平成26年度	4	14	2		
	5				
	6	220			
	7	347			
	8				
	9				
	10	47			
	11	10	6		
	12	5			
	1	365			
	2	35			
	3	35	40	51	40
計		1,078	48	51	40
平成27年度	4	77		40	
	5	302		10	
	6	50		80	
	7	345			
	8	52			
	9	27	88	6	
	10	162	186	10	
	11	39	110	8	
	12	166	34		
	1	140			
	2	449			
	3	20		65	240
計		1,829	418	219	240

(事務局資料)

資料 1-1-55 福井メディカルシミュレーションセンターを利用した演習風景

メディカルシミュレーションセンターには、14 室のシミュレーションブースが設置され、各部屋の用途に合わせた設備、シミュレーター等の機材が効率よく設置され、大学院生、医学部生の育成はもとより、研修医、県内医師などの研修に貢献している。  
 (参照 シミュレーションセンターfacebook: <https://www.facebook.com/福井メディカルシミュレーションセンター-1592231934372047/>)



(博士課程 地域総合医療コース演習を兼ねた「緊急被ばく医療シミュレーション【スクリーニング演習】)

(認定看護師教育課程 慢性呼吸器疾患看護分野の演習)

(事務局資料)

【教育情報の発信】

大学院進学および研究者としてのキャリアパス情報は大学院案内に掲載するとともに (P5-25 前掲資料 1-1-29), 研究者勧誘に係る説明会 (リサーチ・マッチング) (資料 1-1-56), 病院訪問による修士課程進学説明等により常時発信している (P5-27 前掲資料 1-1-34)。



リサーチマッチング（研究者勧誘に係る説明会）実施状況

【趣旨】

基礎系教室へのスタッフ獲得あるいは臨床系大学院からの基礎配属を促進するため、また、学生の基礎医学に対するモチベーション向上のため実施するもの。

【開催数・参加者数】

- 第1回（H21年）対象：6年生＋初期研修医  
参加者：6年生・研修医 計25名程度
- 第2回（H22年）対象：6年生＋初期研修医  
参加者：5～6年生・研修医 計20名程度
- 第3回（H23年）対象：4～6年生＋初期研修医  
参加者：3～6年生 計25名程度
- 第4回（H24年）対象：3～6年生＋初期研修医  
参加者：4年～6年生・研修医 計30名程度
- 第5回（H25年）対象：4～6年生＋初期研修医 『4年生「医の原則」の授業として実施』  
参加者：4年生96/101名、5年生1名、6年生3名 計100名
- 第6回（H26年）対象：4～6年生＋初期研修医 『4年生「医の原則」の授業として実施』  
参加者：4年生114/117名、1年生2名、2年生1名、3年生2名、  
6年生6名 計125名
- 第7回（H27年）対象：4年生＋初期研修医 『4年生「医の原則」の授業として実施』  
参加者：4年生120/120名

平成27年6月29日現在

		件数
リサーチマッチング出席人数（4年生）		120人
アンケート 「もう少し詳しく話を聞きたい領域があれば、担当の教員名を記入して下さい」の欄への記入数		4件 (5名)
結果	マッチングできた件数	5件
	マッチングできなかった件数	0件
	まだ連絡が取れていない件数	0件

【リサーチ・マッチングに参加しての感想（平成22年度～平成27年度調査より抜粋）】

- ・臨床に味気なさを感じたら基礎医学に目を向けてくださいというメッセージが印象的でした。
- ・世界をかえるとか名を刻むとか、研究が身近に感じることができて良かったです。
- ・好きなことを話しているときの先生方はいつも以上に生き生きとされていて面白かった。
- ・大変面白いエピソードばかりでした。これからの進路選択に役立てたいと思います。
- ・ATMシステムが非常に良いシステムだと思った
- ・こういう研究についての説明が聞ける機会があって良かったです。選択肢を広げることは大事だと思いました。
- ・それぞれの先生がなぜ研究に進んだのかが知れて良かった。
- ・病理学や解剖学など臨床に活かせることも学べる教室が思ったよりも多く、とても興味がわきました。
- ・考えたことがなかった研究者への道のりを知ることができて、道が増えた気がしました。
- ・それぞれの分野の先生たちが日々情熱を持って研究されていることがよく分かりました。

（事務局資料）

## (水準) 期待される水準を上回る

## (判断理由)

- ① 博士課程では、平成 25 年度の改組にあたり、全ての大学院担当教員による横断的及び有機的な教育・研究指導体制を整えている。また、本邦で初めて設置された「地域総合医療学コース」においては、リサーチマインドのあるジェネラリスト養成のために、地域の総合病院等とも連携し、大学院教育にあたる体制を整えられたことは、特筆される<sup>1)</sup>。

1) 資料 1-1-3	: 医学系研究科博士課程改組後の組織構成	P5-6
資料 1-1-4	: 博士課程改組後の指導体制	P5-7
資料 1-1-7	: 博士課程 地域総合医療学コース教育体制	P5-9

- ② 夜間開講や長期履修制度等、社会人学生の学びやすい環境が整えられている。また、メンタル面や経済面のサポート体制も充実している。これらの支援に対する大学院生の満足度は第 1 期末に比べ大きく向上しており、入学者の確保にもつながっている<sup>2)</sup>。

2) 資料 1-1-12	: 長期履修学生規程	P5-13
資料 1-1-13	: 長期履修学生に関する申合せ	P5-13
資料 1-1-14	: 医学系研究科における長期履修制度の適用状況	P5-13
資料 1-1-15	: 福井大学学生支援体制	P5-14
資料 1-1-16	: 松岡キャンパス学生総合相談室及び保健管理センター利用状況	P5-15
資料 1-1-17	: 学生（大学院生含む）による図書館利用状況（平成 27 年度）	P5-16
資料 1-1-18	: 平成 21 年度、平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査（学生支援）	P5-17
資料 1-1-38	: 授業料免除、奨学金等利用状況	P5-29
資料 1-1-39	: 平成 21 年度、平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査（経済的支援）	P5-30
資料 1-1-41	: 医学系研究科における入学定員充足率	P5-31

- ③ 修士課程では、社会ニーズを踏まえ、第 2 期で二つの専門看護師課程（災害看護・がん看護）を開設し、以降、災害看護で 13 名、がん看護で 4 名の入学生を受け入れた。特に災害看護 CNS 課程は本邦初の開設であることと、各領域横断的な指導や他施設と協働した指導体制を構築したことは特筆される<sup>3)</sup>。また、入学者は全員が社会人であり、社会人の学び直しをサポートする体制ができており、関係者の期待に込めている<sup>4)</sup>。

3) 資料 1-1-5	: 修士課程 CNS 課程開設検討経過	P5-8
資料 1-1-41	: 医学系研究科における入学定員充足率	P5-31
資料 1-1-8	: 修士課程 災害看護 CNS 課程の指導体制	P5-10
4) 資料 1-1-10	: 医学系研究科における社会人入学生の状況	P5-12
資料 1-1-11	: 修士課程における夜間開講時間割	P5-12
資料 1-1-12	: 長期履修学生規程	P5-13
資料 1-1-13	: 長期履修学生に関する申合せ	P5-13
資料 1-1-14	: 医学系研究科における長期履修制度の適用状況	P5-13

以上のように、全ての関係者の期待に応えるための基盤となる適切な教育実施体制が極めて効果的、実質的に整備されており、期待される水準を上回ると判断した。

## 観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

## ●体系的な教育課程の編成状況に関する例

## 【養成する能力等の明示】

ディプロマ・ポリシー(DP)/カリキュラム・ポリシー(CP)/アドミッション・ポリシー(AP)を作成するとともに、社会ニーズの変化に合わせ、随時見直しを行い、関係者の期待に沿った大学院生の養成に努めている。これらはホームページやシラバス、募集要項に掲載し、周知を行っている(資料1-2-1~4, P5-21, 22 前掲資料1-1-24)。

## 資料1-2-1(1) 医学系研究科：カリキュラム・ポリシー(CP) (博士課程)

## 【博士課程】

## 教育方針

医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医および地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医を養成することを目的としている。これらの目的を達成するため、「統合先進医学専攻」のもと、基礎医学領域を中心とする医科学コース、臨床医学領域を中心に各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を修得する先端応用医学コースと地域医療における臨床研究や教育的指導ができる医療技能を修得する地域総合医療学コースを設け、大学院担当教員による複数教員指導体制により体系的に教育・研究指導を行う。

## 1. 教育課程の編成

教育方針を具現化するため、以下の教育課程を編成する。

- ① 4年以上在学し、共通科目(医科学基礎総論・実験基礎演習・医科学特論・先端応用医学概論)18単位及び選択科目(コース・領域専門科目等)12単位以上の計30単位以上を修得させる。医科学コースでは、基礎医学領域を中心とした分子生命医科学、高次生命医科学、生体情報医科学、感染防御医科学、機能画像医学のコース科目、先端応用医学コースでは臨床医学領域を中心に3部門(腫瘍医学、器官再生医学、病態情報解析医学)6分野(生殖・周産期・腫瘍医学、腫瘍制御医学、重粒子線治療医学、成長発達病態学、器官病態解析・制御医学、病態情報・画像医学)のコース科目、地域総合医療学コースでは、総合診療部・救急部・地域医療推進講座等を中心とした総合診療医学・ER救急医学・家庭医療学のコース科目を、講義および演習により2-3年次に開講し、各コースに所属する大学院生に、関連する分野における高度な知識および技術を幅広く修得させる。
- ② 医科学コースでは基礎医学を中心とした各専門領域、先端応用医学コースでは臨床領域を中心とした各専門領域、地域総合医療学コースでは、地域医療に関連した臨床領域を中心とした各専門領域での専門科目(演習および実習)を3-4年次に開講し、専門分野における最先端の知識および技術を修得させる。

## 2. 教育課程の実施

教育方針を具現化するため、以下の体制で教育課程を実施する。

- ① 大学院生ごとに指導教員および副指導教員を置くことで複数指導教員制とする。
- ② 共通科目および部門科目においては、各授業科目に教科主任となるコーディネーターを置き、授業内容に応じて複数の担当教員により実施される授業の一貫性を担保し、授業科目を統括する。
- ③ 3年次修了前後に、大学院生による公開の研究発表会を義務付け、研究の進捗状況等を発表し、参加教員からの意見やアドバイスを受けて、最終年度での研究の取りまとめに資する。
- ④ 本学の医学部医学科4-6年次生を対象に、博士課程授業科目を早期履修できる「博士課程授業科目早期履修制度」を導入し、卒後臨床研修終了後に入学するよりも早い博士号取得を可能とする。
- ⑤ 本院の初期臨床研修医(医学部医学科卒業予定者を含む。)を対象に、本院初期研修と博士号取得を効率よく両立できる「初期研修同時履修制度」を導入し、卒後臨床研修終了後に入学するよりも早い博士号取得を可能とする。
- ⑥ 社会人大学院生に対して教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修指導を行うとともに、学外非常勤講師による大学院セミナー等を活用し、もって教育目標を達成するための教育指導の工夫を行う。

(事務局資料)

**【修士課程】**

## 教育方針

医学系研究科修士課程では、教育理念・目標に基づき、豊かな人間性と倫理観、幅広い知識と理論に基づく根拠のある技術力を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備えた看護職のリーダーとなる人材を育成すること、また、地域保健医療福祉に貢献できる看護職、及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的としている。これらの目的を達成するため、「看護学専攻」のもと、基礎・地域看護学、成人・老年看護学、母子看護学、災害看護学の各分野で、優れた看護学の知識と技能を修得する論文課程と、卓越した看護実践能力を修得する専門看護師（CNS）教育課程を設け、複数の大学院担当教員により体系的に教育・研究指導を行う。

## 1. 教育課程の編成

教育方針を具現化するため、以下の教育課程を編成する。

- ① 論文課程では、2年以上在学し、看護研究 2 単位、当該分野又は他分野科目 20 単位、共通科目又は他領域の特論科目から 8 単位以上、合計 30 単位以上を修得させる。  
本課程では、4 分野（基礎・地域看護学、成人・老年看護学、母子看護学、災害看護学）6 領域（基礎看護学、地域看護学、成人看護学、老年看護学、母子看護学、災害看護学）の科目を設け、1 年次に講義・演習を開講し、2 年次には、演習と学位論文等の作成に必要な特別研究科目を開講し、各分野・領域における高度な知識および技術を幅広く修得させる。
- ② 専門看護師教育課程では、2年以上在学し、共通科目 A（看護研究、看護倫理、看護理論、看護教育論、看護管理論、看護政策論、コンサルテーション論）から 8 単位以上、共通科目 B（ヘルスアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）6 単位、領域科目（特論、演習、実習）24 単位、合計 38 単位以上を修得させる。また、併せて修士の学位取得のため、課題研究 2 単位あるいは特別研究 12 単位を修得させる。  
本課程では、1 年次に講義・演習を開講し、各専門分野に必要な基礎的な知識・技術を修得させ、2 年次には、演習および実習を開講し、エビデンスに基づく確かな判断、卓越したケア技術とケアの知識を修得させる。

## 2. 教育課程の実施

教育方針を具現化するため、以下の体制で教育課程を実施する。

- ① 大学院生ごとに指導教員を置き、必要に応じて副指導教員を置くこととする。
- ② 共通科目および各領域科目においては、各授業科目に教科主任となる科目担当責任教員を置き、授業内容に応じて複数の担当教員により実施される授業の一貫性を担保し、授業科目を統括する。
- ③ 2 年次に、大学院生による公開の中間研究報告会を義務付け、研究の進捗状況等を発表し、参加教員等からの意見や助言を受ける。また、2 年次修了前に、研究の取りまとめを行い、修士論文公開発表会を行う。
- ④ 専門看護師教育課程の大学院生は、課題研究の論文をもって修士論文に代えることができる。
- ⑤ 社会人大学院生に対して教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修指導を行うとともに、学外非常勤講師による講義を活用し、教育目標を達成するための教育指導の工夫を行う。

（事務局資料）

資料 1-2-2 医学系研究科：ディプロマ・ポリシー (DP)

**【博士課程】**

各専攻の目的に照らして、大学院生が修得すべき学習成果の達成を学位授与の方針とする。具体的には、

- ① 4年以上在学し、共通科目 18 単位、選択科目（コース・領域専門科目等） 12 単位以上を修得し、国際的に活躍できる研究能力や、先端的で高度専門的な臨床研究を遂行できる高度医療に関する能力、もしくは地域に貢献できる質の高い総合医療に関する能力が十分培われていること。
- ② 査読のある、国際的に評価の定まっている欧文の学術誌もしくはそれと同等の学術的価値を有する学術誌に筆頭著者として原著論文を公表し、研究の着想、計画、実施、論文執筆等における自発性が十分に発揮されたかを判断する、学位審査に合格すること。
- ③ ただし、評価の高い国際的学術誌に論文発表し、上述の研究能力や高度医療に関する能力が十分に確立されていることが確認された場合は、3 年次修了以降、学位審査により早期に学位授与することができること。

**【修士課程】**

各課程の目的に照らして、大学院生が修得すべき学習成果の達成を学位授与の方針とする。具体的には、

修了要件

- ① 論文課程では、2 年以上在学し、看護研究 2 単位、当該分野又は他分野科目 20 単位、共通科目又は他領域の特論科目から 8 単位、合計 30 単位以上を修得し、各領域で専門性の高い高度な看護ケアを実践する能力、自らの知識と技術を磨く自己研鑽能力、科学的・理論的に判断し説明する能力、医学・看護学の発展のために研究を計画・実行し、その成果を公表する能力を十分に有していること。
- ② 専門看護師教育課程では、2 年以上在学し、共通科目 A（看護研究、看護倫理、看護理論、看護教育論、看護管理論、看護政策論、コンサルテーション論）から 8 単位以上、共通科目 B（ヘルスアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）6 単位、領域科目（特論、演習、実習）24 単位、合計 38 単位以上を修得し、個人、家族および集団に対して、キューとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる能力、高度な実践、教育、相談、研究、調整、倫理の 6 つの能力が高まり、看護活動を創意工夫して変革できる能力を十分に備えていること。
- ③ 医学系研究科修士課程に 2 年以上在学および上記の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

(事務局資料)

資料 1-2-3 カリキュラム・ポリシー (CP)/ディプロマ・ポリシー (DP)/アドミッション・ポリシー (AP)  
公開状況

AP	<a href="http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/admi_policy/">http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/admi_policy/</a>
	(募集要項) <a href="http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/">http://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/</a>
CP DP	<a href="http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/cont_faculty/policy.html">http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/cont_faculty/policy.html</a>

(事務局資料)

資料 1-2-4 医学系研究科（博士課程・修士課程）：カリキュラム・ポリシー（CP）/ディプロマ・ポリシー（DP）/アドミッション・ポリシー（AP）の改正について

	博士課程	修士課程
平成23年10月	医学部教授会において、AP/CP/DPが承認され、適用された。	
平成24年10月	博士課程委員会にてAPの改正について承認	
平成24年11月		修士「がん看護専門看護師（CNS）コース」「北陸がんプロフェッショナル」に関してアドミッションポリシーを変更
平成25年2月	博士課程の改組に伴い、博士課程委員会にてCP/DPの改正について承認	博士課程のAP改正に合わせ、修士課程についても見直し改正を行った。
平成25年4月	平成25年度に博士課程の改組及びそれに伴うAP/CP/DP改正	
平成26年6月		災害看護専門看護師（CNS）教育課程設置に伴い、APを改正
平成27年6月		がん看護専門看護師（CNS）教育課程設置に伴い、AP改正
平成28年1月		修士課程委員会にてCP/DPの改正について承認・適用

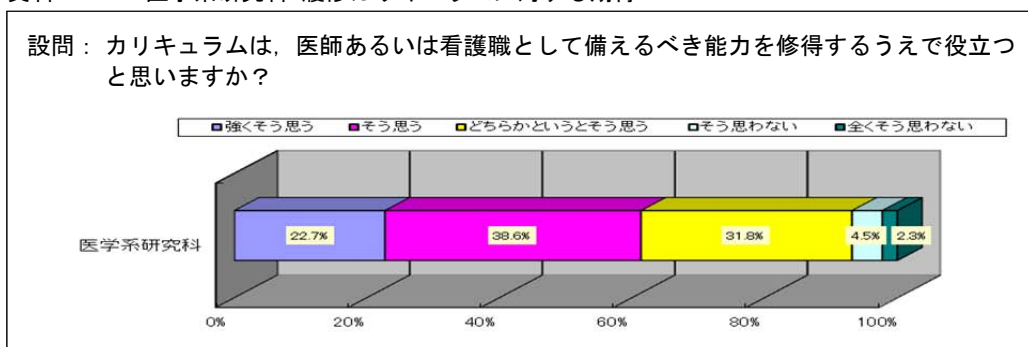
\* 修士課程のAP/CP/DPIは先行して平成21年度に設定

（事務局資料）

### 【カリキュラムの体系的性】

博士課程・修士課程ともにCP/DPに基づいたカリキュラム編成を体系的に行っており（P5-47 前掲資料 1-2-1, 2, 別添資料 6(1)～6(4)）、大学院生の期待も高い（資料 1-2-5）。

資料 1-2-5 医学系研究科 履修カリキュラムに対する期待



（平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋）

### 【大学院科目・コースワーク】

- 博士課程の教育課程では、3 コースを統合的に展開することで、大学院生のキャリアパスの変更を容易にし、大学院生のニーズにも対応するカリキュラムとなっている（資料 1-2-6, P5-7 前掲資料 1-1-4, 別添資料 6(1)～(4)）。授業科目のシラバスを作成し、授業の内容、到達目標、成績評価方法を明確にすることとしている（資料 1-2-7）。これらのカリキュラムに対する大学院生の満足度は第 1 期に比べ向上し良好であり、関係者の期待に答えている（資料 1-2-8）。

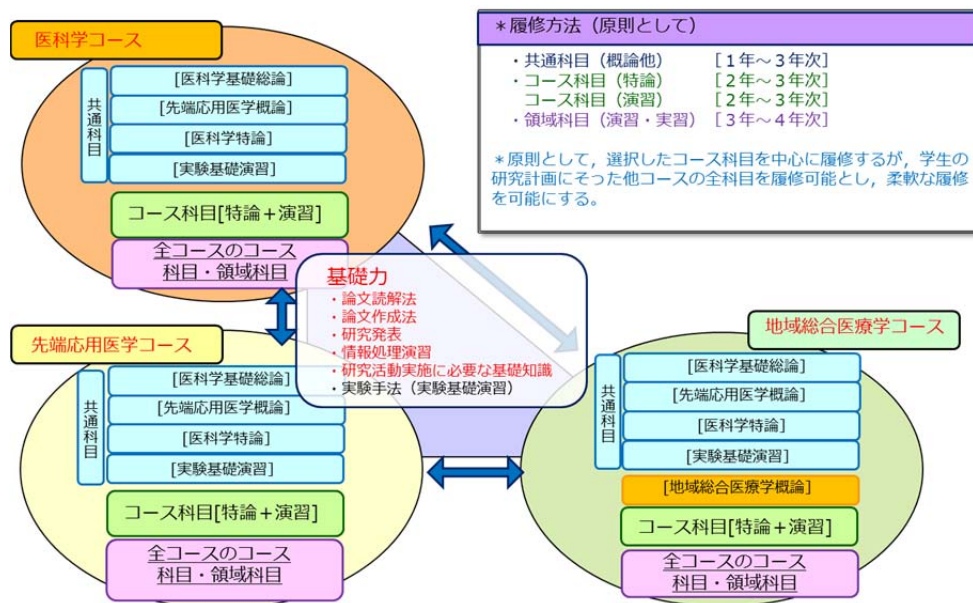
また、医学教育・研究の学際化に伴い、従来の枠組みにとらわれず、広く最新の情報を学ぶ目的で「共通科目」を必修科目として開設している（資料 1-2-9, 10）。更に、本学の特色として、研究成果の発表・討論能力の涵養、他分野教員の助言指導による研究の促進のため、3 年次には博士課程全体として「研究発表会」を定期的に開催している（資料 1-2-11, 12）。これらの取組は大学院生から高い評価を得ており、関係者の期待に答えている（資料 1-2-13, 14）。



資料 1-2-6 博士課程：カリキュラムの展開

3段階のコースワーク（共通科目（必修）、コース科目、領域専門科目）から構成され、総合的・系統的に教育・研究能力を育成するカリキュラムが構築された。また、3コースを統合的に展開することで、大学院生のキャリアパスの変更を容易にしている。

- ・「共通科目」：必修科目、
- ・博士課程全体として「研究発表会」を定期的開催：3年次生の出席、発表必修。



**（修了要件）** 当該課程に4年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。また、当該学生の個別の事情（介護・育児・職業を有している等）や 選択したコースに応じて、標準修了年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を修了できる長期履修制度の活用を図り、修学上の負担の軽減措置を講ずるとともに、大学院教育の修業機会の拡大を推進する。

（事務局資料）

資料 1-2-7 博士課程 シラバス例 (生体統御学特論)

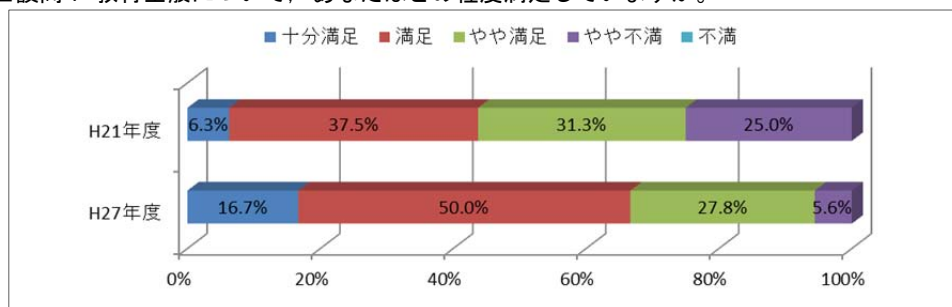
医科学コース		
授業科目名	教員名	職名/所属
生体統御学特論	飯野 哲 堀口 和秀 深澤 有吾 菅井 学 黒岡 尚徳	教授/人体解剖学・神経科学 准教授/人体解剖学・神経科学 教授/組織細胞形態学・神経科学 教授/分子遺伝学 准教授/分子遺伝学
単位数	2単位	
コマ数	15コマ	
開講時期	1～3年次	
キーワード	遺伝子発現、神経伝達、転写因子、細胞骨格	(コーディネーター) 飯野 哲 教授/人体解剖学・神経科学
<b>学習目標</b> 多細胞生物の生体維持・機能発現に関わる様々な制御システムとその分子基盤を理解する。		
<b>授業の内容</b> 1. 自律神経系における神経伝達1 (飯野・人体解剖学・神経科学領域・セミナー室) 2. 自律神経系における神経伝達2 (飯野・同上) 3. 消化管における神経支配と機能制御1 (飯野・同上) 4. 消化管における神経支配と機能制御2 (堀口・同上) 5. 臓器機能を支える間質細胞 (堀口・同上) 6. 中枢神経系における神経伝達調節機構1 (深澤・組織細胞形態学・神経科学領域・セミナー室) 7. 中枢神経系における神経伝達調節機構2 (深澤・同上) 8. 神経回路論1 (深澤・同上) 9. 神経回路論2 (深澤・同上) 10. 神経回路論3 (深澤・同上) 11. ミトコンドリアと細胞分化 (菅井・分子遺伝学領域・セミナー室) 12. 代謝と細胞分化 (菅井・同上) 13. 活性酸素と細胞分化 (菅井・同上) 14. タンパク質の機能調節：タンパク質修飾、タンパク質分解、細胞内局在 (黒岡・同上) 15. 転写因子のシグナル伝達；遺伝子発現、細胞増殖、細胞分化、ストレス応答 (黒岡・同上)		
<b>授業の形式</b> 講義形式		
<b>到達目標</b> 多細胞生物にみられる種々の生体制御システムの分子機序を理解するとともに、細胞・組織としての機能を理解する。		
<b>総合評価割合</b> 出席・受講態度の良い学生に対し、理解到達度について評価する。		
<b>評価方法</b> 出席および受講態度・理解度を各担当教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。		
<b>教科書及び参考書</b> 飯野、堀口：講義時に指示する。 深澤：講義時に指示する。 菅井、黒岡：分子細胞生物学 Lodish, Berk, Klieger, Matsudaira, Kaiser著 野田春彦、丸山工作、石川 統、須藤和夫、石浦章一 訳 第5版 2005年 東京化学同人 8,400円		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
代表者 E-Mail	iinosa@u-fukui.ac.jp	

(事務局資料)

資料 1-2-8 平成 21 年度，平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査（教育全般）

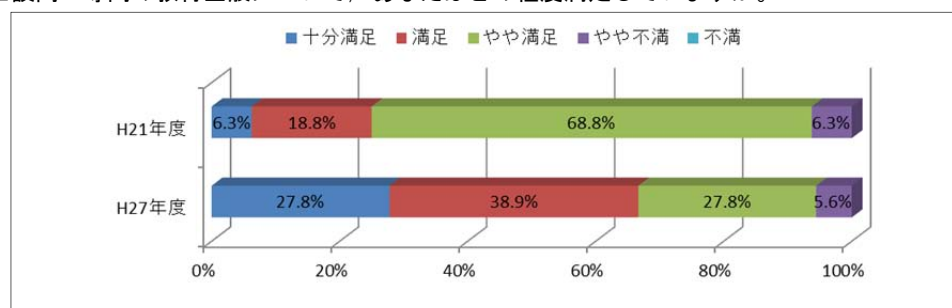
（注：全学対象調査より，医学系研究科大学院生を抽出）

■設問：教育全般について，あなたはどの程度満足していますか。



※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度（十分～やや満足と回答した割合）は，19.4%向上している。十分満足及び満足と回答した割合は 22.9%向上した。

■設問：専門の教育全般について，あなたはどの程度満足していますか。



※ 第 1 期末と比較して第 2 期末では学生の満足度（十分～やや満足と回答した割合）は，0.7%向上している。特に十分満足及び満足と回答した割合は 41.7%向上した。

（平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋）

資料 1-2-9 博士課程授業開設表「共通科目」（平成 27 年度）

専攻	コース	部門	授業科目	配当年次	開設単位		履修時間数			履修方法
					必修	選択	講義	演習	実習	
医統 学合 専先 攻進	共通 科目		医科学基礎総論	1～2	4		60			指導教員の指導により下記のとおり履修しなければならない。  共通科目（必修）18単位
			実験基礎演習	1～2	2			30		
			医科学特論	1～2	6		90			
			先端応用医学概論	1～2	6		90			

「共通科目」は，各専門分野での問題点の抽出，研究テーマの立案，実験プランの作成，実験・調査結果の分析とデータの集積・整理，プレゼンテーション資料の作成，論文の書き方等の指導等を組み合わせた内容となっており，この中には昨今注目された研究倫理に関する E-ラーニングも含まれている。

（事務局資料）

# 福井大学医学系研究科 分析項目 I

## 資料 1-2-10 博士課程・平成 27 年度「共通科目」授業日程

月日	曜日	授業科目名	講義等内容 (タイトル)	担当領域等
4/6	月	医科学基礎総論	大学院授業ガイダンス・実験概説	医学科長
		医科学基礎総論	イオンチャネルに対する電気生理学的研究: 実験手法・研究の流れとその現状・展望	分子生理学
4/13	月	医科学基礎総論	実験倫理学・安全学	ライフサイエンス支援センター-生物資源部門
4/20	月	医科学特論	子どもの心臓収縮と心肥大を調節する新しいCa <sup>2+</sup> 制御因子	統合生理学
4/21	火	実験基礎演習	バイオ実験機器部門ガイダンス	ライフサイエンス支援センター
4/23,24	(木、金)	実験基礎演習	動物演習 I (動物取扱手技)	ライフサイエンス支援センター-生物資源部門
		実験基礎演習	動物演習 II (動物実験手技)	
4/27	月	医科学特論	腸壁内神経の再生・新生	人体解剖学・神経科学
4/28	火	実験基礎演習	バイオデータベース演習	ゲノム科学・微生物学
5/11	月	医科学基礎総論	酵素化学実験法の概要	分子生命化学
5/18	月	先端応用医学概論	ヒトと環境生態(1)	環境保健学
		先端応用医学概論	ヒトと環境生態(2)	環境保健学
5/19	火	医科学特論	嗅覚研究からヒトの心を探る	高次脳機能
5/25	月	医科学基礎総論	組織細胞化学法による形態解析	人体解剖学・神経科学
6/2	火	医科学特論	転写因子活性調節による細胞分化・機能制御	分子遺伝学
6/8	月	医科学特論	脳内神経回路研究	組織細胞形態学・神経科学
6/9	火	先端応用医学概論	人工臓器(1)・人工腎臓	検査部
6/16	火	医科学特論	蛋白質凝集の理解のための諸側面	分子生理学
6/22	月	先端応用医学概論	難治性疾患(難病)・厚生医療(1)	非常勤講師
		先端応用医学概論	ヒトゲノム解析	
6/29	月	医科学基礎総論	定量的分子局在解析の基礎と応用	組織細胞形態学・神経科学
6/30	火	先端応用医学概論	難治性疾患対策事業	腎臓病態内科学
7/6	月	医科学基礎総論	医学研究における動物行動実験	子どものこころの発達研究センター
7/13	月	医科学基礎総論	遺伝子変異マウスを用いた腫瘍生物学研究	薬理学
7/14	火	医科学特論	形態研究の基礎	人体解剖学・神経科学
7/21	火	医科学特論	癌遺伝子と癌抑制遺伝子の最先端研究	薬理学
7/27	月	医科学基礎総論	遺伝医学概論: DNA多型の分子論的基盤	病態遺伝生化学
7/28	火	医科学特論	行動とホルモン	統合生理学
8/24	月	先端応用医学概論	低線量肺がんCT検診の国内外の状況と運用上の課題	非常勤講師
8/25	火	医科学基礎総論	コンピュータを駆使した生体機能の統合(Physiome研究)	統合生理学
8/31	月	先端応用医学概論	応用分子病理学概論	分子病理学
9/1	火	先端応用医学概論	難治性疾患(難病)・小児慢性疾患(2)	小児科学
		先端応用医学概論	疾病構造解析医学概論(生活習慣病)	
9/7	月	医科学基礎総論	分子機能生物学: 転写因子の機能調節による細胞増殖制御について	分子遺伝学
9/8	火	医科学基礎総論	免疫アレルギー反応における抗原受容体シグナル伝達	ゲノム科学・微生物学
		医科学特論	免疫アレルギー反応における細胞内シグナル伝達機構	
9/14	月	先端応用医学概論	同所移植実験モデルを用いた癌転移の解明の試み	産科婦人科学
9/15	火	医科学特論	節足動物介在性感染環の概念	非常勤講師
9/28	月	医科学基礎総論	大学院生研究発表会	大学院セミナー企画部会
9/29	火	実験基礎演習	PubMed データベース演習	医学情報サービス係
10/5	月	医科学基礎総論	小児発達脳科学: 初期経験が「こころ」と「脳」の発達および感受性期	Age2企画
10/20	火	医科学特論	腫瘍性疾患の生体イメージング	高エネルギー医学研究センター
10/26	月	医科学基礎総論	内分泌学研究: 研究の流れ	統合生理学
10/27	火	医科学基礎総論	論文作成法	分子生体情報学
11/2	月	先端応用医学概論	低侵襲性医療	泌尿器科学
11/9	月	医科学特論	細胞分化とクロマチン構造変化	分子生体情報学
		医科学基礎総論	分子内分泌学研究: 内分泌に係る遺伝子発現解析等の概説	
11/16	月	先端応用医学概論	軟骨・椎間板組織の再生医療の現状	リハビリテーション部
		先端応用医学概論	腫瘍性疾患に対する最小侵襲性手術の現状	
11/30	月	先端応用医学概論	アレルギー疾患のゲノム解析	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
		医科学基礎総論	感染免疫応答における細胞内シグナル伝達機構の基礎・分子標的治療薬	ゲノム科学・微生物学
12/1	火	医科学基礎総論	生体分子の構造・物性研究: 分光法と熱力学的データ解析の基礎	分子生理学
12/7	月	医科学基礎総論	生命科学におけるR利用法	高エネルギー医学研究センター
10/27	火	先端応用医学概論	バイオ・インフォーマティクス	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
12/14	月	先端応用医学概論	神経科学と精神医学概論	精神医学
12/15	火	医科学特論	心筋イオンチャネルの機能解析	統合生理学
12/21	月	医科学特論	子宮内腫瘍を標的とした基礎-臨床-創薬の橋渡し研究	分子生体情報学
1/6	水	先端応用医学概論	グローバル化と産業保健	環境保健学
1/7	木	先端応用医学概論	温度環境に起因する家庭内事故 一入浴事故とトイレ事故の実態一	環境保健学
		先端応用医学概論	地域医療構想について	環境保健学
1/12	火	医科学特論	遺伝標識の応用: 個人識別	病態遺伝生化学
1/18	月	医科学基礎総論	放射線の健康影響: 福島原発事故を受けて	高次脳機能
1/22	金	医科学特論	漢方製剤のエビデンスの状況	分子生命化学
1/25	月	医科学基礎総論	PETを用いた生体イメージングと定量測定の基礎	高エネルギー医学研究センター
1/26	火	医科学特論	分子イメージング学	高エネルギー医学研究センター
1/29	金	医科学特論	アストロサイトによる神経信号のアナログ変調のメカニズム	脳形態機能学
2/1	月	医科学基礎総論	論文読解法	生命基礎科学
2/9	火	医科学特論	体内時計の振動メカニズム	行動基礎科学
2/16	火	先端応用医学概論	高度画像解析医学: 基礎と先端応用(PET)	放射線医学
2/22	月	医科学基礎総論	大学院生研究発表会	大学院セミナー企画部会
2/23	火	先端応用医学概論	画像を中心とした教育システムについて	非常勤講師
2/29	月	医科学基礎総論	大学院生研究発表会	大学院セミナー企画部会
3/7	月	医科学基礎総論	大学院生研究発表会	大学院セミナー企画部会
3/14	月	先端応用医学概論	高度画像解析医学: 基礎と先端応用(MR)	放射線医学
3/15	火	医科学特論	糖尿病性合併症の分子化学的基盤	分子生命化学

(事務局資料)

資料 1-2-11 医科学基礎総論に係る「大学院発表会（研究経過方向・検討会）」について

<p>医学研究総論（医科学基礎総論）に係る「大学院生発表会 （研究経過報告・検討会）」について</p> <p style="text-align: right;">平成15年6月5日 博士課程委員会承認</p> <p><b>【目的】</b> 大学院教育の一環として、研究能力の一つとして不可欠である研究成果の発表と討論を遂行する能力の訓練を第一の目的として実施する。さらに研究内容・今後の方針について、広く議論する場を提供する。 併せて、本学の他の教室で行われている研究手法などの情報交換の場とし、学内研究者の交流を図る。</p> <p><b>【方法】</b> 学術公開討論会とは別に行う（学術公開討論会は博士課程修了の判定が目的である）。大学院3年次生が現在取り組んでいる研究内容の概要・結果（場合により今後の展開も含む）を、大学院生（全学年）に対し発表する。 大学院3年次生全員が本年度中に一度は発表する。希望により、他年次生も発表できる。 発表時間10分、質問時間5分程度を目安とする（液晶プロジェクター使用可）。</p> <p><b>【発表等】</b> 発表会は公開とする。 一度は発表することを医学研究総論の履修要件とする。 出席者は、その発表方法、研究手法などについて、積極的にコメントする。</p> <p><b>【その他】</b> 大学院生（全学年）には出席し、発表者に対し積極的に質問・討論することを期待する。 大学院セミナー企画部会が運営にあたり、同部会長（もしくは同部会委員）が司会進行を行う。 教官（とりわけ、博士課程担当教員）も出席し、研究内容について積極的に議論・アドバイスを行う。 発表・討論の様子などは、リサーチアシスタント等選考の際の参考資料とする。</p>
---

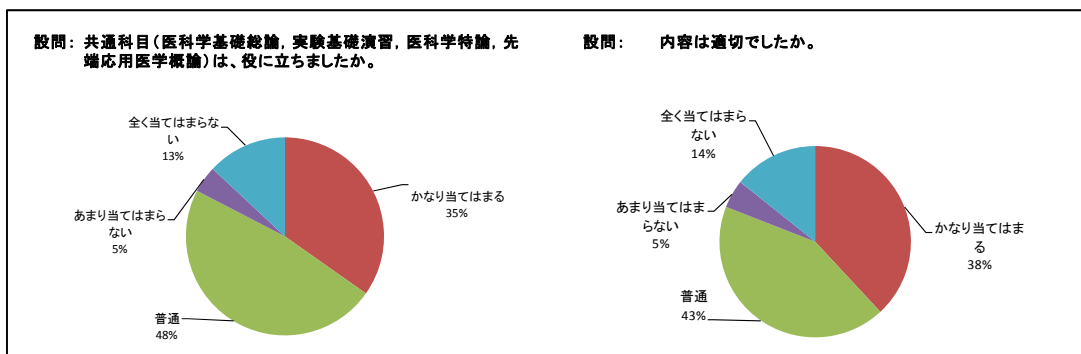
（事務局資料）

資料 1-2-12 博士課程 3年次生研究発表会実施状況（平成27年度）

月日 （曜日）	発表時間(10分) 質疑応答(5分)	専攻	発表テーマ
9月28日 （月）	18:00～18:15	先端応用医学	脳主幹動脈閉塞・狭窄患者及びもやもや病患者のPETにおける血行力学的指標の比較
	18:15～18:30	先端応用医学	Magnetic resonance imaging (MRI) を用いた Arterial spin labeling 法による腎血流量の測定
	18:30～18:45	先端応用医学	マスト細胞におけるC型レクチンMincleの機能解析
2月22日 （月）	18:00～18:15	先端応用医学	非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)を背景とした肝細胞癌の臨床病理学的特徴の検討
	18:15～18:30	先端応用医学	Corticotropin-releasing factor の下部尿路機能に及ぼす影響について
	18:30～18:45	先端応用医学	慢性期脳卒中患者において機能的電気刺激(functional electrical stimulation: FES)が脳機能へ与える即時効果の研究
	18:45～19:00	先端応用医学	ミコナゾール硝酸塩含有石ケンによる外陰部カンジダ症の発症抑制効果に関する研究
	19:00～19:15	統合先進医学	自然発症高血圧ラットの排尿筋過活動におけるセロトニン受容体の関与について
2月29日 （月）	18:00～18:15	統合先進医学	FIMを用いた脳卒中による食事の機能低下の予後予測の研究
	18:15～18:30	統合先進医学	有効な胸骨圧迫を30分間継続するのに必要なrescuer数の検討
	18:30～18:45	統合先進医学	ナノファイバー上の細胞遊走モデルを用いた悪性脳腫瘍浸潤抑制の検討
	18:45～19:00	統合先進医学	2次性変形性動物モデルに対する間葉系細胞移植を用いた変形性関節症予防効果と後根神経節における疼痛関連因子の免疫組織学的評価
3月7日 （月）	18:00～18:15	統合先進医学	マウス脊髄損傷モデルにおけるCCL21が及ぼす疼痛関連評価およびmicroglia/macrophage phenotypeへの影響
	18:15～18:30	統合先進医学	ヒト頸椎椎間板変性に関与するタンパクの免疫組織化学的観察
	18:30～18:45	統合先進医学	Measurement of Precise CBF in H215O PET Study Considering the Delay in Every Pixel
	18:45～19:00	統合先進医学	Different prognostic implications of 18F-FDG PET between histological subtypes in patients with cervical cancer

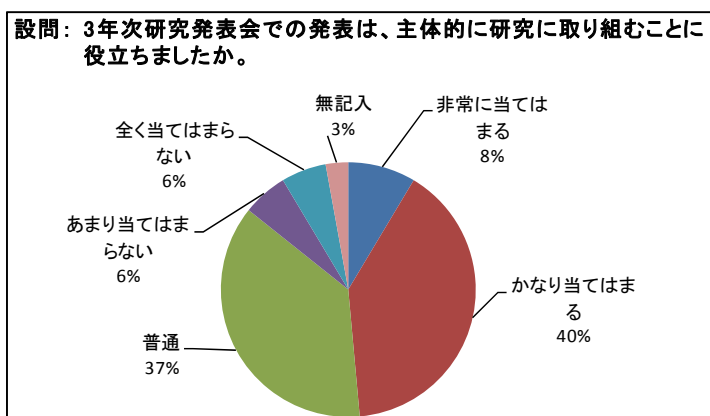
（事務局資料）

資料 1-2-13 博士課程「共通科目」に対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）



（資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）

資料 1-2-14 博士課程 3 年次研究発表会に対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）



（資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）

- ② 修士課程では、教育目的を達成するために共通科目、専門科目を編成し、共通科目は専門的看護実践における課題探求能力，研究者・教育者としての基盤理論を教授する科目を配置，専門科目は，専攻領域の特論・演習・特別研究で構成されている。看護実践能力を高めるため演習や実習で体験型の教育を取り入れており，大学院生の満足度は高い（資料 1-2-15, 16）。

特別研究では，領域ごとに看護学の基盤理論，最先端の専門的知見・事例検討・プレゼンテーション・文献クリティークなどを段階的に享受する科目を配している。また，シラバスを作成することにより，各授業の内容，到達目標，成績評価方法を明確にしており，大学院生の期待に応えている（資料 1-2-17）。

資料 1-2-15 修士課程授業開設表(平成 27 年度)

〔大学院教育の基盤としている共通科目については、専門看護師課程の開設に先立ち、平成25年度に専門看護師課程設置基準に沿って科目数を増加させ、内容を充実させた。〕

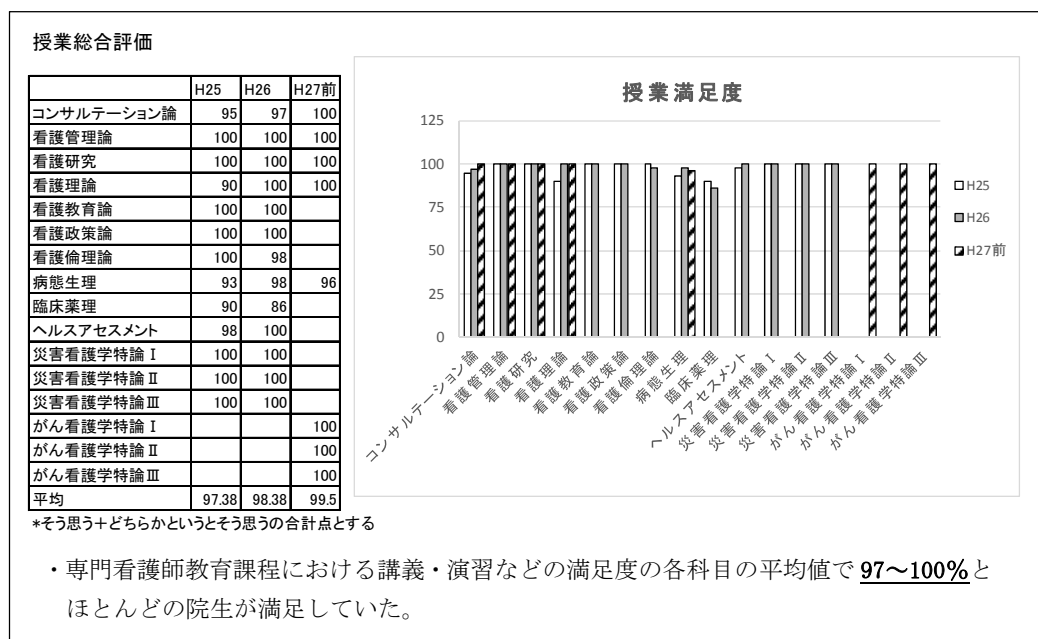
分野	研究領域	授業科目	配当年次	開設単位	履修時間数			履修方法	
					講義	演習	実習		
共通科目		看護研究	1	2	30			指導教員の指導により下記のとおり履修しなければならない。  基礎看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 基礎看護学領域の3科目18単位 地域看護学特論2単位 共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修	
		看護倫理	1	2	30				
		看護理論	1	2	30				
		看護教育論	1	2	30				
		看護管理論	1	2	30				
		看護政策論	1	2	30				
		コンサルテーション論	1	2	30				
		ヘルスアセスメント	1	2	30				
		病態生理学	1	2	30				
基礎・地域看護学	基礎看護学	基礎看護学特論	1	2	30			地域看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 地域看護学領域の3科目18単位 基礎看護学特論2単位 共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修	
		基礎看護学演習	1	4		120			
		基礎看護学特別研究	2	12		360			
地域看護学		地域看護学特論	1	2	30			成人看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 成人看護学領域の3科目18単位 老年看護学特論2単位 共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修	
		地域看護学演習	1	4		120			
		地域看護学特別研究	2	12		360			
成人・老年看護学	成人看護学	成人看護学特論	1	2	30			老年看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 老年看護学領域の3科目18単位 成人看護学特論2単位 共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修	
		成人看護学演習	1	4		120			
		成人看護学特別研究	2	12		360			
	がん看護学		がん看護学特論Ⅰ	1	2	30			母子看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 母子看護学領域の3科目18単位 他分野の特論科目から2単位 共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
			がん看護学特論Ⅱ	1	2	30			
			がん看護学特論Ⅲ	1	2	30			
			がん看護学特論Ⅳ	1	2	30			
			がん看護学特論Ⅴ	1	2	30			
			がん看護学演習Ⅰ	1	2		60		
			がん看護学演習Ⅱ	1	2		60		
			がん看護学実習Ⅰ	2	2		90		
			がん看護学実習Ⅱ	2	2		90		
			がん看護学実習Ⅲ	2	4		180		
	がん看護学実習Ⅳ	2	2		90				
	老年看護学		老年看護学特論	1	2	30			災害看護学領域を専門とする学生 看護研究2単位 災害看護学領域の特論科目及び演習科目から6単位 災害看護学特別研究12単位 他分野の特論科目から2単位 共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を履修
老年看護学演習			1	4		120			
老年看護学特別研究			2	12		360			
母子看護学	母子看護学	母子看護学特論	1	2	30				
		母子看護学演習	1	4		120			
		母子看護学特別研究	2	12		360			
災害看護学	災害看護学	災害看護学特論Ⅰ	1	2	30			* 専門看護師教育課程を専門とする学生の履修に関しては別に定めるが、併せて修士の学位取得のため、課題研究2単位を履修	
		災害看護学特論Ⅱ	1	2	30				
		災害看護学特論Ⅲ	1	2	30				
		災害看護学特論Ⅳ	2	2	30				
		災害看護学演習Ⅰ	1	2		60			
		災害看護学演習Ⅱ	2	2		60			
		災害看護学演習Ⅲ	2	2		60			
		災害看護学実習Ⅰ	2	2		90			
		災害看護学実習Ⅱ	2	3		135			
		災害看護学実習Ⅲ	2	2		90			
		災害看護学実習Ⅳ	2	3		135			
		災害看護学特別研究	2	12		360			
		災害看護学課題研究	1・2	2		60			

(注) 教育上必要があるときは、大学院修士課程委員会の議を経て、授業科目又は単位数を変更することがある。

(事務局資料)



資料 1-2-16 修士課程 専門看護師教育課程 授業に対する総合的満足度調査結果



(事務局資料)

資料 1-2-17 修士課程 シラバス「基礎看護学特別研究」

【基礎看護学特別研究】		
科目名	単位数	開講時期
基礎看護学特別研究	12単位	2年次通年
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス
○長谷川 智子 上野 栄一 上原 佳子	教授/基礎看護学 教授/基礎看護学 准教授/基礎看護学	hasekatz@u-fukui.ac.jp eiichiu@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】		
1 修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にし、研究の意義を見出す。		
2 研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画を作成・実施する。		
3 得られたデータを的確に分析・考察し、研究の臨床的応用を見出す。		
【2 授業内容】		
(主題)	(学習内容)	(教員)
1) 研究課題の明確化	各自の研究課題、問題意識の明確化	長谷川・上野・上原
2) 研究課題の現状と意義の検討	文献クリティーク	〃
3) 研究方法の検討	研究の限界と研究デザインの検討	〃
4) 研究計画の立案	研究デザインの作成	〃
5) 研究計画の実施	計画の実施とデータ収集の実際	〃
6) データ分析	データの分析とその解析方法	〃
7) 結果の評価	結果と考察の文章化	〃
8) 研究の文章化	修士論文の作成	〃
9) 研究内容の公開	効果的プレゼンテーション	〃
【3 授業形式】		
ゼミナール形式と個別指導		
【4 評価方法】		
発表内容、討議への参加度		
【5 教科書及び参考図書等】		
適宜、提示する。		
【6 その他】		


(事務局資料)

●社会のニーズに対応した教育課程の編成と実施上の工夫に関する例

【社会ニーズを踏まえたプログラム等】

- ① 原子力発電所の最多立地県である福井県においては、住民の不安を払拭するためにも、従来より被ばく医療に強い医師、災害看護専門看護師の養成には高いニーズがある。更に東日本大震災以降、緊急被ばく医療の充実が早急に求められている。本学は文部科学省科学技術戦略振興費「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点：緊急被ばく医療に強い救急総合医養成コース」に採択され（平成 21 年度～平成 25 年度）、全国に先駆けて緊急被ばく医療専門医の育成を進め、高く評価された。福島原子力発電所事故では被ばく医療の最前線で活躍した（資料 1-2-18～20）。その実績を大学院教育にも生かし、「地域総合医療学コース」と「災害看護 CNS 課程」の講義と演習を同時開講している。更に、大学院生が地域と協働して防災訓練や地域住民への啓蒙活動にも積極的に参加しており、多職種協働による取組は災害時の被ばく医療はもとより、地域医療の核となる人材を養成する全国のモデルケースとなり、関係者の期待に十分に答えるものである（資料 1-2-21～23）。

資料 1-2-18 緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点概要



**科学技術戦略推進費**  
Strategic Funds for the Promotion of Science and Technology

地域再生人材創出拠点の形成 緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点  
**緊急被ばく医療に強い救急総合医養成コース** (平成 21 年度～平成 25 年度採択)


**事業概要**

福井県の敦賀・若狭地域には数多くの原子力発電所が立地しており、日本のエネルギー産業の大きな担い手となっています。しかしながら、わが国は唯一の被爆国でもあり、住民の間には放射線に対する漠然とした不安があります。住民の原子力施設への安心と理解を得るためには、中核的役割をなす医療機関に「緊急被ばく医療に強い医師」を配置し、地区全体の「緊急被ばく医療体制」を整備することが必要となります。

これまで福井大学では、救急部と総合診療部を合体運営し、日中には広い範囲の診療がこなせる総合診療能力を持ち、かつ夜間・週末は一人で広い範囲の救急診療能力のある医師、すなわち「救急総合医」の養成に挑戦し、福井県内において、いわゆる医療過疎地域での医師確保に一定の成果を上げ、地域医療に貢献してきました（平成 17 年度文部科学省病院 GP 地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム「救急に強い僻地診療専門医の養成プログラム」）。

本事業は、地域で働く医師としての総合的な幅広い診療能力に加え、緊急被ばく医療にも専門性を持ち、地域全体における緊急被ばく医療体制の指導的役割を担うことのできる人材を育成することで、地域医療の充実とともに緊急被ばく医療の整備をはかり、住民の健康と安全に貢献するものです。

**緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点 実施体制**



総括責任者 福井大学長


緊急被ばく医療に強い救急総合医養成連携協議会  
敦賀市、市立敦賀病院、福井大学医学部、附属病院、若狭病院、若狭大学、若狭大学附属病院、若狭大学附属病院、若狭大学附属病院、若狭大学附属病院

緊急被ばく医療に強い救急総合医の養成拠点  
市立敦賀病院 福井大学医学部附属病院 被ばく医療施設

緊急被ばく医療に強い救急総合医  
地域医療の再生 地域住民の原子力に対する不安を払拭

市立敦賀病院・福井県内外の医療施設

**緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点 実施内容**




緊急被ばく医療 専門医養成コース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
救急診療研修 福井大学医学部附属病院 4名 (4名)	総合診療研修 市立敦賀病院 4名 (8名)	被ばく医療研修 被ばく医療施設 4名 (12名)	海外被ばく医療研修 REACT(USA)等 2名 (14名)	被ばく医療指導者研修 原子力安全研究協会等 2名 (16名)


緊急被ばく医療 指導医養成コース

**緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点 実施体制**



市立敦賀病院、若狭地域の医療機関、福井県立病院、福井大学医学部附属病院

卒業7年次  
卒業6年次  
卒業5年次  
卒業4年次  
卒業3年次



(緊急被ばく医療に強い救急総合医養成コース HP, 福井大学救急部・総合診療部 HP より)

資料 1-2-19 被曝医療に強い救急医育成に関する記事

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(朝日新聞記事フロントランナー平成 23 年 11 月 19 日より)

(事後評価)

**緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点**

**実施機関：**福井大学（総括責任者：眞弓 光文）

**実施期間：**平成 21～25 年度

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
S	a	s	a	s	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

緊急被ばく医療は救急医療とともに福井県の地域医療の根幹をなすものであり、各種の医療専門職者の緊密な連携を必要とする領域である。本プロジェクトは、福島原発事故対応での研修生の活躍ばかりではなく、地元の救急医療体制の改善や緊急被ばく医療アドバイザーとして有事の際に地域行政へ参画する仕組の構築等に大きく貢献しているなど、高く評価できる。今後は、医療をチームワークによって支える各種の医療専門職者を継続的に養成しながら、多様な災害にも対応できるような波及努力を期待する。

- ・**目標達成度：**緊急被ばく医療に強い3年コースの専門医12名と5年コースの指導医2名という養成目標数の修了者を輩出した点は、修了者が養成目標に相応しい活躍をしていることとともに評価できる。
- ・**人材養成手法の妥当性：**シミュレーション実習を主体とする実践的人材養成手法は、豊富な臨床経験を通しての救急総合診療医としての診療能力の担保、原子力関連施設での外部研修、海外研修、福井県原子力防災訓練への参加、及び福島第一原子力発電所での実地研修等を伴い、さらに看護師、放射線技師等の医療専門職者を育成していることと併せ、妥当であり、高く評価できる。
- ・**実施体制・自治体等との連携：**市立敦賀病院との教育連携、修了者の就職を通しての他病院・他大学との密接な連携、福井大学福井メディカルシミュレーションセンター建設に対する福井県の補助など、地域自治体と大学との実効的な連携は評価できる。
- ・**人材養成ユニットの有効性：**受講者が実地研修を兼ねて福島第一原子力発電事故における緊急被ばく医療の初動体制の確立と現場での初期治療に関わった点、また、修了者が被ばく医療支援を継続していることを含めて、修了者の大部分が救急総合診療医として地元で活躍するだけでなく、緊急被ばく医療専門アドバイザーなど緊急被ばく医療に関わる啓蒙活動を行っていることなどは、高く評価できる。
- ・**継続性・発展性の見通し：**原子力事業者、自治体、各種団体との協力関係を構築し、医療専門職者への教育拡大を含めて引き続き本プロジェクトを継続していく方針の下、福井大学福井メディカルシミュレーションセンターを設立、活用し、「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」での継続が決定していることは高く評価できる。今後は、地域の救急医療・総合医療にも対応できる人材層を一層拡充することとともに、弘前大学、福島県立医科大学等との連携を進めながら、緊急被ばく医療の全国的な拠点に成長することを期待する。
- ・**中間評価の反映：**被ばく医療に強い実践的な臨床医に加えて、看護師等の他職種への育成も重要という中間評価の指摘に応じて、福井大学大学院に災害看護専門看護師教育課程が開講された点などは評価できる。

(事務局資料)

資料 1-2-21 博士課程 シラバス「地域総合医療学・臨床疫学特論Ⅱ (ER 救急学)」

地域総合医療学コース		
授業科目名	教員名	職名/所属
地域総合医療学・臨床疫学特論Ⅱ (ER 救急学)	林 寛之 寺澤 秀一 木村 哲也 嶋田 喜充 山村 修 井階 友貴	教授/総合診療部 教授/地域医療推進講座(寄付講座) 准教授/救急部 講師/救急部 講師/地域医療推進講座(寄付講座) 講師/地域プライマリケア講座 (寄付講座)
単位数 2単位		
コマ数 15コマ		
開講時期 1～3年次		
キーワード 北米型 ER	(コーディネーター) 林 寛之	教授/総合診療部
<b>学習目標</b>		
ER(北米型救急医療)の人材養成を目的とした、医学教育を修得する。地域ならではのすべての救急患者を受け入れるシステム構築手法、およびプロフェッショナリズムを修得する。臨床疫学を学び、実臨床に即した研究手法を学ぶ。		
<b>授業の内容</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北米型 ER と ICU 型救急 日本の社会構造における位置づけと運営</li> <li>2. IT 活用と文献収集・救急臨床疫学</li> <li>3. 高齢者救急と地域連携</li> <li>4. Grieving care in ER</li> <li>5. ER コミュニケーションスキルおよびプレゼンテーションスキル・ER の Faculty development とメディア力</li> <li>6. ED overcrowding および社会のセーフティネットの構造</li> <li>7. 精神科救急(自殺、アルコール依存、薬物依存)</li> <li>8. パーンアウト症候群と医療倫理</li> <li>9. リスクマネージメント、医療安全、医療訴訟</li> <li>10. 小児虐待 配偶者虐待 老人虐待 社会的弱者(浮浪者、貧困、孤立など)と法整備</li> <li>11. 緊急放射線被ばくの実際、ALARA vs. SAHARA</li> <li>12. 災害医療と DMAT</li> <li>13. プレホスピタルケアと社会リソース</li> <li>14. 各専門内科における地域医療学: 初期診断・治療・連携のタイミング</li> <li>15. 各専門外科における地域医療学: 初期診断・治療・連携のタイミング</li> </ol>		
<b>授業の形式</b>		
講義形式を原則とする。		
<b>到達目標</b>		
社会のセーフティネットとしての北米型 ER の特殊性を理解し、地域や病院のリソースと協調しつつ、ER を効率よく効果的に運営できる		
<b>総合評価割合</b>		
出席を重視する。		
<b>評価方法</b>		
口頭試問、ミニテスト、レポートなど		
<b>教科書及び参考書</b>		
Thintinalli's Emergency Medicine, Step Beyond Resident		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
代表者 E-Mail	hhaya@u-fukui.ac.jp	

(事務局資料)

資料 1-2-22(1) 修士課程 シラバス(1)「災害看護学特論 I」

<b>【災害看護学特論 I】</b>		
科 目 名	単位数	開 講 時 期
災害看護学特論 I	2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス
○酒井 明子 野戸 結花 磯見 智恵 木村 哲也 松本 英樹  山崎 加代子 高山 裕喜枝 清水 誉子 上田 耕蔵 永井 幸寿	教 授/災害看護学 教 授/弘前大学 教 授/成人・老年看護学 准教授/救急医学 准教授/高エネルギー医学研究センター がん病態制御・治療部門 准教授/福井県立大学 救急認定看護師/看護部 助 教/災害看護学 病院長/協同生協病院 弁護士/アンサー法律事務所	sakaiaki@u-fukui.ac.jp noto@cc.hirosaki-u.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp tkimu@u-fukui.ac.jp hidekim@u-fukui.ac.jp  yamazaki@fpu.ac.jp yukie@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp ueda@kobe-iseikyo.or.jp koju-answer@bell.ocn.ne.jp
<b>【1 学習目標】</b>		
災害種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題を生活の側面や地域社会への影響の側面から理解する。災害発生時の生活の問題に関連した法律や制度を理解し、災害対応政策の現状と課題を検討し、考察する。		
<b>【2 授業内容】</b>		
(主題)	(学習内容)	(教員)
1 災害種類別による生活上の諸問題	災害種類における身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題	酒井・山崎・高山 磯見・清水
2                    "	"	酒井・山崎・高山 磯見・清水
3 災害サイクル別による生活上の諸問題	災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題	酒井・山崎・高山 磯見・清水
4                    "	"	酒井・山崎・高山 磯見・清水
5 災害時に発生する健康課題	災害に関連する疾患および災害関連死と発生要因	上田
6                    "	災害関連死に関する災害対応政策の現状と課題	上田
7 災害が人体に及ぼす影響と社会的課題	災害が人体に及ぼす影響—放射線による人体影響に関する対策	松本
8                    "	放射線による社会的課題	松本
9                    "	緊急被ばくに対する災害対応政策	松本
10 災害事例と災害対策	事例からみた各災害における災害対応政策の実際と課題	木村
11                   "	"	木村
12 災害事例と看護の課題	事例からみた各災害における生活上の問題・地域社会への影響と看護	野戸
13                   "	"	野戸
14 災害に関連した法律や制度	災害時の諸問題と法	永井
15                   "	法改正の背景と今後の課題	永井
<b>【3 授業形式】</b>		
講義及びプレゼンテーションと討議		
<b>【4 評価方法】</b>		
授業への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。		

(事務局資料)

資料 1-2-22(2) 修士課程 シラバス(2)「災害看護学実習Ⅳ」

<b>【災害看護学実習Ⅳ】</b>		
科 目 名	単 位 数	開 講 時 期
災害看護学実習Ⅳ	3 単位	2 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス
○酒井 明子 木村 哲也 磯見 智恵 繁田 里美 月田 佳寿美 麻生 佳愛 川口めぐみ 清水 誉子 鈴木 勝博	教 授／災害看護学 准教授／救急医学 教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 講 師／成人・老人看護学 講 師／精神看護学 助 教／災害看護学 救急救命士／永平寺町消防本部	sakaiaki@u-fukui.ac.jp tkimu@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp kawaia@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp katsukun900r2005@yahoo.co.jp
<b>【1 学習目標】</b>		
災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における地域に根ざした看護活動の実際を学び、被災者を取り巻く他職種とのネットワークを活用した実践能力を養い、災害看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）を分析し、専門看護師としての将来展望をもつ。		
<b>【2 授業内容】</b>		
(主題)	(学習内容)	(教員)
1 地域における減災・防災に貢献する専門看護師の必要性と役割の開発	地域の歴史・文化・対象者の特性を把握し、地域全体の視点から、課題を探求し、減災・防災に貢献する災害看護専門看護師として、地域との連携を考慮した役割の必要性を分析する。	酒井・磯見 繁田・月田 麻生・川口 清水
2 地域における減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究	地域のネットワークを活用し地域に寄り添う企画を実践し、複雑で解決困難な問題に対して地域の資源を活用した解決方法を探究する。 (地元消防との連携実習として、大規模災害に備えて、応急救護所および避難所活動のシミュレーションを企画し、永平寺町住民と協働し、大規模災害を想定した訓練を行う。永平寺消防職員と協働し住民への救急救命講習を行う。また、地元の消防との連携により救急車同乗実習を行い、災害医療初動体制における実践能力を学ぶ。)	酒井・川口 鈴木
3 原子力施設が立地する地域において減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究	原子力施設が立地する地域において地域のネットワークを活用した企画を実践し、減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究する。 (原子力施設と共存・共栄できるまちづくりとして原子力関連団体と協働し、原発立地県住民へのスクリーニング指導、放射線の絵本作りと地元小学校へのエネルギー環境教育、放射線による健康被害、地域被ばくフォーラムを実施)	酒井・木村
4 実践事例を通じた課題探求と評価	地域に根ざした他職種とのネットワークにおける災害看護の実践能力を発揮するために必要な能力について議論し、課題を探求し評価する。	酒井
<b>【3 授業形式】</b>		
実習及びプレゼンテーションと討議		

(事務局資料)



資料 1-2-23(1) 修士課程 大学院生協力啓蒙活動(1)

平成 27 年 11 月 11 日

教職員 各位

看護学科長  
酒井 明子

文部科学省「地(知)の拠点整備事業  
「つながれ地域の絆  
～楽しく学ぼう!災害時の応急手当～」について(ご案内)

本セミナーは、COC事業の一環として平成25年度より本学と永平寺町消防本部が連携して開催していますが、今年度は、応急手当てをより身近に感じていただきたいと永平寺町消防署員や本学学生・大学院生による寸劇を交えたセミナーを予定しております。一般向けには対象を永平寺町民、福井大学学生としていますが、本学教職員も積極的にご参加いただきたいと存じます。参加のお申し込みは、下記申込窓口までお願いします。ご多用とは存じますが、多数のご参加をお願い申し上げます。

記

日 時: 平成27年12月12日(土) 9:00~12:00  
場 所: 福井大学松岡キャンパス体育館  
内 容: 寸劇による心肺蘇生法・AED・三角巾講習など  
持 ち 物: 内履き  
本学申込め切: 平成27年11月30日(月)  
申込窓口: 松岡キャンパス学務室 医学教育第二係  
TEL 内線 2142 E-mail [gmtigaku-2k@ad.u-fukui.ac.jp](mailto:gmtigaku-2k@ad.u-fukui.ac.jp)

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

## つながれ地域の絆

～楽しく学ぼう!災害時の応急手当～

福井大学と永平寺町との連携

日時 平成27年 **12月12日(土)** 9:00▶12:00

場所 福井大学松岡キャンパス体育館  
(永平寺町松岡下合月23-3 TEL:0776-61-3111(代))

内容 寸劇による心肺蘇生法・AED・三角巾講習など

対象 永平寺町民、福井大学学生

お申込め切 平成27年11月10日(火)

**参加費 無料**

※体育館使用のため、内履きをご持参ください

お問い合わせ・お申込先

<p><b>福井大学医学部</b> 〒910-1192 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3 TEL/FAX 0776-61-8556 Mail: <a href="mailto:sakakaki@u-fukui.ac.jp">sakakaki@u-fukui.ac.jp</a> 組織: 看護学科 酒井</p>	<p><b>永平寺町消防本部</b> 〒910-1153 福井県吉田郡永平寺町松岡春日1-4 TEL 0776-61-0179 FAX 0776-61-0168 Mail: <a href="mailto:shobo@town.ehweji.jp">shobo@town.ehweji.jp</a> [関係先代表] <a href="mailto:shobo-suumu@town.ehweji.jp">shobo-suumu@town.ehweji.jp</a> [関係連絡] 組織: 呼出、警務</p>
---	---

地(知)の拠点 主催: 福井大学・永平寺町



(事務局資料)

資料 1-2-23 (2) 修士課程 大学院生協力啓蒙活動 (2)

つながれ地域の絆～楽しく学ぼう！災害時の応急手当～ 参加者の感想

■ 指導学生への感想

- 1 班ごとにサポートの方がついて下さったことで分かりやすく学べました。また、気軽に質問できたので助かりました。
- グループスタッフの方々の対応がとても良かった。
- スタッフの方がそばにいたので丁寧に教えてもらえて良かった。
- グループの指導者の方の説明・指導がとってもわかりやすかった。感謝。
- 学生さんのサポートが気さくで色々教えて下さった。ありがたかった。
- 消防のひと、医大の人がグループに入っていて心強かった。
- 一体感が感じられて、良かったです。

■ 大学への感想

- 福井大学のサポートがあって分からない点の質問が出来てとても良かった。
- 大学からのサポートがあり理解しやすかった。
- 大学が加わっていた事で地域の若い力を感じる事が出来心強い気持ちでした。
- 福井大学のサポートが大変良かった。

(事務局資料)

② 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択（平成 19 年度）された「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム（北陸がんプロ）」の実施機関の 1 つとして（資料 1-2-24, 25），本学のがん専門医やがん専門看護師養成の取組を更に進め，認定医も誕生しており，社会の要請であるがん専門職の育成促進に適切に対応している。

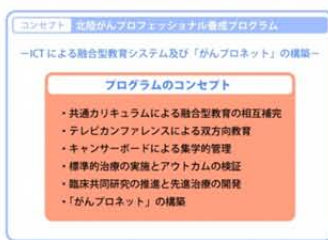
平成 26 年度から文部科学省の新規事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』として「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業（認プロ）」に採択され，平成 27 年度に 1 名が入学した（資料 1-2-26, 27）。

資料 1-2-24 北陸がんプロの概要とコンセプト

平成19年4月から施行された「がん対策基本法」の第14条には“国及び地方公共団体は、手術・放射線療法・化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の養成を図るために必要な施策を講ずるものとする”と記載されている。この趣旨に基づき、文部科学省が“がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがんに関わるコメディカル等、がんに特化した医療人の養成を行うための大学（大学病院、大学院）の優れた取り組みを支援する”目的で平成19年度から創設した計画が「がんプロフェッショナル養成プラン」です。



本プログラムには3つのコースが設定されています。①つ目は「北陸がんプロフェッショナル専門医養成コース」であり、高い臨床能力と研究能力を併せ持った臨床医を養成するために、大学院博士課程4年間の間に、がん臨床とがん研究との教育指導の両者をバランスよく按分することによって、効率的な環境下（充実した教育指導と高度な機器）で学位の取得とともに各科専門医資格、腫瘍専門医認定が得られることを目指す石三鳥のプログラムです。②つ目はがん専門コメディカルの養成を目的とした「北陸がんプロフェッショナルがん専門薬剤師養成コース」、「北陸がんプロフェッショナルがん専門看護師養成コース」、「北陸がんプロフェッショナルがん専門診療放射線技師養成コース」で、がん医療に特化した実践的教育を、医師も含め職種を越えて高度な融合型教育を行い、学位の取得とともに、がんチーム医療に積極的に関与できる職業人の養成を目指すプログラムです。③つ目は「北陸がんプロフェッショナル インテンシブ医師コース」、「北陸がんプロフェッショナル インテンシブコメディカルコース」です。対象は、すでに学位や学会の専門医、認定医を取得した医師や一定の実務経験を有するコメディカルで、科目等履修生等により一定期間の講義や臨床実習を受けることにより、がんの診断・治療・研究に必要な高度な知識・技術の修得を目指すコースです。



本プログラムの特色は、高い臨床能力と研究能力を併せ持つがん専門医師及びコメディカル養成のための融合型教育システムの構築で、教育ツールのICT(information & communication technology)を「がんプロネット」として北陸地域内外でのがん情報発信・交換にも活用することです。本プログラムに参加する4大学病院及びがん診療連携拠点病院は北陸地域のがん患者の70%以上を診療しており、参加全病院に各種がん診療の標準化を求め、地域のがん診療の質的向上、均てん化を図る。集積されたがん診療のデータベースを用いて、アウトカムの検証を行い、診療向上のためにフィードバックするとともに、臨床共同研究に発展予定です。また、本プログラムで実践されるチームワークを重視した医師及びコメディカルの融合型教育システムは、わが国のがんプロフェッショナル養成システムのモデルとして期待されています。

(資料「北陸がんプロ HP 及び文部科学省 HP」から)

資料 1-2-25 北陸がんプロの実績

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	受講者	修了者	受講者	修了者	受講者	修了者	受講者	修了者	受講者	修了者	受講者	修了者
インテンシブコース	4		10									
看護師インテンシブBコース	9	7	8	3	2	0	1	0				
在宅緩和医療医師養成コース							0	0	8	2	7	3
在宅緩和医療スタッフ養成コース							2	0	19	7	17	2

	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数
がんセンターボード検討会 (福井大学関係者:内数)	23	1,058 (276)	23	1,308 (238)	22	1,338 (269)	24	1,470 (222)	20	1,149 (180)	20	1,179 (169)

対象者: 各大学教職員、大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等医療スタッフ、基礎医学研究者、その他希望する者

チーム養成基盤形成プラン	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数	開催数	参加者数
看護セミナー			1	82	1	94	1	120	1	88	1	82
県民公開シンポジウム			1	444		334	1	339	1	304	1	225
看護事例検討会					10	83	8	46	8	52	8	58

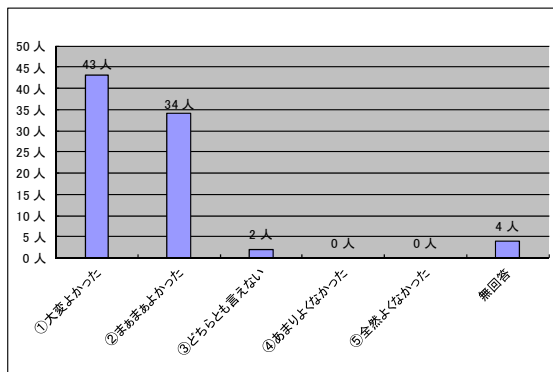
平成27年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン  
看護セミナー「患者さんのその人らしい生活を支えるために」  
H27. 10. 12実施

アンケート集計結果(83件) 回収率100%

当日参加人数	事前申込者	19名	職業内訳	看護師	15名
	当日参加者	4名		保健師	1名
	学生	59名		学生	60名
				その他	7名
	計	0		計	83名

5. このセミナーはいかがでしたか

①大変よかった	43人
②まあまあよかった	34人
③どちらとも言えない	2人
④あまりよくなかった	0人
⑤全然よくなかった	0人
無回答	4人
計	83人



\*主な感想

医師・看護師・患者の視点から意見を聞くことができより理解することができた。  
とても勉強になった。色々なことについて深く考えさせられた。  
認定看護師さんの話を聞く機会がなかなかないので、貴重な経験になったと思います。  
がんという1つの病気に目を向けて、専門的な目線から学ぶことが出来てよかったです。  
栄養について考える機会となった。最近の治療、大学で行われていることの理解ができた。事例について日々患者をしっかりと観察することが大切。患者が選択したことによりそうが大切で患者さんが選択したことをサポートしていく中で、患者さんが変化したことと一緒に考えていける余裕を持ちたいです。  
患者の参加はとても良いと思います。ただ患者にはわかりやすいように抽象的な表現は避けた方がいいとおもいました。  
学校でははするののできない体験ができました。すごく看護について考えさせられて、どうしたら患者にとって一番いいケアができるのかが難しく感じました。  
我々にとって非常に有益なセミナーではあったが、参加された患者さんにとってどれほど得るものがあったのか疑問である。患者さんむけのセミナーを別に開催するべきだと思った。患者さんに事例紹介よりもっと分かりやすい学習会のかたちがあるのではないかと思う。  
事例検討があって、具体的なイメージがしやすくてよかったです。患者さんの背景に気づき、多職種で連携して支えていくことが大切だということを改めて感じました。  
学生にとって少し難しいと思いました。  
一般人には専門的すぎてわかりにくい。次元がちがう。実施するならば、もっと理解できる言葉でお願いします。でも、とっても有意義な3時間でした。

(事務局資料)



資料 1-2-26 認プロの概要とコンセプト

### 課題解決型高度医療人材養成プログラム

平成26年度予算額:10億円

#### ① 概要

高度な教育力・技術力を有する大学が主として、我が国が抱える医療現場の課題等に対して、科学的根拠に基づいた医師が提供できる優れた医師・歯科医師・看護師・薬剤師等を養成するための教育プログラムを実施・展開する

#### ② 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成

○医師の過剰・発給により削減される知識・技能の高度化、社会が求められる医師ニーズの多様化等により、高度な知識・技能を有した医師の養成の急務  
○「病予医療」に照らして、「見える医師」の観点も加わった健康寿命への延伸

○大学病院等の拠点化・ネットワーク化による幅広い知識・技能・経験を習得できる高度な医療人材の養成

#### ③ 地域医療の課題

○地域医療の課題  
○地域医療の課題  
○地域医療の課題

○地域医療の課題  
○地域医療の課題  
○地域医療の課題

### 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

**北陸医科大学4大学拠点ネットワーク**  
**金沢大学 (中核拠点)**  
**福井大学** (e-learning教材、合同テレビカンパレンス等の共通科目実施、単位の互換制度の活用)  
**富山大学**  
**金沢医科大学**  
**研究施設** (研究所、民間企業ほか)  
**地域医療機関** (認知症医療センター等)  
**地方自治体** (石川県七尾市(中島市民センター・金沢大学中島研究拠点))

**大学拠点間のネットワークを活用した  
地域医療機関・研究施設・自治体との連携による特色のあるプログラムの設置**

1. 認知症チームリーダー養成コース(本科コース)(大学院生が対象、全大学に設置するメインプログラム)
2. 地域認知症専門医師研修コース(インテンシブコース)(地域医療機関に勤務する医師が対象、全大学に設置)
3. スペシャルコース(認知症・神経難病の臨床病理研修、地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修ほか)
4. スーパーコース(認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒業一貫教育コース)

**養成する人材**  
**認知症に関して高度な知識や技能を有し、地域における認知症診療・認知症対策のリーダーとなる  
認知症プロフェッショナル医師を養成する。**

(資料「認プロ HP 及び文部科学省 HP」から)

資料 1-2-27 認プロの実績)

<b>26年度</b>			
<b>市民公開講座</b>			
	2月22日「認知症を知る・治す・防ぐ」	金沢大学	—
* 本学濱野准教授・パネリストとして参加			
<b>27年度</b>			
<b>市民公開講座</b>			
	11月22日「みんなで知ろう若年性アルツハイマー病」	福井大学	280名
<b>デメンシアカンファレンス</b>			
	日時	タイトル	開催及び発信
第1回	4月28日	小脳と脳幹の委縮を伴った若年性認知症の一例	金沢大学 神経内科 9名
第2回	5月27日	長期間の経管栄養から離脱できたレビー小体病の一例	富山大学 神経精神医学 8名
第3回	6月23日	亜急性の経過をたどった記憶障害の一例	福井大学 内科学(2) 26名
第4回	7月30日	抑うつ状態で発症し認知障害を呈した一例	金沢医科大学 精神神経科学 15名
第5回	8月18日	近時記憶障害で発症した家族歴のある認知症の一例	金沢大学 神経内科 4名
第6回	9月17日	脳梗塞を繰り返し、認知機能低下が進行した一例	富山大学 神経内科 12名
第7回	10月27日	気分変動を伴うレビー小体病の一例	福井大学 精神医学 15名
第8回	11月20日	入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の一例 地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている幻覚、妄想のある認知症の症例	石川県立高松病院 3名 国立病院機構北陸病院
第9回	12月4日	うつ病治療中に認知機能低下をきたした一例	金沢医科大学 高齢医学 7名
第10回	1月12日	進行性の認知機能障害を認めた若年男性の一例	金沢大学 神経内科 6名
第11回	2月23日	進行性失語症が疑われる一例	富山大学 神経精神医学 5名
第12回	3月15日	進行する認知機能低下を発症した炎症性脳アミロイド血管症の一例	福井大学 内科学(2) 11名
<b>FD講演会</b>			
	日時	タイトル	開催及び発信
第1回	5月18日	アミロイドに関するセミナー	金沢大学 13名
第2回	11月13日	認知症の治療—疾患別対応の重要性とその応用—	富山大学 1名
第3回	11月16日	アルツハイマー病の危険因子	金沢医科大学 1名
第4回	12月7日	認知症の先制医療：バイオマーカーによる診断技術の進歩と予防的介入	金沢医科大学 2名
第5回	12月15日	ヒトならびに動物モデルを用いたタウPETイメージング・創薬ツールとしての可能性	福井大学 20名
第6回	2月10日	認知症の患者・家族に対する多職種連携アプローチ	金沢医科大学 1名
第7回	2月17日	脳内脂質代謝変動とアルツハイマー病分子病態	金沢医科大学 2名
<b>キャリアアップ支援セミナー</b>			
	日時	タイトル	開催及び発信
第1回	10月13日	臨床医から製薬企業へのキャリアパス—抗認知症薬開発に携わって—	金沢大学 0名
<b>認知症チーム医療・ケアセミナー ※第8回デメンシアカンファレンスと同時に開催</b>			
	日時	タイトル	開催及び発信
第1回	11月20日	地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割	金沢大学 3名
<b>27年度教育コース履修者状況</b>			
	教育コース名		履修者数
福井大学	認知症チーム医療リーダー養成コース(本科コース) 募集2名	4月受入1名	1名
	地域認知症専門医師研修コース(インテンブコース) 募集5名	5月受入1名、11月受入1名	2名
<b>認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井大学 (院生棟4階セミナー室)</li> <li>・金沢大学 (医薬保健学域医学類教育棟下多目的室)</li> <li>・富山大学 (付属病院2階カンファレンスルーム2)</li> <li>・金沢医科大学 (基礎研究棟3階大学院セミナー室)</li> <li>・国立病院機構医王病院 (臨床研究棟会議室)</li> <li>・国立病院機構北陸病院 (特殊診療棟2階小会議室)</li> <li>・福井県立すこやかシルバー病院 (管理棟2階応接室)</li> <li>・石川県立高松病院 (医局会議室)</li> <li>・谷野呉山病院 (共通棟1階ミーティング室)</li> <li>・魚津緑ヶ丘病院 (5階会議室)</li> </ul>			

(事務局資料)

【地域への教育サービス】

平成 22 年度には、社会人の学び直しと地域医療をリードする高度実践能力を有する看護師の養成のため、看護キャリアアップセンターを設置し、看護職のキャリアアップ支援に向けた教育活動の推進を図っている(資料 1-2-28, 29, 別添資料 7)。

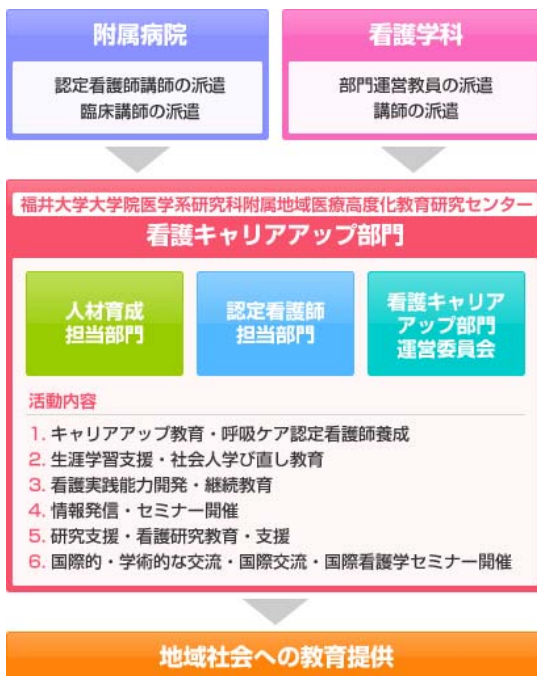
また、人材育成担当部門で、主に現場で働く看護師を対象に企画・開講している能力開発講座の参加者は年々増加傾向にあり、北陸を中心とする地域の看護師の現任教育に大きく貢献している(資料 1-2-30~32)。

資料 1-2-28 看護キャリアアップセンター・認定看護師教育課程設置検討経過

年度	検討内容等
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井大学大学院医学系研究科附属看護キャリアアップセンター設置</li> <li>・呼吸ケアCN分野認定審査（日本看護協会）</li> <li>・カリキュラム検討ワーキングによる基準カリキュラム最終調整（日本看護協会）</li> <li>・基準カリキュラム提出</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護」シラバスの策定・検討，科目担当教員・非常勤講師案の検討・策定</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護」認定看護師教育機関認定申請書提出</li> <li>・平成23年度受講生募集</li> <li>・機関認定審査，教育機関認定（日本看護協会）</li> <li>・機関認定登録手続き</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護分野」第1期生入学審査，入学者発表（入学者30名）</li> </ul>
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院医学系研究科附属看護キャリアアップセンターを改組し，大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター設置</li> <li>・認定看護師教育課程「慢性呼吸器疾患看護分野」開講</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護分野」第2期生入学審査，入学者発表（入学者28名）</li> </ul>
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「慢性呼吸器疾患看護」教育機関認定確認（日本看護協会）</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護分野」第3期生入学審査，入学者発表（入学者29名）</li> <li>・「手術看護分野」開講の必要性について，看護キャリアアップ部門運営委員会で承認</li> <li>・「手術看護分野」シラバスの策定・検討，科目担当教員・非常勤講師案の検討・策定</li> </ul>
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手術看護分野」認定看護師教育機関認定申請書提出</li> <li>・「手術看護分野」平成26年度受講生募集</li> <li>・機関認定審査，教育機関認定（日本看護協会）</li> <li>・機関認定登録手続き</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護分野」第4期生入学審査，入学者発表（入学者29名）</li> <li>・「手術看護分野」第1期生入学審査，入学者発表（入学者22名）</li> </ul>
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師教育課程「手術看護分野」開講</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護分野」第5期生入学審査，入学者発表（入学者24名）</li> <li>・「手術看護分野」第2期生入学審査，入学者発表（入学者22名）</li> </ul>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手術看護分野」教育機関認定確認（日本看護協会）</li> <li>・「慢性呼吸器疾患看護分野」第6期生入学審査，入学者発表（入学者25名）</li> <li>・「手術看護分野」第3期生入学審査，入学者発表（入学者14名）</li> <li>・新規認定看護師教育課程分野の開講にむけ，情報収集及び検討</li> </ul>

(看護キャリアアップセンター資料から抜粋)

資料 1-2-29 看護キャリアアップセンター概要



(看護キャリアアップセンター資料から抜粋)



資料 1-2-30 看護キャリアアップセンター 人材育成担当部門概要

スキルUP ↑

人材育成  
担当部門

**目的**

再就業を目指す潜在看護師、看護基礎教育修了後の新卒看護師、様々な分野で専門性を高めたい就業看護師に対する教育を提供します。

**意義**

平成21年7月に開催された第171回通常国会において、「保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律案」が可決、成立され、新人看護職の卒後臨床研修が努力義務化されました。これは国の義務、病院等開設者の責務、看護師等の個人の責務に負うところですが、本学としても近隣施設のリーダーとして卒後臨床教育を提供する責務を負っており、本講座を開講することでその責務を果たします。

また、本学看護学科と附属病院が持つ高い水準の看護教育を、教育施設を持たない医療施設に勤務する看護師に提供することは、地域社会全般の看護師の質の向上に貢献することにつながると考えます。

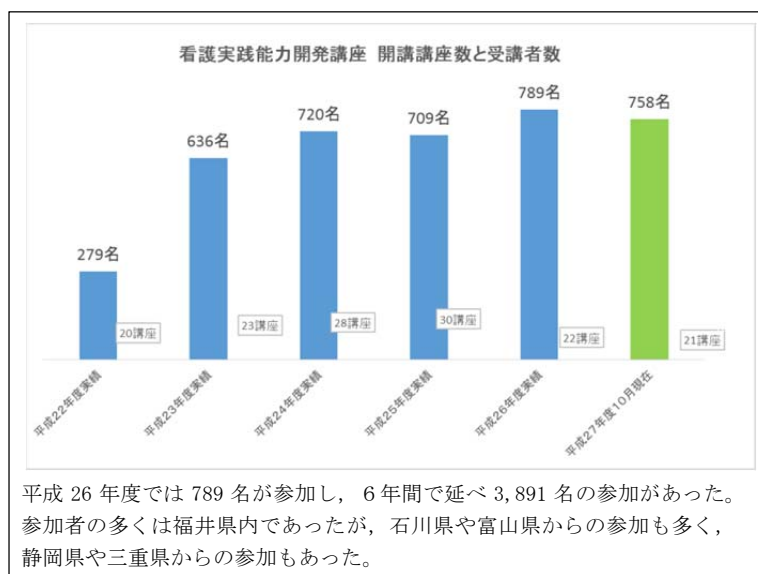
**講座内容一覧**

<p>※講座内容については、都合により変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護研究（あなたでもできる調査研究）</li> <li>2 看護診断なんて恐くない!①②</li> <li>3 耐性菌の感染制御</li> <li>4 パワーポイントによるプレゼンテーション</li> <li>5 糖尿病看護</li> <li>6 細菌について学び直してみませんか?</li> <li>7 緊急域ばく医療について ～基礎から学んだ知識を生かして 福井で何ができるか～</li> <li>8 質的研究と質的研究のコラボレーション ～質的研究・食生活分析の基本と応用～</li> <li>9 吸入薬の基礎と実践吸入指導</li> <li>10 人工呼吸器の理解と生体への影響</li> <li>11 手術看護（基礎）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12 基礎からわかる薬の知識</li> <li>13 HIV感染症・エイズ</li> <li>14 最新の認知症予防</li> <li>15 芋んでそして体験してだからこそ伝えられることがある場下とは</li> <li>16 新生児看護</li> <li>17 フィジカルアセスメント（循環器系と心臓説）</li> <li>18 不整脈を克服しよう!!</li> <li>19 手術看護（専門）</li> <li>20 ナースのためのベッドサイドリハビリテーション</li> <li>21 もう一度振り返りませんか?身近なスキニング</li> <li>22 救急看護急変対応の小孩～急変後のアセスメント～</li> <li>23 胸部（肺）のヘルスアセスメント～聴診のエキスパートになろう～</li> <li>24 重症患者の早期リハビリテーション</li> <li>25 慢性呼吸器疾患患者の看護ポイント～基本編～</li> <li>26 COPDってどんな病気?</li> <li>27 実践に生かせるフットケア</li> <li>28 息嘆 ～がん患者・家族の理解を深める～</li> <li>29 パートナーシップ・ナーシング・システム：PNSで変わるあなたの病院</li> <li>30 ステップアップ!ストーマケア</li> <li>31 ナースのための脳の一部から看護まで</li> <li>32 医療コンフリクトにどう対応するか?</li> <li>33 あなたの周りにもいる「実は発達障害」看護師さん、あなたはどうします?</li> <li>34 高度期事例から学ぶCTG (Cardio toco gram) 判読と対応方法</li> <li>35 がんと診断されたら精子と卵子を保存しますか?</li> </ol>
--	---

人材育成担当部門では、看護師の生涯学習の支援と看護実践能力の開発を目的に、**看護実践能力開発講座**を開講しています。

(看護キャリアアップセンター資料から抜粋)

資料 1-2-31 看護キャリアアップセンター 能力開発講座参加者状況



(看護キャリアアップセンター資料から抜粋)

資料 1-2-32 看護キャリアアップセンター 能力開発講座参加者からの主な意見

<p>(全体意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シリーズ化してほしい。</li> </ul> <p>(講座参加者からの主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の内容を実際にグループワークの中で考えることができた。(パワーポイントによるプレゼンテーション)</li> <li>・患者家族対応のみでなく、スタッフ(医療者)のストレスについての講義もありよかった。今後活用したい。(悲嘆)</li> <li>・解剖から呼吸音の種類まで実技を含んで分かりやすい講義でした。(胸部のヘルスアセスメント)</li> <li>・これまでの急変時対応はBLSのような研修しか受けたことがなかったので、今回具体的な場面での救急対応を学べてすごくよかった。(急変看護のアセスメント)</li> <li>・実際に震災を受けて今でもセシウムなど放射能の問題は残っています。安全に生活ができるよう、周りに正しい知識を広めていきたいと思っています。(緊急被ばく医療について)</li> <li>・実際にスパイロ検査が体験し、息を吐く大変さが分かりました。患者さんの気持ちを配慮し関わっていききたいです。(COPDってどんな病気?)</li> <li>・PNSは関東でも注目されていてキャリアアップの研修で学び、自施設でも取り入れていこうと考えています。周りの人と協力して少しずつ進めていこうと思いました。(PNSで変わるあなたの病院)</li> <li>・摂食嚥下や口腔ケアは、病棟に患者さんがいる限り、どの科に行っても必ず必要となる知識になるので、とても参考になりました。(学んでそして体験して、だから伝えられることがある「嚥下」とは)</li> <li>・弾性ストッキングの使用法、参考になりありがとうございました。体位変換時、除圧、背抜きも体験し、とても心地よいもので明日から活かさせていただきます。(もう一度振り返りませんか?身近なスキンケア)</li> <li>・医療技術の進行もさらに確認でき、情報提供の大切さもさらに大事になると思いました。</li> </ul>
--

(看護キャリアアップセンター資料から抜粋)

●国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫に関する例

【国際的な研究体験】

- ① 博士課程では、国外の地域医療・臨床教育の研究者も積極的に招聘し、大学院生に世界最新の知見を学ばせるとともに、英語を通じた研究者たちとの交流を重視したカリキュラムやセミナーなどを積極的に展開している(資料 1-2-33)。「地域総合医療学コース」は、北米型 ER を導入している本学附属病院の特性を踏まえ、海外でも活躍できるジェネラリストの育成も目的としている(資料 1-2-34, 35, P5-62 前掲資料 1-2-21)。

福井大学医学系研究科 分析項目 I

資料 1-2-33 博士課程・大学院セミナー担当研究者数一覧

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	計
実施回数	25	30	37	41	40	39	212
区分							
外国の大学教員、研究機関等の 研究員等	2	2	2	3	6	7	22
国内の大学教員	19	25	27	27	31	24	153
国内研究機関等の研究員等	4	3	4	9	3	6	29
本学教員等	0	0	4	2	0	2	8
計	25	30	37	41	40	39	212

主な担当研究者

研究者名	所属	テーマ
Laurent Guerin	European Synchrotron Radiation Facility	100ps structural dynamics capabilities using synchrotron radiation x-ray sources : An application to the quaternary transition of Human Hemoglobin
小山 博史	東京大学大学院医学研究科臨床情報工学分野	Virtual Reality技術の医学応用
張 幸	中国浙江省医学科学院	中国浙江省におけるじん肺、石綿関連肺疾患の現状
岩井 一宏	大阪大学大学院生命機能研究科/医学系研究科	ユビキチン修飾系の多彩な機能
P. K.Sishodiya	インド国立鉱業医学研究所	Occupational Health Issues in Indian Mining Industry : Emerging Trends and Priority Areas
小山 博史	東京大学大学院医学系研究科医療科学講座 臨床情報工学分野	Rを用いた臨床薬物動態解析入門
玉城 英彦	北海道大学大学院医学研究科予防医学講座 国際保健医学分野	世界へ翔ぶ -国連機関をめざすあなたへ-
Keiko Funa (鮎 恵子)	Professor of Medical Cell Biology Institute of Biomedicine, Department of Medical Chemistry and Cell Biology University of Gothenburg	神経幹細胞と神経芽腫瘍幹細胞の概論と再生におけるTLX の役割
古瀬 幹夫	神戸大学大学院医学研究科生理学・細胞生物学講座細胞生物学分野	上皮細胞同士の隙間をシールする仕組み
Benjamin K. Tsang	Director, Reproductive Biology Unit and Professor of Obstetrics & Gynecology and Cellular & Molecular Medicine, University of Ottawa, Canada	Life, Death and Immortality: New Insights on the Role of p53 in the Mechanism of Chemoresistance in Ovarian Cancer
Alexander A. Shtil	ロシア連邦国立がんセンター	がんのポロン中性子捕捉療法(BNCT)と光線力学療法 (PDT) の両用増感剤の開発戦略
高折 晃史	京都大学医学研究科	成人T細胞白血病 -その発見から現在-
Prof.Artin A.Shoukas	Johns Hopkins University School of Medicine	米国ジョンズホプキンス大学における工学部と医学部の連携の実例
林 康紀	理化学研究所脳科学総合研究センター	Role of cytoskeleton in hippocampal synaptic plasticity 「シナプス可塑性と細胞骨格」
Ru-Chi Shieh (謝如姫)	Institute of Biomedical Sciences, Academia Sinica, Taipei, Taiwan	Potassium Efflux through Kir2.1 Channels- A Matter of Life and Death
P.W.Grigsby	Washington University	Evolution of PET for Gynecologic Oncology
Rafael Lujan	Castilla-La Mancha 大学(スペイン)	情報伝達分子の脳内超微局在解析
萩原 明人	九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座	Ambulance dispatches from non-affected areas after the Great East Japan Earthquake: impact on emergency care in the non-affected areas
Helen P. Batty	University of Toronto, Department of Family and Community Medicine	New Approaches to Scholarship in Medical Education
内匠 透	独立行政法人 理化学研究所 脳科学総合研究センター	概日リズムの機構と臨床医学への展開
重本 隆一	オーストリア国立科学技術研究所	入力側依存的な海馬シナプスの左右差: その形成メカニズムと生理的意義
斎藤 博英	京都大学iPS細胞研究所	人工RNAナノシステムを活用した細胞プログラミング技術の創出

(事務局資料)

資料 1-2-34 博士課程「地域総合医療学コース」招へい講師一覧

	教官	所属	テーマ
1	西山慶	京都大学	医学系研究の研究計画書の書き方～苦手意識を克服するために～
2	永田高志	九州大学	災害医療をテーマとした論文を書くためには？
3	Robert D. Abott	滋賀医科大学	Common Misconceptions about Data Analysis and Statistics
4	渡瀬博子	現ワシントン大学	MPH (Master of Public Health) 留学について

国外招へい講師

	教官	所属	期間
1	Prof. Goldman	University of British Columbia	H26. 5. 12～5. 16、H27. 10. 26～10. 30
2	Prof. Batty	University of Toronto	H24. 10. 25～10. 31、H27. 4. 6～4. 10
3	Dr. Stein	University of Florida	H27. 6. 22～6. 26、H27. 11. 2～11. 6

受講生の声（授業アンケートより）

- ・ medical research について、英語のシャワーを浴びて、殆どわからなかったが、スライドがシンプルで、どことなく意味が解った。
- ・ 英語は不得意で難しかったが、医学教育についての話を聞く機会が少ないので、新鮮だった。教育について身近なものとして感じることができた。
- ・ 今の英語力では内容があまり理解できなかったもので、これから努力しようと思う。

(事務局資料)

資料 1-2-35 博士課程 シラバス「地域総合医療学・臨床疫学演習 I」

地域総合医療学コース		
授業科目名	教員名	職名/所属
地域総合医療学・臨床疫学演習 I	林 寛之 寺澤 秀一 木村 哲也 嶋田 喜充 山村 修 井階 友貴	教授/総合診療部 教授/地域医療推進講座(寄付講座) 准教授/救急部 講師/救急部 講師/地域医療推進講座(寄付講座) 講師/地域プライマリケア講座 (寄付講座)
単位数 4単位		
コマ数 30コマ		
開講時期 2～4年次		
キーワード	(コーディネーター) 林 寛之	教授/総合診療部
<b>学習目標</b>		
臨床研究の基礎を築き、臨床研究の立案ができる。人材育成を目的とした教育コースの準備、運営ができる。医学教育の手法を理解し、患者、コメディカル、医師に対して教育を行い、Faculty 養成も視野に入れ教育できる		
<b>授業の内容</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. EBM 臨床統計学概論</li> <li>2. 医学論文の批判的吟味演習 その1</li> <li>3. 医学論文の批判的吟味演習 その2</li> <li>4. Bias と confounding factor</li> <li>5. 診断・スクリーニングにおける医学論文の EBM</li> <li>6. 治療・予後における医学論文の EBM</li> <li>7. 検査における医学論文の EBM</li> <li>8. 観測値・観察研究における医学論文の EBM</li> <li>9. OSCE と効果的教育法</li> <li>10. ACLS、ICLS コースの到達目標と教育手法</li> <li>11. JATEC、PTLS 外傷教育コース</li> <li>12. ALSO、BLSO 産科救急コースとプライマリケア</li> <li>13. 小児救急教育コース</li> <li>14. Triage 教育コースとその応用</li> <li>15. 災害救急コースと地域医療の協力体制</li> <li>16. メディカルラリーと病棟看護師教育</li> <li>17. フレームワーク仕事術と Faculty development</li> <li>18. 海外の ER と Faculty development</li> <li>19. 海外の GIM・Hospitalist と Faculty development</li> <li>20. 海外の家庭医療学と Faculty development</li> <li>21. 海外の医学教育</li> <li>22. Time management と医師のストレス</li> <li>23. 地域行政と医師不足対策</li> <li>24. 地域枠学生医学教育と地域医療</li> <li>25. 学会活動と臨床研究の発表</li> <li>26. WEB、IT 活用のメディア力と情報発信</li> <li>27. Facebook、Twitter、iTune-U の応用</li> <li>28. アニメーション、AV 医学情報の視覚化</li> <li>29. プレゼンテーションの IT 応用と情報のシェア</li> <li>30. 在宅医療、リハビリテーション演習</li> </ol>		
<b>授業の形式</b>		
講義およびグループ形式の演習を中心に行う。学会発表、海外の大学院参加も授業と換算する。		
<b>到達目標</b>		
臨床研究立案を行う。コース運営を実際に行う。地域に向いて患者、コメディカル、医師に対して教育を行う。		




(事務局資料)

- ② 修士課程においては、海外で行う研究の指導も行っており、平成 24 年度には、社会人学生でありながら、インドネシアに滞在し調査を行い、1 名が学位を取得した(資料 1-2-36)。

資料 1-2-36 修士論文審査結果報告書

別紙様式第5号 (第9条関係)

**審 査 結 果 報 告 書**

※整理番号	8	(ふりがな) 氏 名	■■■■■■■■■■
修士論文題目	途上国看護職の清潔意識に関する研究 ～感染予防技術における清潔意識に着目して～		
論文審査委員会	主 査	重 松 陽 介	
	副 査	上 原 佳 子	
	副 査	酒 井 明 子	
1 修士論文審査結果			
<input checked="" type="radio"/> 合 格 <input type="radio"/> 不合格 修士論文審査結果の要旨 インドネシアでの病院看護支援事業の実効性を高めるための調査研究として、看護職者の感染予防技術における清潔意識に着目し、国際協力を受け入れている病院で指導的な職位にある6名の看護職者について、現場の参加観察と半構成的面接を実施し、重要な観察場面と有意義なカテゴリーを抽出することが出来た。すなわち、清潔操作において、手洗いの未実施や個人単位の滅菌セットを複数患者に使用する場面が観察され、標準感染予防策が必ずしも実施されていないかった。看護師の清潔意識については、宗教上の教えが背景として大である一方、院内感染から“自分の身を守ることを優先”し、“経験的により情報は受け入れる”という点特徴的であった。 これらの成果を踏まえ、途上国での看護支援においては、宗教的背景と親の代から受け継がれている日常生活での清潔感を適切にアセスメントし、またこれまでに受けてきた看護教育の内容を把握したうえで、“よい経験”となるよう看護支援を行うことが効果的であると提言出来た。修士論文として有意義な内容を有していると判定した。 (平成 25 年 3 月 1 日)			
2 最終試験結果			
<input checked="" type="radio"/> 合 格 <input type="radio"/> 不合格 最終試験結果の要旨 所定の単位を修得し、また提出された論文を審査した結果、修士論文としての価値あるものと認め、更に最終試験の成績を総合して合格と認める。 (平成 25 年 3 月 1 日)			

(事務局資料)

- ③ 看護キャリアアップセンターでは、医学部と共同し、平成 23 年度より海外研修プログラムを行っている。研修先であるバーミンガム市立大学、コベントリー&ワーウィック大学病院などでの講義・演習を通し、高度実践看護師の教育と活動、専門領域における高度医療の実際、在宅医療と終末医療の実際などを学ぶとともに、グローバルな視点を育成している。平成 23 年度から平成 27 年度まで、認定看護師課程学生述べ 40 名が参加しており、研修の目標は達成されている(資料 1-2-37, 38(1), 38(2))。

2014 年 4 月

## 福井大学 英国の医療と高度実践看護師研修 2014

## 《グローバルな視点と専門性の高い知識を有する医療人育成のためのキャリアアップ研修》

## 【概要】

福井大学では、21 世紀のグローバル社会において、高度専門職業として活躍できる優れた人材の育成に努めている。その一環として、英国の医学部を有する大学とその附属病院、がん専門病院、ホスピスにおいて、医療専門職の教育の実際、高度実践看護師の実際、様々な領域における最先端のチーム医療、および近代ホスピスの実際について学ぶ目的で海外研修プログラムを実施している。

## 【研修施設】

1. バーミンガム市立大学看護学部
  - 英国における医療制度を理解する
  - 英国における看護教育の内容と実際について学ぶ
  - 看護技術修得のための教育の実際を知る
2. レスター大学医学部
  - 英国における医学教育の内容と実際について学ぶ
3. レスター大学附属グレンフィールド病院
  - 高度実践看護師（看護管理者、ナースプラクティショナー、ナースコンサルタント、CNS、マトロン等）の役割と実践活動について学ぶ
  - 呼吸器疾患患者のための様々なチーム医療について学ぶ
  - 呼吸器疾患患者のための地域医療について学ぶ
  - 英国の大学病院における呼吸器医療と看護について学ぶ
4. ロイヤル・マーズデン病院
  - 英国における高度実践看護師の教育の内容と実際について学ぶ
  - 英国における最先端のがん医療について学ぶ
5. セント・クリストファーホスピス
  - 近代ホスピスの概念と成り立ちを知る
  - 近代ホスピスにおけるケアの実際について学ぶ

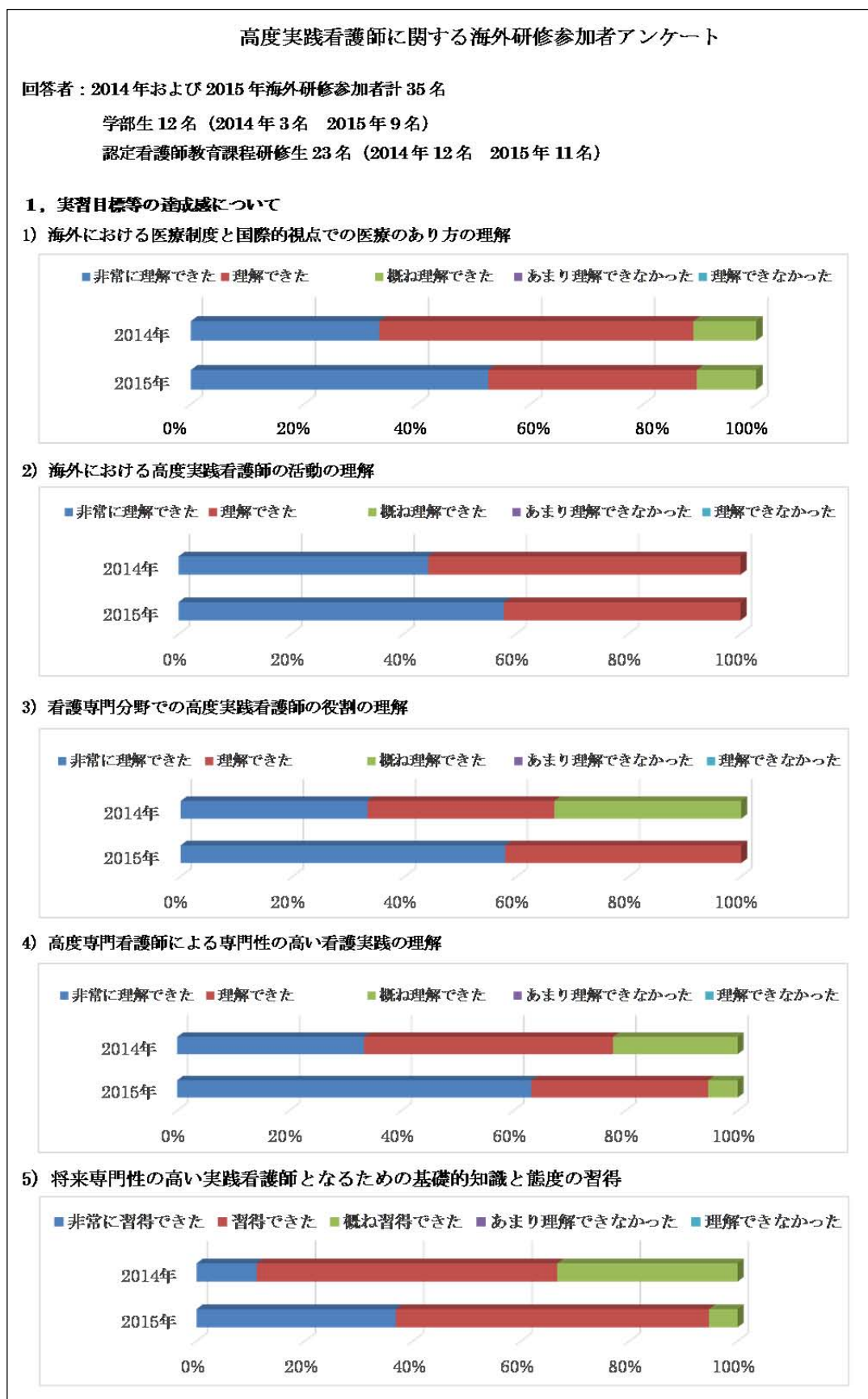
【実施責任者】看護キャリアアップセンター 副センター長 長谷川智子



(事務局資料)

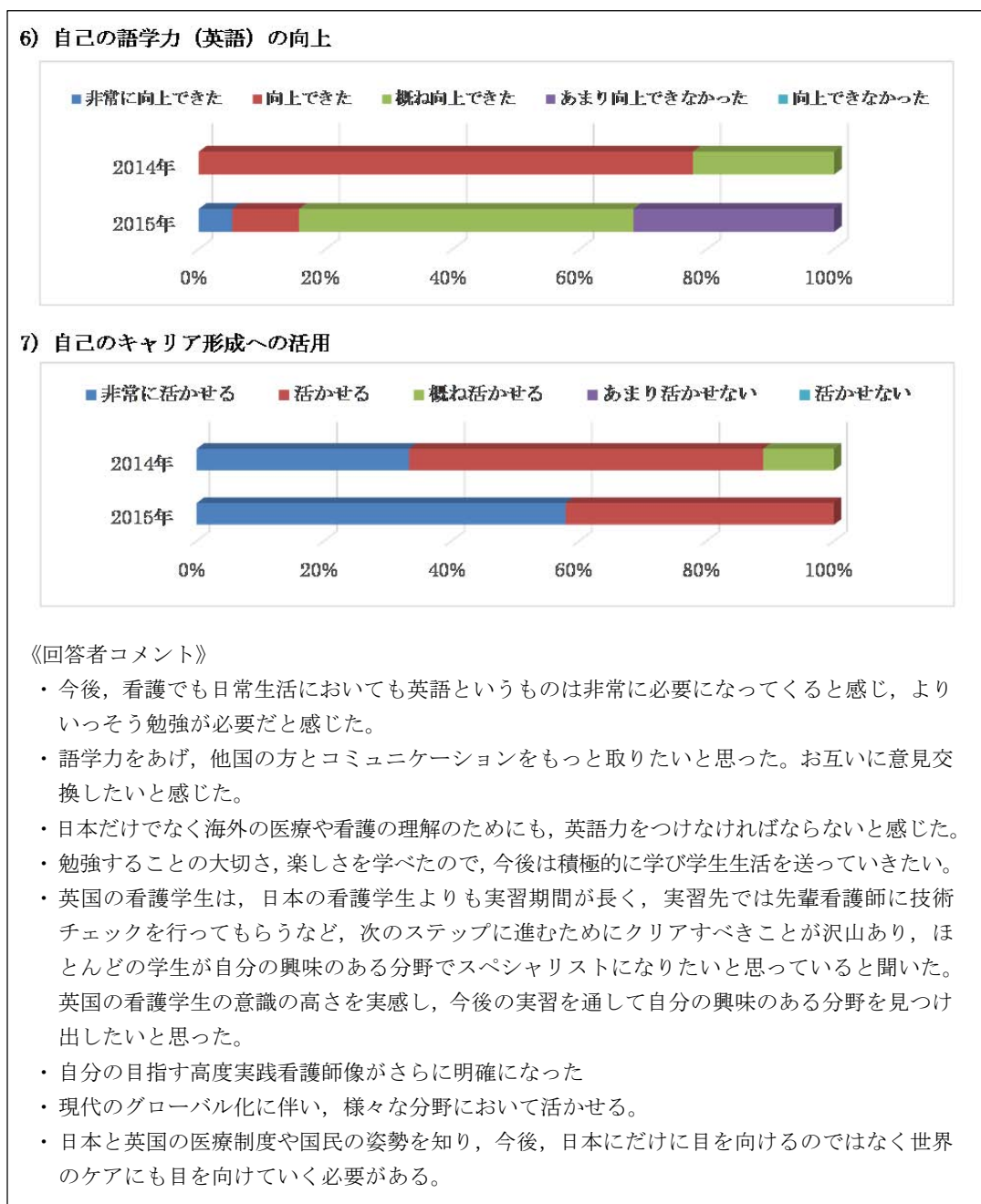


資料 1-2-38(1) 高度実践看護師海外研修参加者アンケート結果(1)



(資料「高度実践看護師海外研修参加者アンケート集計結果」より)

資料 1-2-38 (2) 高度実践看護師海外研修参加者アンケート結果 (2)



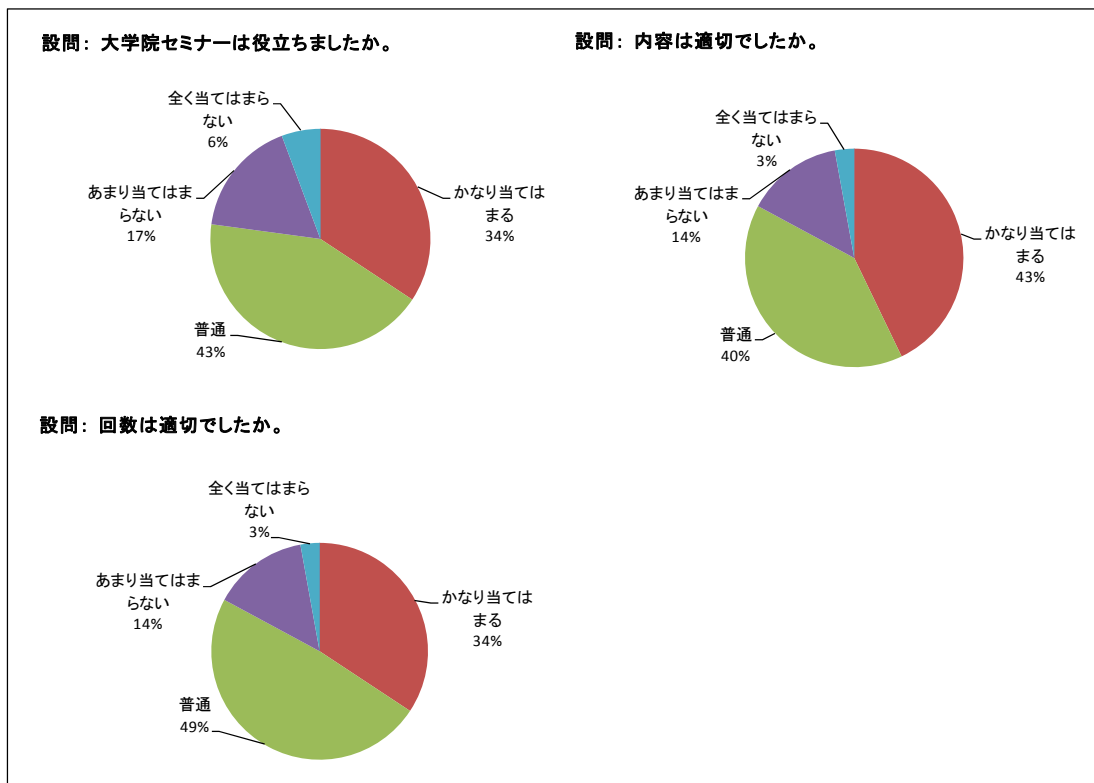
(資料「高度実践看護師海外研修参加者アンケート集計結果」より)

●養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫に関する例

【教育方法の組み合わせ】

- ① 博士課程では、正規カリキュラムのほかに大学院セミナーを年間 30 回以上開催し、最新かつ最高水準の研究に触れる機会を継続的に提供している。また最新の実験手技・機器の取扱いの実習を大学院生がテーマに合わせて選択できる機会を設けている。セミナーは大学院生からの評価も良好であり、研究活動への自主的、能動的アプローチを促すものとなっている (資料 1-2-39, P5-74 前掲資料 1-2-33)。更に、新しく設置された「地域総合医療学コース」では漢方薬や被ばく医療のコースなど地域の要請に応じた演習を中心にカリキュラムを組み、臨床研究につなげている (資料 1-2-40)。

資料 1-2-39 博士課程・大学院セミナーに対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

資料 1-2-40 博士課程「地域総合医療学コース」の開催プログラム

「地域総合医療学コース」では、本学の総合診療部、救急部、地域医療推進講座、地域プライマリケア講座の専門医を始め臨床系教員を中心に基礎系教員も参画した教育・研究指導を行っている。

本コースでは、地域医療における医療技術等の基礎的知識や教育指導方法などを「地域総合医療学概論」で修得し、また、他のコース科目において、臓器横断的な知識を身につけ、患者診療に必要な包括的能力、コミュニケーション能力、身体診察能力、及び臨床推論の基本的技能を修得する。臨床研究に卓越し、地域医療のできる医師の人材養成を目的に、疫学倫理や臨床疫学等の統計手法や医学教育手法を学ぶ教科内容のコースワークとしている。

コース名	内容	開催日
1 PECEP Pediatric Emergency Care and Evaluation for Physician	様々な小児救急の場面を想定したシミュレーションコース。小児科医以外の一般医を対象としている。	2014. 1/13, 2015. 1/11, 2016. 1/10
2 ICLS Immediate Cardiac Life Support	院内や院外で、心筋梗塞や窒息などの急変事例が生じた際の初期対応を学習する。	2014. 12/6 2015. 6/21, 12/5 2015. 3/6
3 Triage コース	患者の症状・所見から、状態の緊急度を判別し、治療の優先順位をつける。	2014. 10/5
4 PTLs コース Primary Trauma Life Support	外傷の初期対応をシミュレーション手法で習得する。	2014. 9/7 2015. 9/12
5 超音波エコーコース	専門に特化せず、初期診療に必要な腹部・心臓・血管・骨・軟部のエコーを広く習得する。	2014. 10/29 2015. 11/21-22
6 漢方 Boot Camp	地域のニーズに合った漢方医療の知識・診療法を修得する。	2014. 5/28, 7/23, 9/10, 12/3 2015. 6/2, 7/15, 9/9, 12/2
7 被ばく医療コース		2014. 3/15, 2015. 3/14

(事務局資料)

- ② 修士課程では看護キャリアアップセンターと共催で、新しい知識と技術のための情報発信として著名な講師を招き、様々な講演会および国際看護学セミナーを開催しており、最新の知識と技術向上や国際的視点の育成を図っている（資料 1-2-41）。

資料 1-2-41 看護キャリアアップセンター 特別講演会および国際看護学セミナー

■看護キャリアアップセンター 特別講演会

日 時：平成 24 年 3 月 23 日（金） 15：10-16：40

会 場：福井大学 松岡キャンパス 看護学科棟 2 階大講義室

テーマ：呼吸ケア・リハビリテーション —認定看護師に期待されること—

講 師：日本医科大学特任教授日本医科大学呼吸ケアクリニック 所長 木田 厚瑞 先生

日 時：平成 25 年 3 月 15 日（金） 15：00-16：00

会 場：福井大学 松岡キャンパス 看護学科棟 2 階大講義室

テーマ：喘息・COPD の病態と治療

講 師：福井大学 医学部医学科 病態制御医学講座 教授 石塚 全 先生

日 時：平成 25 年 8 月 7 日（水） 14：30-16：30

会 場：福井大学 松岡キャンパス 看護学科棟 2 階大講義室

テーマ：胸部手術周術期における呼吸・循環の病態生理と管理

講 師：静岡市立静岡病院副院長兼呼吸器外科長 京都大学医学部臨床教授 千原 幸司 先生

日 時：平成 26 年 3 月 14 日（金） 15：00-16：30

会 場：福井大学 松岡キャンパス 看護学科棟 2 階大講義室

テーマ：呼吸ケア・リハビリテーション —認定看護師に期待されること—

講 師：日本医科大学特任教授日本医科大学呼吸ケアクリニック 所長 木田 厚瑞 先生

日 時：平成 26 年 8 月 23 日（土） 14：00-15：30

会 場：福井大学 松岡キャンパス 臨床教育研修センター 2 階 白翁会ホール

テーマ：酸素療法の歴史と、今後の展望—HOT も含めて—

講 師：独立行政法人労働者健康福祉機構 北海道中央労災病院 院長 宮本顕二 先生

日 時：平成 26 年 9 月 2 日（火） 18：00-20：30

会 場：福井大学 松岡キャンパス 臨床教育研修センター 2 階 白翁会ホール

テーマ：第 5 回 医学部生・研修医・スタッフのための呼吸器セミナー

講 師：福井大学 名誉教授・特命教授 伊藤 春海 先生

日 時：平成 26 年 9 月 6 日（土） 13：00-15：00

会 場：福井大学 松岡キャンパス 臨床教育研修センター 2 階 白翁会ホール

テーマ：胸部手術周術期における呼吸・循環の病態生理と管理

講 師：静岡市立静岡病院 副院長・呼吸器外科長・手術室長・  
リハビリテーション科長・シミュレーションラボラトリー室長 千原 幸司 先生

日 時：平成 27 年 3 月 9 日（月） 15：00-16：30

会 場：福井大学 松岡キャンパス 基礎実習棟 2 階 多目的講義室

テーマ：胸部手術周術期における呼吸・循環の病態生理と管理—ベッドサイド実践編—

講 師：静岡市立静岡病院 副院長・呼吸器外科長・手術室長・  
リハビリテーション科長・シミュレーションラボラトリー室長  
京都大学医学部臨床教授 千原 幸司 先生

■国際看護学セミナー

日 時：平成 24 年 11 月 25 日（日） 13：30-15：30

会 場：福井商工会議所ビル コンベンションホール

テーマ：福井大学医学部国際看護学セミナー

第 6 回 イギリスにおけるチーム医療の実践と看護の役割—過去・現在・そして未来—

講 師：英国レスター大学グレンフィールド病院呼吸器科 ナース・コンサルタント

Jane E. Scullion 先生

日 時：平成 25 年 10 月 28 日（月） 16:00-18:00

会 場：福井大学 松岡キャンパス 看護学科棟 2 階大講義室

テーマ：福井大学医学部国際看護学セミナー

第 7 回 デンマークの医療・看護と病院・大学間連携

講 師：The Regional Hospital of Horsens/Educational Responsible Nurse

Marianne Fock Feldt-Rasmussen 先生

(看護キャリアアップセンター資料から)

【博士のキャリア開発】

- ① 平成 23 年度より、Advanced Training of Medico-research (ATM) プログラム (博士課程授業科目早期履修制度) (以下「ATM プログラム」という) を開始し、医学部学生や初期研修医なども積極的に参加し始めている (資料 1-2-42~45)。

資料 1-2-42 福井大学大学院医学系研究科規程

福井大学大学院医学系研究科規程 (抜粋)	
(趣旨)	
第 1 条	この規程は、福井大学大学院学則 (平成 16 福大学則第 2 号。以下「大学院学則」という。) 第 4 条第 2 項及び第 29 条の 2 第 2 項の規定に基づき、福井大学大学院医学系研究科 (以下「医学系研究科」という。) における人材の養成に関する目的等及び授業科目、履修単位数その他履修方法等について必要な事項を定めるものとする。
(人材の養成に関する目的等)	
第 1 条の 2	医学系研究科における人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的は、次のとおりである。
	医学系研究科 高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身に つけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。
	博士課程
	統合先進医学専攻 医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者の養成、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成、並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・E R 救急医・家庭医を養成することを目的とする。
	修士課程
	看護学専攻 豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備え、地域保健医療福祉に貢献できる看護職及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的とする。
(授業科目及び履修単位数等)	
第 2 条	開設する授業科目、履修単位数及び履修年次等は、博士課程にあつては、別表 1、修士課程にあつては、別表 2 のとおりとする。
(履修方法)	
第 3 条	博士課程の学生は、別表 1 に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の履修方法欄に定めるとおり 30 単位以上を履修しなければならない。
	2 修士課程の学生は、別表 2 に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の履修方法欄に定めるとおり 30 単位以上を履修しなければならない。また、修士課程に専門看護師教育課程を置き、専門看護師の資格取得に係る履修科目、履修方法等について、別に定める。
	3 指導教員が必要と認めた場合は、医学系研究科委員会の議を経て、他の課程又は本学大学院の他の研究科の授業科目を履修させ、これを当該課程で修得した単位とすることができる。ただし、当該修得単位は、修了要件の単位には算入しないものとする。
	4 博士課程授業科目早期履修制度を利用する者は、医学系研究科委員会の議を経て、大学院の授業科目を履修することができ、博士課程入学後に単位を認定することがある。
(履修の届出)	
第 4 条	学生は、前条の規定により選択した授業科目を、当該授業科目担当教員及び指導教員の承認を経て、指定する期日までに所定の履修届により届け出なければならない。

(事務局資料)

資料 1-2-43 福井大学大学院医学系研究科博士課程授業科目早期履修制度実施要項

福井大学大学院医学系研究科博士課程授業科目早期履修制度実施要項（一部抜粋）

1. 制度の趣旨

本学の医学部医学科生・研究生で、医学系研究科博士課程への進学を希望する熱意のある者について、その能力の高度な発展と進学熱意の維持を期し、早期に大学院教育に接する機会を提供するため、教育上の特例措置として、早期履修制度を実施するものである。

2. 出願資格等

- (1) 本学の医学部医学科 4～6 年次在学学生
- (2) 本学の医学部研究生で指導教員から推薦のあった者

3. 早期履修可能な科目について

共通科目

医科学基礎総論	(通年	4 単位)
実験基礎演習	(前期	2 単位)
医科学特論	(2 年間	6 単位)
先端応用医学概論	(2 年間	6 単位)

(中略)

7. 科目の履修について

履修した授業科目の出席回数は、通常の大学院医学研究科博士課程授業科目の出席回数とみなす。

8. 履修科目の大学院医学研究科博士課程科目としての認定

履修した授業科目の出席回数は、博士課程に大学院生として入学後、本人の申請に基づき、医学系研究科委員会の議を経て、博士課程修了のための単位の一部として認定することがある。(大学院学則 第 34 条)

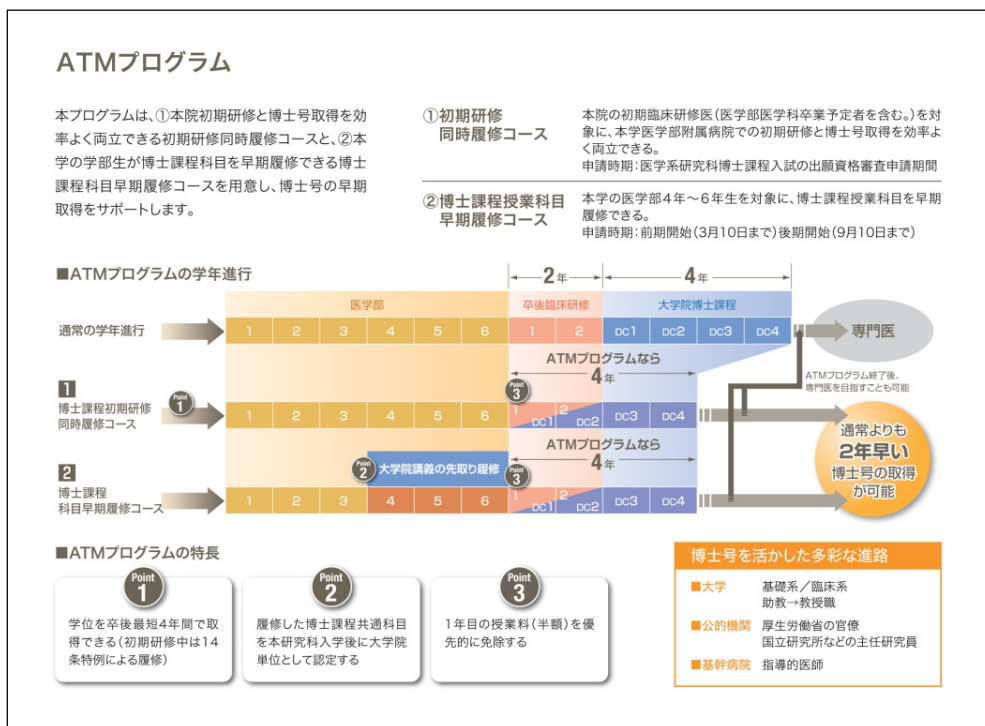
(1) 単位認定申請の方法

1) 単位認定願の申請時期

前期入学者は 4 月上旬、後期入学者は 10 月上旬

(事務局資料)

資料 1-2-44 ATM プログラム概要



(事務局資料)

資料 1-2-45 ATM プログラム利用者数

(人)

年度	H23	H24	H25	H26	H27
申請者数	2	3	9	2	0
ATM履修者数	2	5	11	5	3
大学院入学者数	0	0	0	0	1

(事務局資料)

② TA・RA 制度を活用した能力の育成、教育的機能の訓練等を積極的に取入れ、多くの大学院生を TA・RA に採用し、これを通じた能力の育成を図り、大学院生より好評を得ている(資料 1-2-46)。



資料 1-2-46 TA・RA 実績一覧

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計	
博士課程	TA	採用者数(人)	10	13	11	7	8	6	55
		総時間数(H)	2,794	3,480	2,682	2,272	3,049	1,760	16,037
		一人あたり時間数(H)	279.4	267.7	243.8	324.6	381.1	293.3	291.6
	RA	採用者数(人)	9	9	6	2	3	3	32
		総時間数(H)	2,929	2,963	2,933	1,039	2,024	1,533	13,421
		一人あたり時間数(H)	325.4	329.2	488.8	519.5	674.7	511.0	419.4

TA:ティーチング・アシスタント RA:リサーチ・アシスタント

〔 TA, RAの採用者数の変動は、その年度の社会人学生の人数や勤務状況による希望者数の増減によるものである。 〕

○ TA 実施後学生の意見・感想例（各月の実施報告書から）

- ・ 実習の補助業務に貢献できた。
- ・ 慣れない作業のため手間取った部分もあるが、資料が参考になった。
- ・ 指導教員に資料作成に関する指示・教示を受け、大変勉強になった。
- ・ 学生チュートリアルは自分にとっても他分野の疾患を復習する良い機会になった。
- ・ 新しい学生や研修医が入ってこられ、活気があることはよいことですし、教育にもしっかり力を入れて相互に良い影響を与え合えればと思った。
- ・ 学生や研修医にとって、魅力ある血液内科とはどういったものかを考えながら日々過ごしている。
- ・ 文京キャンパスとの映像を介しての中継授業の準備・サポートを行い、大変興味深かった。
- ・ 学生が一生懸命取り組んでいる姿に、改めて刺激を受けた。
- ・ 臨床実習の準備を行い、適宜検討を行うことで、自分の身になった。
- ・ カンファレンスにおいて、学生のプレゼン能力を高める教育ができるようになりたいと感じた。
- ・ チュートリアル教育にチューターとして参加し、学生が熱心に話し合う姿を見て、自分も学ぶところがあり有意義だった。
- ・ 学生の真摯に取り組む姿に感銘を受けた。

○ RA 実施後学生の意見・感想例（各月の実施報告書から）

- ・ やはり実験は確認一つとっても、一筋縄ではいかないことを再認識した。
- ・ 論文というものは如何に厳密で、かつ分かりやすく丁寧に書かなければならぬかを痛感している。
- ・ 実験は固めてやりきってしまうことが非常に大事であることが良くわかる。
- ・ 実験補助や実験は、自分にとって非常に有意義である。
- ・ これまでやったことのない実験だったので、非常に刺激になった。
- ・ 新しい業務に慣れるのに時間はかかるが、充実している。

(事務局資料)

【研究倫理教育の充実】

平成 26 年度には、社会的要請を受け、研究倫理教育の E-ラーニングを必修授業として導入した（資料 1-2-47）。また、平成 26 年 9 月以降に初回投稿する博士論文は剽窃チェックを受けることを義務付け、博士課程小委員会で個々の結果を検討する体制を確立した（資料 1-2-48, 49）。

資料 1-2-47 博士課程 シラバス「医科学基礎総論」

統合先進医学専攻 (共通科目)		
授業科目名	授業科目名	授業科目名
医科学基礎総論	医科学コース全教員	
単位数 4単位		
コマ数 30コマ		
開講時期 1～3年次	(コーディネーター)	
キーワード	宮本 薫	教授/分子生体情報学
<b>学習目標</b>		
「医科学基礎総論」では、医科学の研究活動実施に必要な事項を学ぶとともに、実験実施に必要な基礎的知識、機器使用法などをあわせて学ぶ。		
<b>授業の内容</b>		
1. 大学院授業ガイダンス・実験概説		医学科長
2. 実験倫理学・安全学		小泉
3. 論文読解法		飯田
4. 論文作成法		宮本
5. 定量的分子局在解析の基礎と応用		深澤
6. 遺伝医学概論：DNA多型の分子論的基盤		安田
7. イオンチャネルに対する電気生理学研究：実験手技・研究の流れとその現状・展望		老木
8. 生体分子の構造・物性研究：分光法と熱力学的データ解析の基礎		今野
9. 酵素化学実験法の概要		藤井
10. 組織細胞化学法による形態解析		飯野
11. コンピュータを駆使した生体機能の統合 (Physiome 研究)		松岡
12. 分子機能生物学：転写因子の機能調節による細胞増殖制御について		黒岡
13. 遺伝子変異マウスを用いた腫瘍生物学研究		青木
14. 小児発達脳科学：初期経験がつくる「こころ」と「脳」の発達および感受性期		友田
15. 内分泌学研究：研究の流れ		村田
16. 分子内分泌学研究：内分泌に係る遺伝子発現解析等の概説		水谷
17. 感染免疫応答における細胞内シグナル伝達機構の基礎・分子標的治療薬		定
18. 免疫アレルギー反応における抗原受容体シグナル伝達		千原
19. 生命科学におけるRI利用法		清野
20. 放射線の健康影響：福島原発事故を受けて		松本
21. PETを用いた生体イメージングと定量測定の基礎		岡沢
22. 医学研究における動物行動実験		松崎
23～27 CITI Japan プロジェクト e-learning プログラム (下記 15 科目の受講を必修とし、全て修了後、5 回分の出席扱いとする。)		
1. 責任ある研究行為について	2. 科学分野のミスコンダクト	3. データの扱い
4. 盗用 (Plagiarism)	5. 利益相反	6. オアサーシップ
7. ピア・レビュー	8. 共同研究のルール	9. メンタリング
10. 公的研究費の取り扱い	11. 生命倫理学の歴史と原則、そしてルール作りへ	
12. IRB による審査	13. 研究における個人情報の扱い	
14. 研究におけるインフォームド・コンセント	15. 特別な配慮を要する研究対象者	
28. 大学院生研究発表会		
29. 大学院生研究発表会		
30. 大学院生研究発表会		
<b>講義室：院生棟 1 階セミナー室</b>		
<b>授業の形式</b>		
講義形式および e-learning により行う。		
<b>到達目標</b>		
各担当教員の説明する医科学の研究活動実施に必要な基礎的知識を説明でき、主な研究機器を使用することができる。		
<b>総合評価割合</b>		
<b>評価方法</b>		
出席重視		
<b>教科書及び参考書</b>		
各担当教員からの指示による。		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
代表者 E-Mail	kmiyamot@u-fukui.ac.jp	

(事務局資料)

資料 1-2-48 福井大学論文剽窃防止対策実施要項（一部抜粋）

福井大学論文剽窃防止対策実施要項（一部抜粋）

（趣旨）

第1 この要項は、福井大学における論文の剽窃防止対策について必要な事項を定める。

（対策内容）

第2 この要項において定める剽窃防止対策は、論文指導又は作成の際に、不適切な引用や剽窃の疑いがある文章を検出するソフト（以下「剽窃チェックソフト」という。）を利用し行うものとする。

（対象論文）

第3 この要項において対象とする論文は、当面の間、博士論文とする。ただし、博士の学位を受けようとする者（以下「学生等」という。）が、博士論文への申請を予定して学術雑誌に投稿しようとする論文がある場合は、当該論文も対象とする。

2 学生等の指導教員（以下「指導教員」という。）は、前項の博士論文を学内審査委員会へ提出又は学術雑誌へ投稿しようとする場合は、事前に第4に規定する手続きを経なければならない。

3 第1項に規定するもののほか、指導教員又は教員（以下「指導教員等」という。）から依頼があった論文についても、対象とすることができる。

（対策方法）

第4 指導教員等は、論文剽窃チェック依頼書（別紙様式1）に第3に規定する論文（電子媒体）を添えて、文京キャンパスにあっては総合戦略部門研究推進課（以下「研究推進課」という。）、松岡キャンパスにあっては学務部松岡キャンパス学務室（以下「学務室」という。）に提出するものとする。

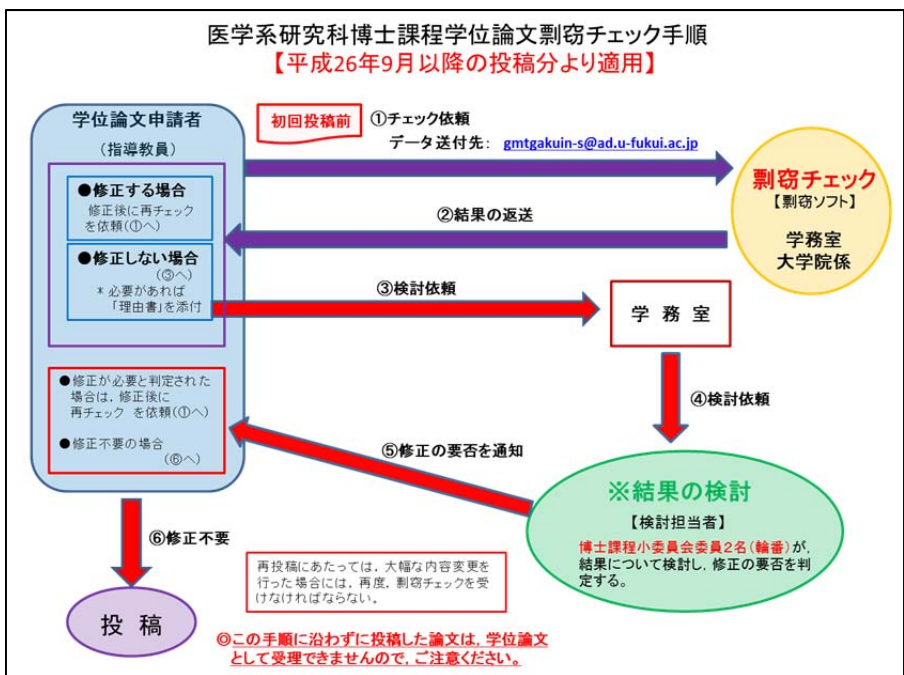
2 研究推進課及び学務室は、指導教員等からチェック依頼があった論文について速やかに剽窃チェックソフトにより検出作業を行い、検出結果を論文剽窃チェック報告書（別紙様式2）により指導教員等へ報告するものとする。

3 第3第1項に規定する論文の検出結果の対応は、各研究科内において行うものとする。

4 検出結果を受けて論文原稿内容を修正した場合においても、再度剽窃チェックを依頼できるものとする。

（事務局資料）

資料 1-2-49 医学系研究科博士課程学位論文剽窃チェック手順



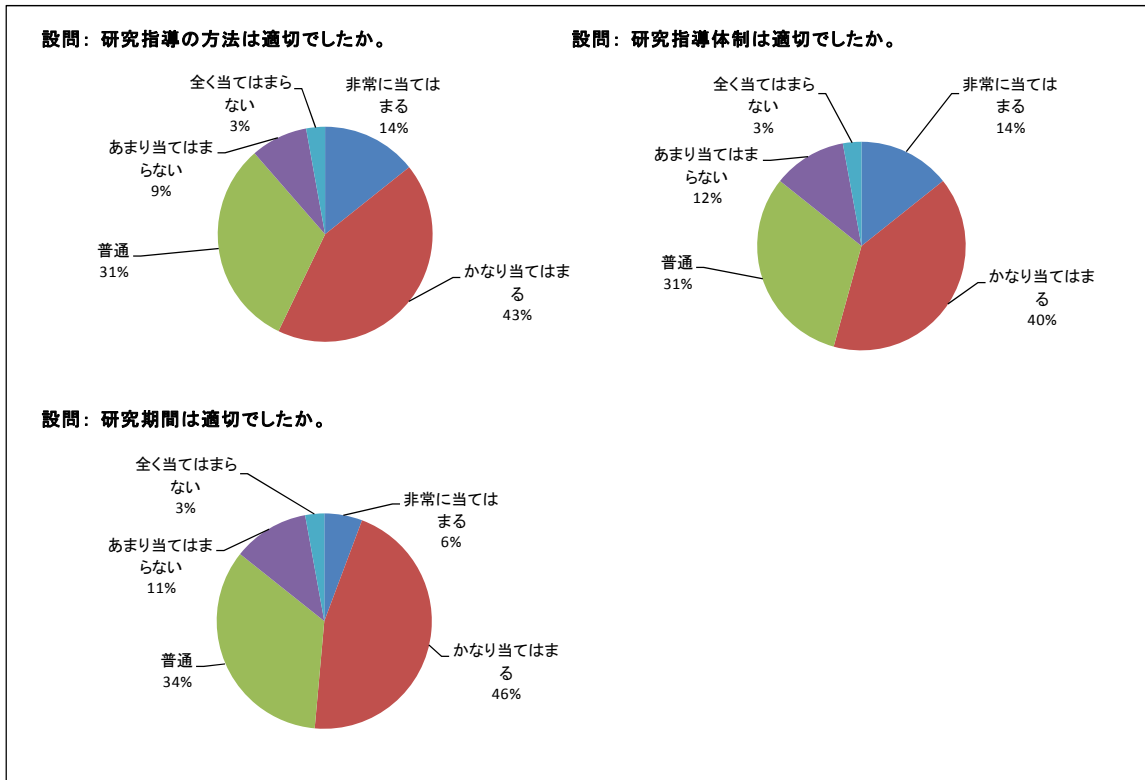
（事務局資料）

●学生の主体的な学習を促すための取組に関する例

【学習意欲向上方策】

- ① 博士・修士課程ともに、大学院生ごとに一人の主指導教員だけでなく副指導教員を置く指導体制となっている。このことによって横断的指導と交流を促進することになり、大学院生が広い視野を獲得する上で有効な方法である。これは、大学院生が学位論文作成にあたり、所属領域以外の教員からも指導を受けたいとの要望に対応している。このように大学院生の研究ニーズに即した研究指導を行っており、大学院生の評価は高い（資料 1-2-50, P5-18 前掲資料 1-1-19, 20）。

資料 1-2-50 博士課程・研究指導に対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

- ② 一定の研究成果を上げた大学院生には、研究・成果発表のための旅費助成も公募により行われている（資料 1-2-51）。

資料 1-2-51 学生の研究・成果発表のための旅費助成

生命科学複合研究教育センター 学生の研究・成果発表のための旅費助成《採択件数》						
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
申請件数	13 件	12 件	7 件	8 件	9 件	11 件
採択件数	12 件	12 件	7 件	8 件	7 件	8 件
(内数) 医学系研究科採択件数	2 件	2 件	1 件	1 件	2 件	1 件

平成 27 年 7 月 1 日
生命科学複合研究教育センター参加教員 各位
生命科学複合研究教育センター長
平成 27 年度生命科学複合研究教育センター 学生の研究・成果発表のための旅費助成の募集について（通知）
<p>この程、生命科学複合研究教育センターでは生命科学に関する研究を行っている学生が研究及び成果発表のために必要とする旅費の支援を図る目的で、下記のとおり研究費公募事業を実施することとなりましたのでご案内いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>I 公募内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象となるもの                     <p>生命科学に関する研究を行っている学生が研究及び成果発表のために必要とする調査研究や成果発表のための旅費（本センターの特色を生かし、学部・学科・専攻等の枠を越え、生命科学に関する学内共同研究を優先します。ただし、平成 27 年 9 月 1 日（火）から平成 28 年 3 月 31 日（木）の期間の旅費を対象とします。）</p> </li> <li>■ 採択件数及び申請額上限                     <p>採択件数：若干数 申請額の上限は、国際学会は 10 万円、国内学会は 5 万円とします。 （本事業総予算上限 30 万円）</p> </li> <li>■ 対象者                     <p>(1) 申請者は、大学院生（医学部においては学部 4 年生以上）とします。 (2) 申請者の指導教員は、本センター参加者に限ります。</p> </li> <li>■ その他                     <p>(1) 指導教員は、研究指導されている学生より「学生の研究・成果発表のための旅費助成」への申し出があった場合には、指導教員としての推薦所見（別紙様式 2）を作成し提出して下さい。なお、指導されている学生が複数名申請する場合は、指導する学生の総数を記したうえで、学生の推薦順位を付してください。教員 1 名につき、募集に推薦できる学生は 2 名までです。 (2) 工業会等の他の助成事業との重複申請は不可とします。 (3) 採択された場合の研究費は、指導教員の研究費へ本センターから移算されます。 (4) 義務ではありませんが、申請者には平成 27 年 8 月 20 日（木）開催予定の本センター研究交流会において、申請に関わる研究内容について口頭発表を行っていただくことが望ましい。</p> </li> </ul>

（事務局資料）

- ③ 博士課程では、優れた研究業績を上げた者には在学期間短縮による早期修了を認めている（資料 1-2-52, 53）。

資料 1-2-52 博士課程・在学期間短縮に係る規程等

福井大学大学院学則(一部抜粋)

第 8 章 課程の修了及び学位の授与

(修士課程及び前期課程の修了要件)

第 36 条 修士課程及び前期課程の修了要件は、当該課程に 2 年以上在学し、研究科の定めるところにより 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、当該課程の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたものについては、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(後期課程の修了要件)

第 37 条 後期課程の修了要件は、当該課程に 3 年（法科大学院の課程を修了した者にあつては、2 年）以上在学し、16 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に 1 年（標準修業年限を 1 年以上 2 年未満とした修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者にあつては、3 年から当該 1 年以上 2 年未満の期間を減じた期間とし、修士課程又は前期課程において、優れた業績を上げ、2 年未満の在学期間をもって当該課程を修了した者にあつては、3 年から当該課程における在学期間を減じた期間とする。）以上在学すれば足りるものとする。

(医学系研究科の博士課程の修了要件)

第 38 条 医学系研究科の博士課程の修了の要件は、当該課程に 4 年以上在学し、所定の授業科目について 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に 3 年以上在学すれば足りるものとする。

福井大学大学院医学系研究科博士課程における在学期間短縮等の  
審査に関する取扱規程（一部抜粋）

(趣旨)

第 1 条 この規程は、福井大学大学院学則（平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「大学院学則」という。）

第 38 条ただし書きに規定する、大学院医学系研究科博士課程において優れた研究業績を上げた者の在学期間短縮等の審査に関する取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(審査の方法等)

第 2 条 在学期間短縮の審査にあたっては、学位論文の審査も兼ねて行うものとする。

2 在学期間の短縮は、月単位で認定するものとする。

(優れた研究業績を上げた者の要件)

第 3 条 優れた研究業績を上げた者の要件は、次の各号に該当するものとする。

(1) 学位論文（主論文）は、権威ある内外の学術誌（SCI のインパクトファクターがジャーナルランキングの 1,000 位以内のもの、又は専門分野におけるジャーナルランキングの上位 3 分の 1 以上のもの）に掲載（受理されたものを含む。）されたものであり、かつ、その内容が極めて学問的に優れていること。

(2) 高度の研究能力及び豊かな学識を有していること。

(3) 大学院在学中の成績が極めて優秀であること。

(4) 指導教員の推薦があること。

2 前項第 1 号に規定するジャーナルランキングは、論文提出時における最新のものとする。

(事務局資料)

資料 1-2-53 博士課程における早期修了状況

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
	早期修了者数	早期修了者数	早期修了者数	早期修了者数	早期修了者数	早期修了者数
	入学年度	入学年度	入学年度	入学年度	入学年度	入学年度
博士課程	1	1	1	2	0	5
	平成18年度	平成19年度*	平成22年度	①平成21年度* ②平成23年度		
備 考	9月修了 (1年休学)	6月修了	3月修了	① 12月修了 (6ヶ月休学) ② 3月修了		

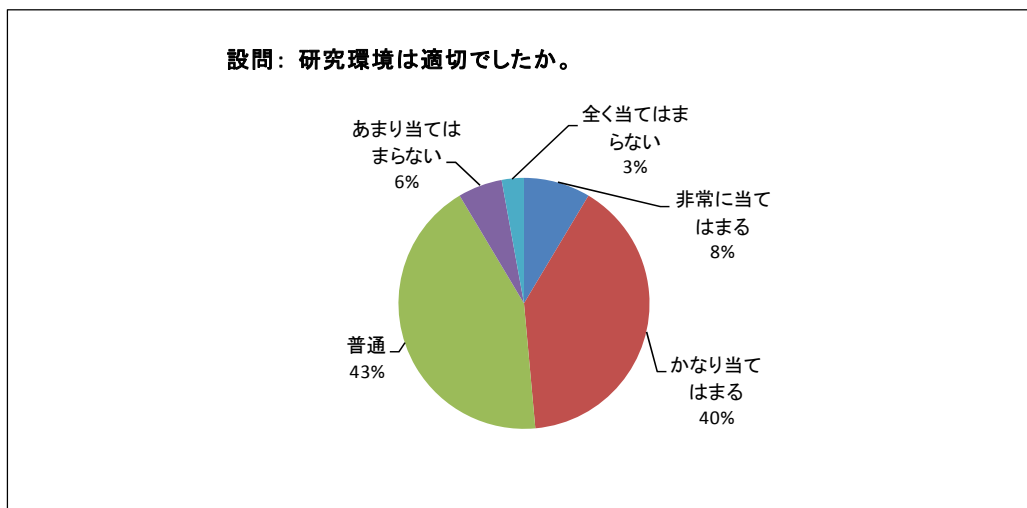
\* 10月入学者

(事務局資料)

- ④ 学習・研究環境については、医学部附属図書館の24時間開館やシラバス掲載資料の積極的購入等による大学院生の図書館利用の促進等、大学院生の主体的学習の基盤となるインフラを積極的に整備しており、大学院生の評価も高く適切である(資料1-2-54, 55, P5-16 前掲資料1-1-17)。

更に博士課程では「共通科目」及び「大学院セミナー」において、授業ごとに毎回受講生によるアンケートを実施し、教育内容・方法の改善を図ることとしている。アンケート結果は、授業担当教員にフィードバックされ、講師の人選等に反映させるなど、次年度の授業の改善に活かされており、授業に対する大学院生の満足度は高い(P5-20 前掲資料1-1-23, P5-56 前掲資料1-2-13, P5-81 前掲資料1-2-39)。

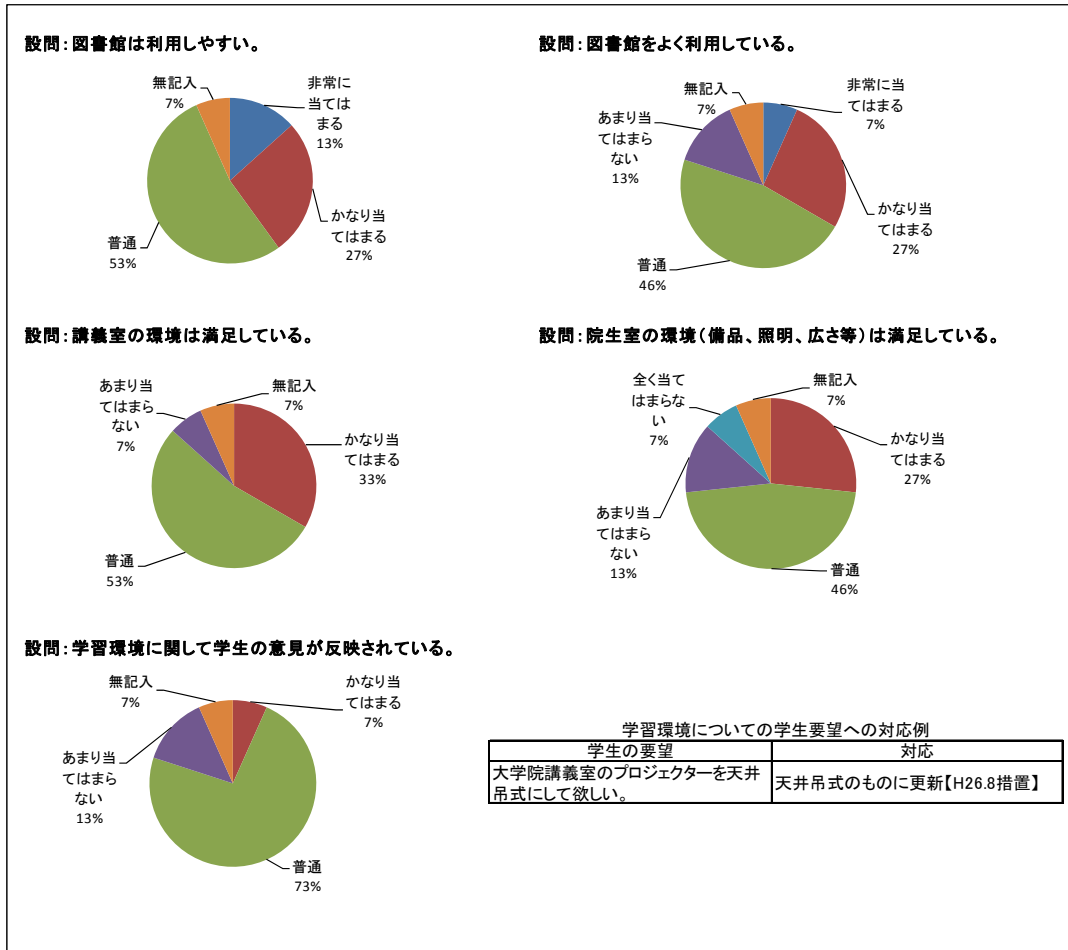
資料 1-2-54 博士課程・研究環境に対する修了生アンケート結果 (平成27年度実施)



(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)



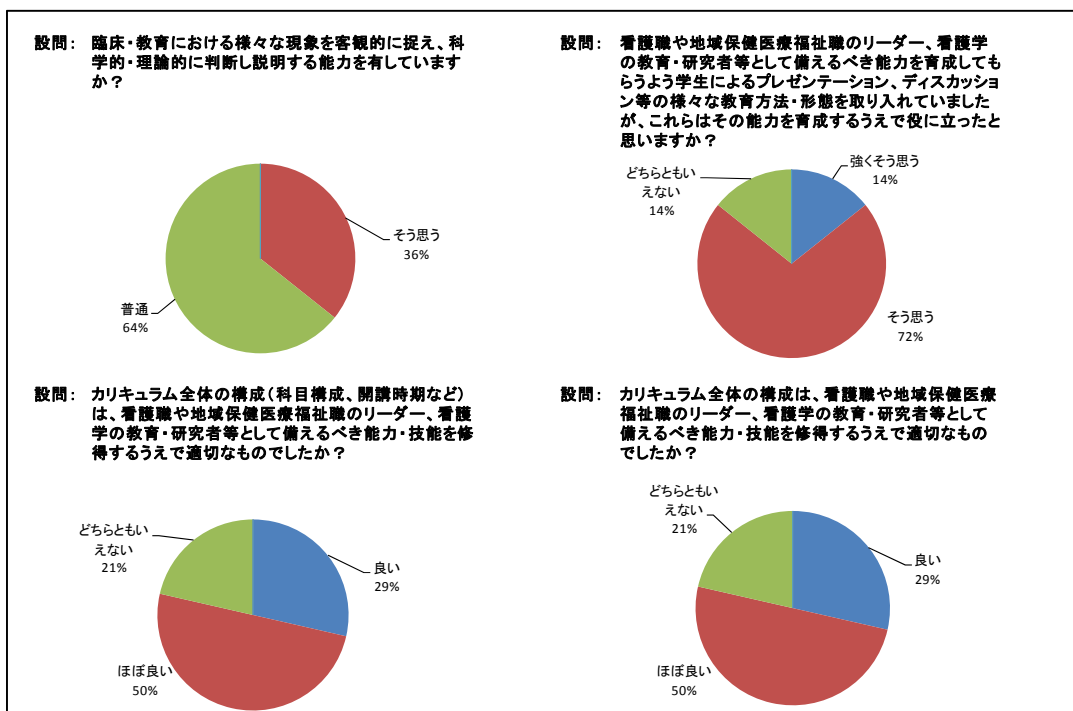
資料 1-2-55 修士課程・学習環境に対する在学生アンケート結果（平成 27 年度実施）



（資料「修士生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）

- ⑤ 修士課程では、論文完成のための特別研究でゼミ形式をとり、個別指導・集団指導を取り入れている。これにより大学院生の課題探求・解決能力を涵養するとともに、文献検索、統計処理能力、文章の論理構成能力等を伸ばすこととしており、大学院生からの評価も良好である（資料 1-2-56）。

資料 1-2-56 修士課程・特別研究に対する修了生アンケート結果（一部抜粋）（平成 27 年度実施）



（資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）

**（水準） 期待される水準を上回る**

**（判断理由）**

- ① 両課程で DP/CP/AP を定め、養成する人材等について明記し、ホームページ等で積極的に周知を行っている。また、それぞれのポリシーは、社会から求められる人材の養成を鑑み、常に見直しを行っており、適宜改正を行った<sup>1)</sup>。

1) 資料 1-2-1(1)	：医学系研究科：カリキュラム・ポリシー(CP)（博士課程）	P5-47
資料 1-2-1(2)	：医学系研究科：カリキュラム・ポリシー(CP)（修士課程）	P5-48
資料 1-2-2	：医学系研究科：ディプロマ・ポリシー(DP)	P5-49
資料 1-1-24(1)	：博士課程アドミッション・ポリシー（一部抜粋）	P5-21
資料 1-1-24(2)	：修士課程アドミッション・ポリシー（一部抜粋）	P5-22
資料 1-2-3	：カリキュラム・ポリシー(CP)/ディプロマ・ポリシー(DP)/アドミッション・ポリシー(AP)公開状況	P5-49
資料 1-2-4	：医学系研究科（博士課程・修士課程）：カリキュラム・ポリシー(CP)/ディプロマ・ポリシー(DP)/アドミッション・ポリシー(AP)の改正について	P5-50

- ② 博士課程・修士課程ともに CP/DP に基づいたカリキュラム編成を行っているが、定期的なアンケートの実施および各委員会での検討等により教育内容、教育方法の改善に取り組んでおり、全ての関係者の期待に応えるための基盤を形成するものである。とりわけ、平成 25 年度から博士課程の改組、及び修士課程に CNS 課程を開設したことは特筆できる<sup>2)</sup>。

2) 資料 1-1-3	：医学系研究科博士課程改組後の組織構成	P5-6
別添資料 6(2)	：改組後の博士課程授業開設表	P5-7
資料 1-2-15	：修士課程授業開設表（平成 27 年度）	P5-57
資料 1-2-13	：博士課程「共通科目」に対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）	P5-56

- ③ 大学院生の修学ニーズに対応するためにきめ細かな配慮がなされ、教育課程に対する大学院生の評価も高く、関係者の期待に十分応えるものである<sup>3)</sup>。

3) 資料 1-1-12	: 長期履修学生規程	P5-13
資料 1-1-13	: 長期履修学生に関する申合せ	P5-13
資料 1-1-14	: 医学系研究科における長期履修制度の適用状況	P5-13
資料 1-1-15	: 福井大学学生支援体制	P5-14
資料 1-1-16	: 松岡キャンパス学生総合相談室及び保健管理センター利用状況	P5-15
別添資料 1	: 大学院入学時成績優秀による授業料免除制度	
別添資料 2	: 医学系研究科振興奨学金取扱要項	
資料 1-1-32	: 博士課程における秋季入学の状況	P5-26
別添資料 3	: 医学系研究科基礎医学振興奨学金取扱要項	
別添資料 4	: 医学系研究科画像医学振興奨学金取扱要項	
別添資料 5	: 医学系研究科私費外国人留学生振興奨学金取扱要項	
資料 1-1-38	: 授業料免除, 奨学金等利用状況	P5-29
資料 1-1-10	: 医学系研究科における社会人入学者の状況	P5-12
資料 1-1-36	: 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例〔夜間開講〕の適用状況)	P5-28
資料 1-1-41	: 医学系研究科における入学定員充足率	P5-31
資料 1-2-13	: 博士課程「共通科目」に対する修了生アンケート結果(平成 27 年度実施)	P5-56
資料 1-2-56	: 修士課程・特別研究に対する修了生アンケート結果(一部抜粋)(平成 27 年度実施)	P5-94

- ④ 社会ニーズに速やかに対応し、「がん」、「認知症」専門医及び「がん看護」専門看護師の養成を順次進め、社会の要請に的確に対応してきた。これは関係者の期待に応えるものである<sup>4)</sup>。

4) 資料 1-2-24	: 北陸がんプロの概要とコンセプト	P5-67
別添資料 6(3)	: 改組後の博士課程授業開設表(3)	
資料 1-2-26	: 認プロの概要とコンセプト	P5-69
別添資料 6(4)	: 改組後の博士課程授業開設表(4)	
資料 1-2-15	: 修士課程授業開設表(平成 27 年度)	P5-57

- ⑤ 看護キャリアアップセンターでは、認定看護師課程として平成 23 年度に大学初の「慢性呼吸器疾患看護」分野を開講、平成 26 年度には「手術看護」分野を開講し、二分野の受講生を受入れ、社会人の学び直しに寄与していることは、特筆される<sup>5)</sup>。

5) 資料 1-2-28	: 看護キャリアアップセンター・認定看護師教育課程設置検討経過	P5-71
資料 1-2-29	: 看護キャリアアップセンター概要	P5-71
資料 1-1-42	: 看護キャリアアップセンター 認定看護師教育課程 収容定員充足率	P5-31

- ⑥ 博士課程において、医科学・生命科学の国際化・学際化に対応し、また一方では地域医療を担うリーダーを養成する社会的要請に鑑み、教育課程を再編した。特に、総合専門医の指導医を養成することを視野に入れて演習を中心としたコースを展開してきたことは特筆すべき事項であり、関係者の期待に十分応えるものである<sup>6)</sup>。

6) 資料 1-1-3	: 医学系研究科博士課程改組後の組織構成	P5-6
別添資料 6(2)	: 改組後の博士課程授業開設表(2)	
別添資料 6(3)	: 改組後の博士課程授業開設表(3)	

- ⑦ 被ばく医療に強い医師、「災害看護」専門看護師等の災害医療に貢献できる人材の養成は、地震大国である日本においてニーズは高く、更に東日本大震災以降、緊急被ばく医療の充実が喫緊の課題である。本大学院のカリキュラムは関係者の期待に十分応えるものであり、特筆される<sup>7)</sup>。

7) 資料 1-2-18	: 緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点概要	P5-59
資料 1-2-19	: 被曝医療に強い救急医育成に関する記事	P5-60
資料 1-2-21	: 博士課程 シラバス「地域総合医療学・臨床疫学特論Ⅱ (ER 救急学)」	P5-62
資料 1-2-22(1)	: 修士課程 シラバス(1)「災害看護学特論Ⅰ」	P5-63
資料 1-2-22(2)	: 修士課程 シラバス(2)「災害看護学実習Ⅳ」	P5-64

- ⑧ 博士課程では、教育目標達成のために、「共通科目」の開設、3年次研究発表会の実施、主・副の複数指導教員による研究指導の実施、TA・RA制度の活用、大学院セミナーの開催など多様な授業形態、学習指導を実施しているほか、大学院生による学会発表・論文発表が活発に行われ、大学院生からも好評を得ており、「将来指導的役割を担うことが可能な教育・研究者の養成」に十分応えるものである<sup>8)</sup>。

8) 資料 1-2-13	: 博士課程「共通科目」に対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-56
資料 1-2-14	: 博士課程 3年次研究発表会に対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-56
資料 1-1-20	: 副指導教員制度適用状況	P5-18
資料 1-2-46	: TA・RA 実績一覧	P5-86
資料 1-2-39	: 博士課程・大学院セミナーに対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-81
資料 1-2-50	: 博士課程・研究指導に対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-89

- ⑨ 学習環境について、県の助成金を基に福井メディカルシミュレーションセンターが設置され臨床研修の充実が図られる等、自己学習できる環境を整えており、大学院生の評価も高く、関係者の期待に十分応えるものである<sup>9)</sup>。

9) 資料 1-1-54	: 福井メディカルシミュレーションセンター学生利用状況 (大学院生含む)	P5-43
資料 1-1-55	: 福井メディカルシミュレーションセンターを利用した演習風景	P5-44
資料 1-2-54	: 博士課程・研究環境に対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-92
資料 1-2-55	: 修士課程・学習環境に対する在学学生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-93

以上のように、教育目標達成のための適切な教育内容が十分に整備され、大学院生や社会からの要請に対応できており、全ての関係者の期待に十分応えるものであるため、期待される水準を上回ると判断した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

●履修・修了状況から判断される学習成果の状況に関する例

【成果測定手法】

- ① 全学的に統一した基準により成績評価を実施するため、評価基準点及び評価基準を定めた。特に、学修の到達度を一層明確化するため、4段階評価を5段階評価に変更した(資料2-1-1)。大学院生からは評価の適切性について好評を得ている(資料2-1-2)。

資料2-1-1 福井大学大学院医学系研究科規程(一部抜粋)

福井大学大学院医学系研究科規程(一部抜粋)

(単位修得の認定)

第6条 授業科目の単位修得の認定については、試験その他の審査により授業科目担当教員が行う。

(試験)

第7条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、年1回行う。

3 追試験は、学生が、病気、災害等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかったときに、願い出により行う。この場合において、当該願い出は、当該授業科目担当教員の承認を得て行わなければならない。

4 再試験は、定期試験又は追試験を受験し不合格となった学生に対して、願い出により行うことがある。

5 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該試験を無効とし、大学院学則第43条の規定により懲戒する。

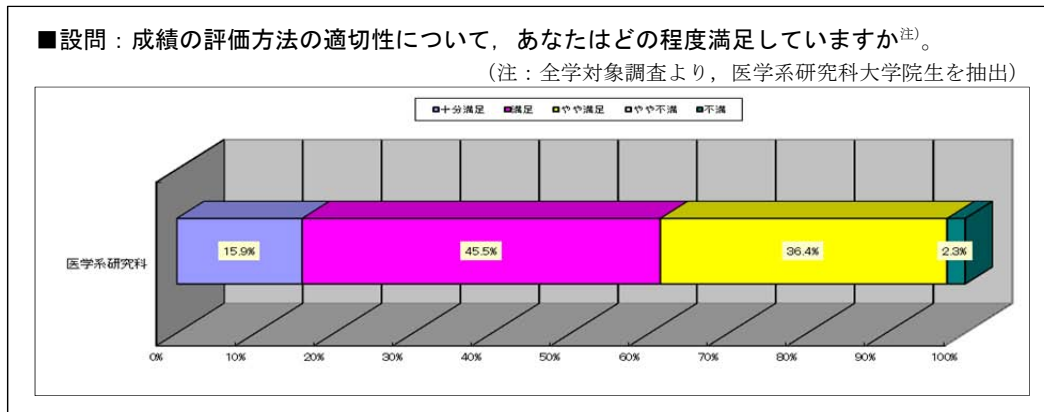
(成績の評価)

第8条 試験その他の審査による成績の評価については、評価点又は評価をもって表し、可否の認定は、次の表に掲げる基準により行う。ただし、再試験による評価は、60点以下とする。

評価点	評価	評価基準	認定
100点～90点	秀	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を挙げている	合格
89点～80点	優	目標を十分に達成している	
79点～70点	良	目標を概ね達成している	
69点～60点	可	目標を最低限達成している	
59点～0点	不可	目標を達成していない	不合格

(事務局資料)

資料 2-1-2 平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査（成績評価方法の適切性）



（平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋）

- ② 博士・修士課程ともに、学位論文の作成にあたり、3年次（修士は2年次）に研究発表会を実施している。この時点で大学院生が到達している学力レベル及び獲得した研究者としての資質・能力を、主・副指導教員だけでなく他分野の教員を含め検証している（資料 2-1-3, P5-55 前掲資料 1-2-11, 12）。

資料 2-1-3 看護学専攻修士論文審査 平成 27 年度公開発表会

福井大学大学院 医学系研究科看護学専攻  
 修士論文審査 平成 27 年度公開発表会

1. 日時：平成 28 年 2 月 3 日（水） 8：45～13：45

2. 場所：看護学科棟 看護大講義室

3. スケジュール

8：45～ 8：50	オリエンテーション	看護学科長
8：50～ 9：20	発表者 1 猪之詰 美香（基礎看護学）	[進行：長谷川美 教授]
9：20～ 9：50	発表者 2 上田 真弓（基礎看護学）	[進行：上澤 教授]
9：50～10：20	発表者 3 下前 めぐみ（基礎看護学）	[進行：重松 教授]
（中休憩 10分）		
10：30～11：00	発表者 4 西田 実紗子（基礎看護学）	[進行：出口 教授]
11：00～11：30	発表者 5 鰐淵 佳絵（基礎看護学）	[進行：磯見 教授]
11：30～12：00	発表者 6 井上 理恵（災害看護学）	[進行：上澤 教授]
（昼休憩）		
12：45～13：15	発表者 7 窪田 直美（災害看護学）	[進行：長谷川智 教授]
13：15～13：45	発表者 8 酒井 彰久（災害看護学）	[進行：長谷川美 教授]

※発表時間は15分、質疑応答時間は15分となっています。  
 （交代時間も含めての進行をお願いいたします。）

※進行は審査委員会主査が行います。

（事務局資料）

【単位取得・成績・学位授与状況】

- ① 医学系研究科において、厳密な単位認定を行っており、大学院生の「秀」,「優」の成績の割合は高く、このことは学業の到達度が高いことの証左である（資料 2-1-4）。

資料 2-1-4 大学院修了生成績状況（修了年度別）

博士課程修了生成績状況(修了年度別)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	計
修了者数	14	20	13	18	16	20	101
秀						55	55
優	125	167	117	181	155	141	886
良	0	6	2	4	8	0	20
可	1	2	0	0	4	2	9

・各年度毎に修了者の「評価」の数を集計した。  
 ・「秀」評価については、24年度入学者より適用しており、修了者を6名輩出した。

修士課程修了生成績状況(修了年度別)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	計
修了者数	6	8	10	11	7	8	
秀				8	4	31	43
優	53	70	76	67	39	68	373
良	12	10	18	29	26	21	116
可	1	0	1	0	4	0	6

・各年度毎に修了者の「評価」の数を集計した。  
 ・「秀」評価については、24年度入学者より適用しており、修了者を9名輩出した。

(事務局資料)

- ② 医学系研究科大学院生の留年率、退学率は高いが、社会人として地域医療に貢献しながらの修学であり、長期的視野で計画的に学んでいる（資料 2-1-5）。

資料 2-1-5 医学系研究科 留年率・退学率

医学系研究科大学院生の留年率（標準修了年限を超える率）、退学率ともに高い。留年率については、同大学院生は他の研究科とは異なり殆どが社会人であり、地域医療等社会貢献と学業を並行することから、計画を修正しながら研究を進めているためである。また、退学理由のほとんどが本務先での業務多忙のためである。

■留年率																			
年度	22年度			23年度			24年度			25年度			26年度			27年度			6年間平均
学部・研究科	学生数	留年者	留年率(%)	学生数	留年者	留年率(%)	学生数	留年者	留年率(%)	学生数	留年者	留年率(%)	学生数	留年者	留年率(%)	学生数	留年者	留年率(%)	留年率(%)
博士課程	99	33	33.3%	113	25	22.1%	111	24	21.6%	122	21	17.2%	128	20	15.6%	135	28	20.7%	21.3%
修士課程	22	1	4.5%	27	6	22.2%	28	5	17.9%	30	7	23.3%	30	4	13.3%	32	4	12.5%	16.0%

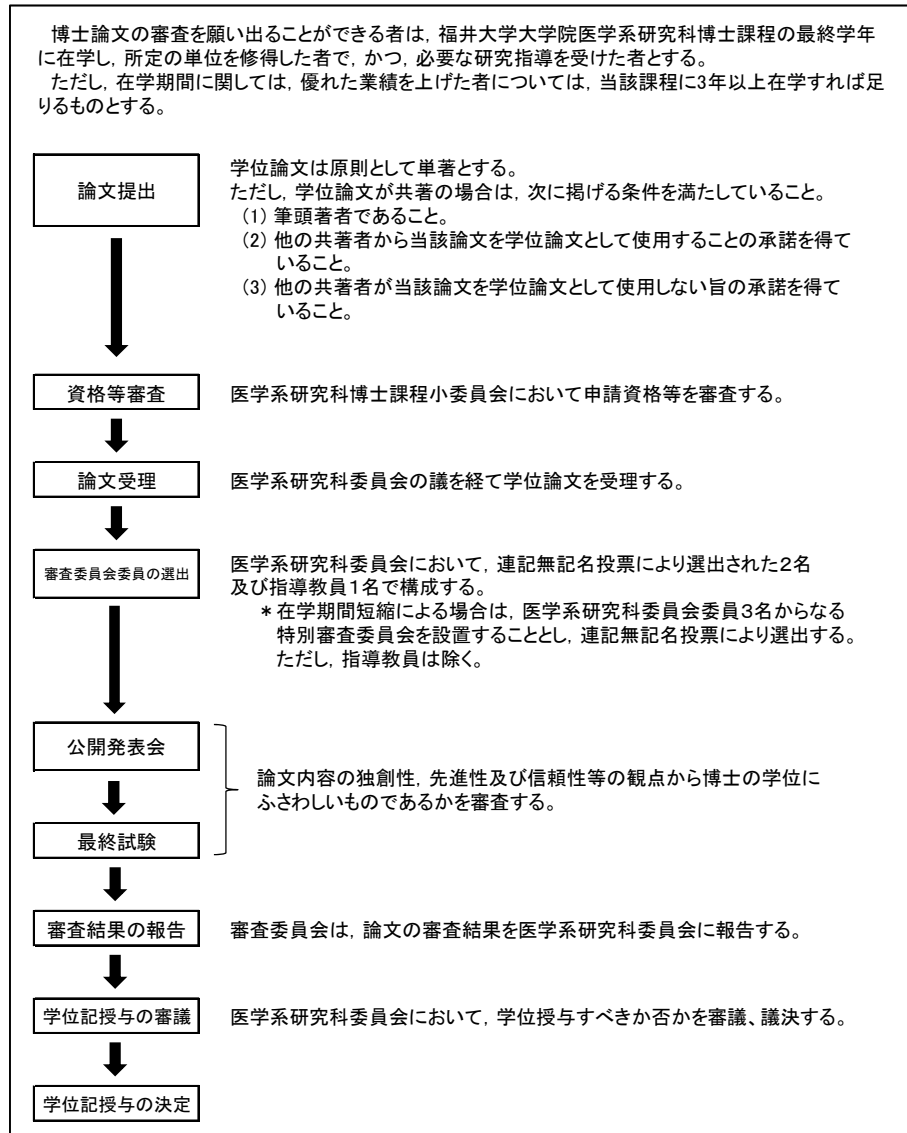
■退学率																			
年度	22年度			23年度			24年度			25年度			26年度			27年度			6年間平均
学部・研究科	学生数	退学者	退学率(%)	学生数	退学者	退学率(%)	学生数	退学者	退学率(%)	学生数	退学者	退学率(%)	学生数	退学者	退学率(%)	学生数	退学者	退学率(%)	退学率(%)
博士課程	99	4	4.0%	113	10	8.8%	111	8	7.2%	122	4	3.3%	128	3	2.3%	135	6	4.4%	4.9%
修士課程	22	0	0.0%	27	1	3.7%	28	0	0.0%	30	3	10.0%	30	3	10.0%	32	1	3.1%	4.7%

(事務局資料)

- ③ 博士課程の学位論文について、「査読のある、国際的に評価の定まっている欧文の学術誌もしくはそれと同等の学術的価値を有する学術誌に筆頭著者として公表した原著論文である」ことを DP に明確化した。このことにより、国際的な通用性・信頼性も確保され、その上で、研究の着想、計画、実施、論文執筆等における自発性が十分に発揮されたかを判断して学位授与候補者を決定している（資料 2-1-6, 7, P5-49 前掲資料 1-2-2）。



資料 2-1-6 博士論文審査手順



(事務局資料)

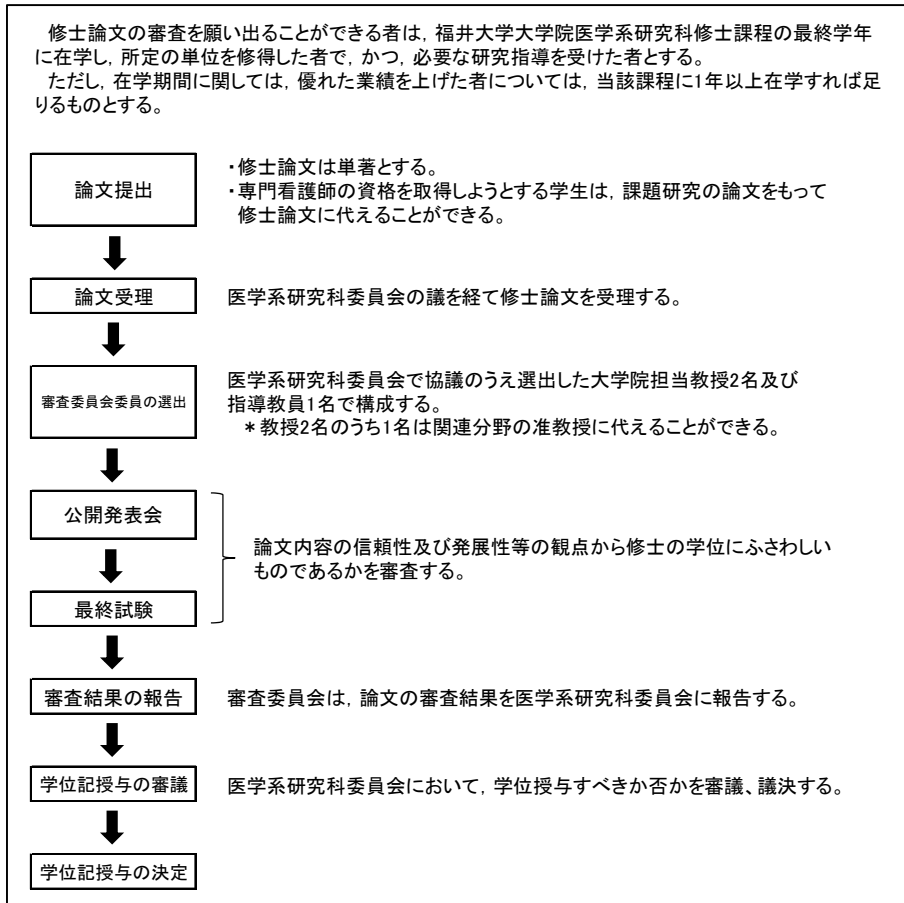
資料 2-1-7 博士課程の修了状況 (入学年度別)

修了年度	入学年度									計
	16年度以前	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
平成22年度	5	1	4	4						14
平成23年度	4	3	1	9	3					20
平成24年度	2	1	3	2	1	3	1			13
平成25年度	3	1		1	2	8	2	1		18
平成26年度		2		1	2	1	6	4		16
平成27年度		1				2	1	10	6	20

(事務局資料)

- ④ 修士課程では、大学院生の学位論文について、DPに示されている通り、複数の審査教員による口頭試問等を行った上で審査を行うという厳格な体制の下、学位授与候補者を決定している(資料 2-1-8, 9, P5-49 前掲資料 1-2-2)。

資料 2-1-8 修士論文審査手順



(事務局資料)

資料 2-1-9 修士課程の修了状況 (入学年度別)

修了年度	入学年度								計
	19年度以前	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
平成22年度			6						6
平成23年度	1			7					8
平成24年度				3	7				10
平成25年度					2	9			11
平成26年度			1				6		7
平成27年度							3	5	8

(事務局資料)

- ⑤ 博士課程のすべての学位論文は欧文のレフェリー制度のある国際的な一流学術誌に掲載されている。全学位論文のインパクトファクターは第2期の平均で3.107と極めて高く、第1期の平均2.986を上回り、年々向上していることは特筆される(資料2-1-10(1))。また、修士課程の学位論文は、その研究成果の多くが学会で発表されており、レフェリー制度のある一流の学会雑誌に掲載されているものもある(資料2-1-10(2))。これらは大学院生が一定の研究能力を身に付けたことを示す証左である。

# 福井大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

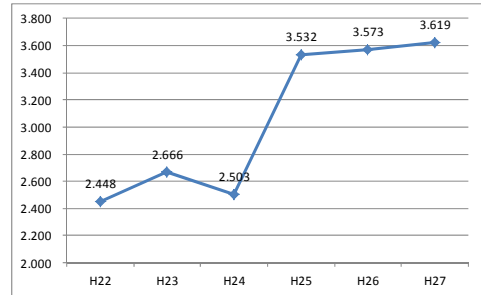
資料 2-1-10(1) 大学院生の学会発表数、論文発表数一覧（博士課程）

年度	論文掲載雑誌名	IF	備考	
平成 22年度	European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging	4.531		
	Clinical and Experimental Allergy	3.556		
	British Journal of Ophthalmology	2.917		
	Biochemical and Biophysical Research Communications	2.548	2件	
	Nuclear Medicine and Biology	2.456		
	International Journal of Oncology	2.447		
	Urology	2.365		
	Artificial Organs	2.131		
	その他5誌	3.882		
	<b>小計(14件)</b>	<b>29.381</b>		
	<b>平均(12件)</b>	<b>2.448</b>		
	平成 23年度	International Journal of Cardiology	6.802	
		Journal of Neurotrauma	4.255	
		The Journal of Urology	4.016	
Cancer Science		3.846		
International Journal of Cardiology		3.469		
Genes to Cells		2.952		
The Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology		2.886		
Journal of Nuclear Cardiology		2.811		
Pediatric Research		2.803		
International Journal of Oncology of Oncology		2.571		
Nuclear Medicine And Biology		2.456		
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis		2.293		
Journal of Pharmacological Sciences		2.280		
その他7誌		9.908		
<b>小計(20件)</b>	<b>53.328</b>			
<b>平均(20件)</b>	<b>2.666</b>			
平成 24年度	Endocrinology	4.459		
	The Prostate	3.485		
	Clinical and Experimental Immunology	3.360		
	Cancer Science	3.325		
	Nuclear Medicine and Biology	3.023		
	Translational Research	2.986		
	Clinica Chimica Acta	2.535		
	International Journal of Oncology	2.399		
	その他5誌	4.461		
	<b>小計(13件)</b>	<b>30.033</b>		
	<b>平均(12件)</b>	<b>2.503</b>		
平成 25年度	Oncotarget	6.636		
	Allergy	5.883		
	FASEB Journal	5.704		
	European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging	5.114		
	British Journal of Pharmacology	5.067		
	Journal of Neuroinflammation	4.351		
	Journal of Clinical Microbiology	4.068		
	PLOS One	3.730	2件	
	British Journal of Urology International	2.844		
	Hypertension Research	2.791		
	Nuclear Medicine and Biology	2.517		
	その他6誌	7.601		
	<b>小計(18件)</b>	<b>60.036</b>		
<b>平均(17件)</b>	<b>3.532</b>			
平成 26年度	Journal of Neuroscience	6.747		
	Allergy	5.995		
	Pain	5.836		
	Biochimica et Biophysica Acta(BBA)-Gene Regulatory Mechanisms	5.440		
	Annals of Surgical Oncology	3.943		
	Cancer Science	3.534		
	Behavioural Brain Research	3.391		
	Clinical Neurophysiology	3.144		
	BioMed Research International	2.880		
	International Journal of Oncology	2.773		
	Gerontology	2.681		
	American Journal of Rhinology and Allergy	2.178		
	Urology	2.132		
	その他2誌	2.917		
<b>小計(15件)</b>	<b>53.591</b>			
<b>平均(15件)</b>	<b>3.573</b>			
平成 27年度	STEM CELLS	6.523		
	Oncotarget	6.359		
	Cancer Letters	5.621		
	Scientific Reports	5.578		
	Journal of Nuclear Medicine	5.563		
	Journal of Biological Chemistry	4.600		
	PLOS ONE	3.534		
	PLOS ONE	3.234	2件	
	Journal of Magnetic Resonance Imaging	3.210		
	Clinical Nuclear Medicine	2.857		
	Acta Ophthalmologica	2.844		
	Diabetes & Vascular Disease Research	2.829		
	International Journal of Oncology	2.773		
	Urology Oncology - Seminars and Original Investigations	2.768		
	Life Science	2.702		
	その他5誌	4.534		
<b>小計(21件)</b>	<b>68.763</b>			
<b>平均(19件)</b>	<b>3.619</b>			
<b>合計(101件)</b>	<b>295.132</b>			
<b>平均(95件)</b>	<b>3.107</b>			

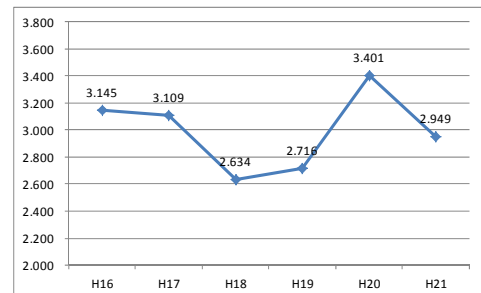
\* IF値については、学位論文提出時のものである。  
\* 各年度の平均値算出にあたり、IF値のない論文は件数から除外した。

第2期中期目標期間における各年度のIFの平均値は年々高くなってきており、22年度～27年度の平均値は3.107となり、第1期の16年度～21年度の平均2.986を更に上回っている。

<第2期>



<参考:第1期>



(事務局資料)

資料 2-1-10(2) 大学院生の学会発表数、論文発表数一覧（修士課程）

年度	発表雑誌名	発表者数	年度	発表学会名	発表者数
平成 24年度	日本看護研究学会	1	平成 24年度	第32回日本看護科学学会学術集会	2
平成 25年度	日本臨床医学リスクマネジメント学会	1		第38回日本看護研究学会	4
	日本看護学会(看護管理)	1		日本看護学会(地域看護)	1
平成 26年度	日本科学看護会誌	1		3rd International Conference on Violence in the Health Sector	1
	富山大学看護学雑誌	1		第25回日本がん看護学会学術集会	1
	日本看護学会(成人看護)	1		第12回日本災害看護学会学術集会	1
平成 27年度	家族看護学研究	1	第22回日本看護学教育学会学術集会	1	
	福井県小児保健協会	1	平成 25年度	心理教育・家族教室ネットワーク	1
* 修士課程看護学専攻では、学位論文関連業績は翌年度以降の学術雑誌に発表することになる。			18th International Conference & Summit on Violence, Abuse & Trauma	1	
			福井県小児保健協会	1	
			第49回日本循環器病予防学会	1	
			第39回日本看護医療学会学術集会	3	
			第39回日本看護研究学会学術集会	2	
			日本臨床医学リスクマネジメント学 会：第6回北陸地方会	1	
			第27回日本がん看護学会学術集会	1	
			第17回日本看護管理学会学術集会	3	
			第20回ヘルスカウンセリング学会	1	
			日本看護研究学会：第26回近畿北 陸地方会学術集会	2	
			平成 26年度	日本看護学会(ヘルスプロモーション)	1
			19th International Conference & Summit on Violence, Abuse & Trauma	1	
			日本看護研究学会：第27回近畿北 陸地方会学術集会	1	
			日本看護研究学会：第28回近畿北 陸地方会学術集会	1	
			第40回日本看護研究学会学術集会	3	
			第17回日本災害看護学会学術集会	1	
			北陸公衆衛生学会	2	
			福井県看護学会	1	
			第45回日本看護学会(看護管理)	1	
			第18回日本看護管理学会学術集会	1	
			日本看護学会(精神看護)	1	
			第36回日本生物学的精神医学会	1	
			第27回福井県母性衛生学会	1	
			第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会	1	
			平成 27年度	日本精神保健看護学会学術集会	1
			第29回日本助産学会学術集会	1	
			第17回日本看護医療学会学術集会	1	
			第46回日本看護学会(看護管理)	1	
			日本家族学会学術集会	1	
			日本看護学会学術集会	1	
			第27回福井県母性衛生学会	1	
			第17回日本災害看護学会学術集会	7	
			日本精神神経学会学術集会	1	
			* 修士課程看護学専攻では、学位論文関連業績は翌年度の学会で発表することになる。1名の修了者が、複数の学会発表を行う場合がある。		

(事務局資料)

- ⑥ 大学院生の中には科学研究費補助金に採択される者もあり、大学院生の研究を行う一定の資質・能力を証明するものである。また、第1期と比べ、採択数が大きく増加していることは大学院生の能力の向上を示している（資料 2-1-11）。

資料 2-1-11 大学院生が獲得した科学研究費補助金一覧

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計
博士課程	若手(B)・代表	3	7	10	10	8	38
	萌芽・代表		1	1	2	3	7
	基盤(C)・代表			2	2	3	7
	基盤(A)・分担						0
	基盤(B)・分担	3	3	3	2		11
	基盤(C)・分担	4	4	3	5	3	19
	萌芽・分担	1	1	3	4	3	12
修士課程	若手(B)・代表		1	2	2	2	7
	基盤(C)・分担	1			1	1	3
計		12	17	24	28	23	104

第1期（平成16年度～平成19年度）の年度平均採択数10.3件と比べ、第2期（平成23年度～平成27年度）の平均は20.8件と大きく増加している。

(事務局資料)

⑦ 看護キャリアアップセンターでは、多くの認定看護師を輩出している(資料2-1-12)。

資料 2-1-12 認定看護師教育課程実績

平成28年3月現在							
課程	年度	収容定員数 (a)	学生数 (b)	収容定員充足率(%) (b)÷(a)×100	休学及び退学者	修了生 人数	認定審査 合格者
慢性呼吸器疾患看護分野	平成23年度	30	30	100.0		30	30(100%)
	平成24年度		28	93.3	1 (退学者)	27	27(100%)
	平成25年度		29	96.7		29	29(100%)
	平成26年度		29	96.7		29	26(90%)
	平成27年度		24	80.0	1 (休学者)	23	平成28年5月 審査予定
手術看護分野	平成26年度	20	22	110.0		22	19(86%)
	平成27年度		22	110.0		22	平成28年5月 審査予定

**認定看護師数の推移**

平成23年度: 30  
平成24年度: 27  
平成25年度: 29  
平成26年度: 45

手術看護分野平成26年度より開講

2分野(慢性呼吸器疾患看護/手術看護)

平成27年度末までに「慢性呼吸器疾患看護」及び「手術看護」の2つの分野から182人が修了し、平成26年度修了生までの認定審査合格率は95.6%となっており、修了生のほとんどが認定看護師として活躍している。

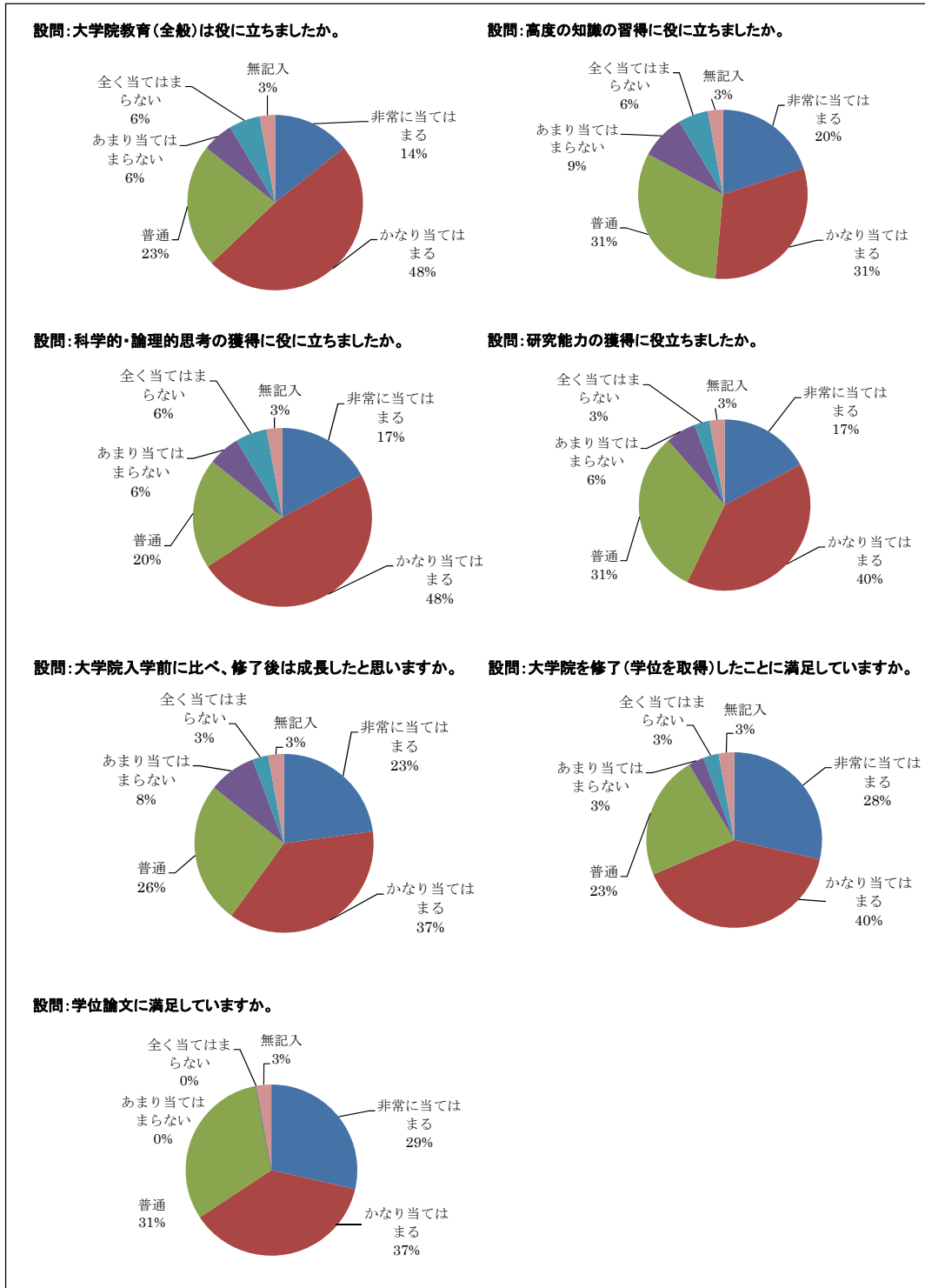
(キャリアアップセンター資料から)

● 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果に関する例

【学生アンケートの内容】

① 博士課程では、授業及び研究指導等の大学院教育に対する大学院生の評価は高く、また、大学院教育により得られた修了時の資質・能力及び学位論文の満足度に対する大学院生の評価も良好であり、学業の最終成果の満足度は高く、適切である(資料2-1-13)。

資料 2-1-13 博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）

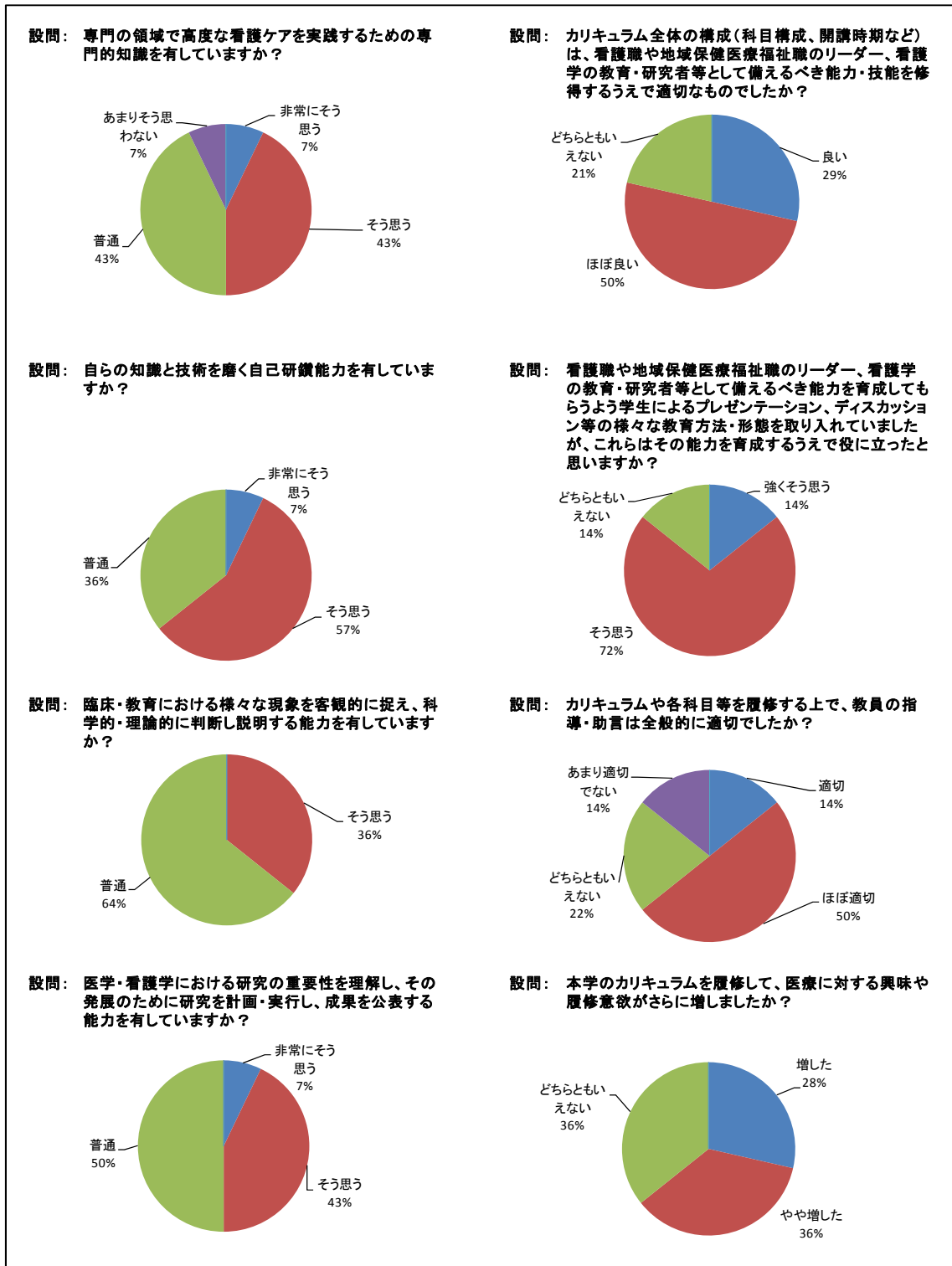


(資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から)

② 修士課程では、授業（共通科目，特論，演習），研究活動及びキャリア形成・向上に関する評価は高く，適切である。また，大学院で身に付けた学力や能力が修了後に活用されていると評価する修了生が多く，適切である（資料 2-1-14）。

また，看護キャリアアップセンターにおいても，認定看護師課程の修了生に対して実施したカリキュラムアンケート結果によると，すべての科目において，満足度の高い結果が得られており，適切である（資料 2-1-15）。

資料 2-1-14 修士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果（平成 27 年度実施）

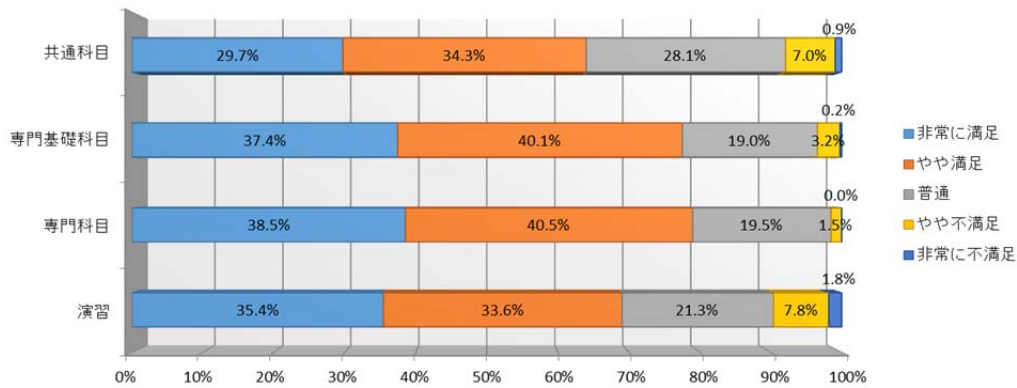


（資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）



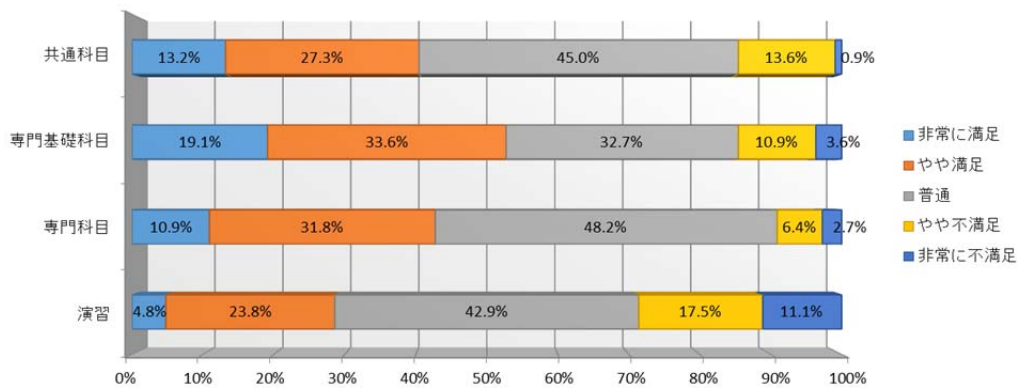
資料 2-1-15 看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程 カリキュラムアンケート結果

(慢性呼吸器疾患看護分野) (平成 23 年度～平成 26 年度平均値)



全ての科目群において、非常に満足、やや満足が64%以上となっており、受講生のカリキュラムに対する満足度は高い。

(手術看護分野) (平成 26 年度)



全ての科目群において、普通以上の評価が71%以上となっており、カリキュラムについて受講生はおおむね満足している。

(修了生からのカリキュラムアンケートからのコメント)

《共通科目》

- ・ 今後認定として活躍していく際のあるべき姿、自身が身につけて行かなければならない態度について考えることができた
- ・ 色々な分野の認定看護師の話が聞ける機会があるので、継続してほしい
- ・ 大変内容が充実しており、カリキュラム上の問題がなければ、コマ数を増やしてほしい
- ・ 医療安全に対する病院としての取り組みや多職種者との連携の仕組みを理解することができた

《専門基礎科目》

- ・ 各分野の専門とする先生に講義をしていただき、疾患についてあらためて深めることができた
- ・ 全体的、統合的に患者を診る方法が学べた
- ・ 災害の対応の授業で、実際に被災した病院の師長など具体的な話が決めたことは貴重であった
- ・ グループワークを通して、自分では気づくことのできなかった倫理的問題に気づかされた

《専門科目》

- ・ 内容に関しては、どうしたら対象にわかりやすく伝えられるか、この教育プログラムから何をもって帰ってもらうかに関して工夫することができたと思う
- ・ 倫理について深く考えることが出来た。今後の自分の考えを深くしていきたいと思う
- ・ 看護診断について十分な時間をとってもらえたのはよかった
- ・ 看護観の発表は改めて、自分の看護を見つめ直すきっかけになったのでよかった

(資料「看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程・カリキュラムアンケート集計結果抜粋」から)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

- ① 博士・修士課程ともに、修了に際しては厳格な学位論文審査体制が整備されており、国際的な一流雑誌に公表されるなど学位論文の水準は高い。また、科学研究費補助金の採択数が第1期と比べ大きく増加していることも大学院生の研究能力の向上を示している。これらは修了生が十分な学力や資質・能力を身に付けている証左であり、全ての関係者の期待に十分応えるものである。また、博士課程における学位論文のインパクトファクター値が第1期よりも高くなっていることも大学院生の科学的・論理的思考力を備えた高い研究能力の証左となり、特筆できる<sup>1)</sup>。

1) 資料 2-1-6	: 博士論文審査手順	P5-100
資料 2-1-8	: 修士論文審査手順	P5-101
資料 2-1-10(1)	: 大学院生の学会発表数, 論文発表数一覧 (博士課程)	P5-102
資料 2-1-10(2)	: 大学院生の学会発表数, 論文発表数一覧 (修士課程)	P5-103
資料 2-1-11	: 大学院生が獲得した科学研究費補助金一覧	P5-104

- ② 博士・修士課程ともに、在学時点及び修了時点におけるアンケート結果から、大学院生は十分な学力や資質・能力を身に付けており、更に学業成果に対する満足度も高く、全ての関係者の期待に十分応えるものである<sup>2)</sup>。

2) 資料 2-1-13	: 博士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-105
資料 2-1-14	: 修士課程・学業の成果に対する修了生アンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-106

以上のように、大学院生・修了生の学業成果は良好であり、全ての関係者の期待に極めてよく応えるものであるため、期待される水準を上回ると判断した。

**観点 進路・就職の状況**

(観点に係る状況)

●進路・就職状況，その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況に関する例  
【就職・進学率やキャリアパス】

- ① 博士課程修了者の進路は，本学教員，県内医療機関医師（本学医学部附属病院を含む）及び県外医療機関等となっており，就職率はほぼ100%である。また，福井県内への就職率は平均で79.2%となっており，関係者の期待に十分応えている（資料2-2-1）。

資料2-2-1 博士課程修了者の進路状況

【第2期】																		
修了年度	修了者数	福井県内						県内就職率	県外						就職者数	就職率		
		福井大学			医療機関 医師	教育機関 教員等	計		大学			医療機関 医師	その他	国外 大学等			計	
教員	医員	その他	教員	医師				その他	教員	医師	その他							
平成22年度	14	3	1		4		8	57.1%				2			4	6	14	100.0%
平成23年度	20	4	4	2	5		15	75.0%			1	2	1	1		5	20	100.0%
平成24年度	13	2	3	2	3		10	76.9%				3				3	13	100.0%
平成25年度	18	4	3	2	6		15	83.3%	1			1		1		3	18	100.0%
平成26年度	16	6	2	3	3	1	15	93.8%						1		1	16	100.0%
平成27年度	20	5	6		6		17	85.0%				2				2	19	95.0%
計	101	24	19	9	27	1	80	79.2%	1	0	1	10	2	6		20	100	99.0%

※平成27年度修了者1名は外国人留学生であり，就職希望なし。

【第1期】																		
修了年度	修了者数	福井県内						県内就職率	県外						就職者数	就職率		
		福井大学			医療機関 医師	教育機関 教員等	計		大学			医療機関 医師	その他	国外 大学等			計	
教員	医員	その他	教員	医師				その他	教員	医師	その他							
第1期 (平成16年度 ～21年度)	97	25	21	2	37	0	85	87.6%	0	1	0	5	2	4		12	97	100.0%

第1期に比べ，第2期においても平均就職率はほぼ100%（H27の未就職者1名は就職希望なし）を維持，県内就職率も若干下がったとはいえ，79.2%と福井県の医療への高い貢献度を保っている。

(事務局資料)

- ② 修士課程修了者の進路は，本学教員，県内医療機関（本学医学部附属病院を含む），看護職等となっており，就職率は100%である。また，福井県内への就職率は平均で95.9%となっており，関係者の期待に十分応えている（資料2-2-2）。

資料 2-2-2 修士課程修了者の進路状況

【第2期】														
修了年度	修了者数	福井県内						県外					就職者数	就職率
		福井大学		教育機関 教員	医療機関 看護師等	計	県内 就職率	大学		教育機関 教員	医療機関 看護師等	計		
		教員	看護師等					教員	看護師等					
平成22年度	6	1	1	1	3	6	100.0%					0	6	100.0%
平成23年度	8	1	1		6	8	100.0%					0	8	100.0%
平成24年度	9	1	2	3	3	9	100.0%					0	9	100.0%
平成25年度	11		5		6	11	100.0%					0	11	100.0%
平成26年度	7		1	1	4	6	85.7%			1		1	7	100.0%
平成27年度	8	1	2		4	7	87.5%				1	1	8	100.0%
計	49	4	12	5	26	47	95.9%	0	0	1	1	2	49	100.0%

【第1期】														
修了年度	修了者数	福井県内						県外					就職者数	就職率
		福井大学		教育機関 教員	医療機関 看護師等	計	県内 就職率	大学		教育機関 教員	医療機関 看護師等	計		
		教員	看護師等					教員	看護師等					
第1期 (平成16年度 ～21年度)	48	7	15	4	21	47	97.9%	0	0	1	0	1	48	100.0%

平成27年度に初めて災害看護専門看護師教育課程の大学院生3名が修了  
就職先：福井大学医学部附属病院福看護師長，公立丹南病院看護師長，  
福井大学医学部看護学科助教

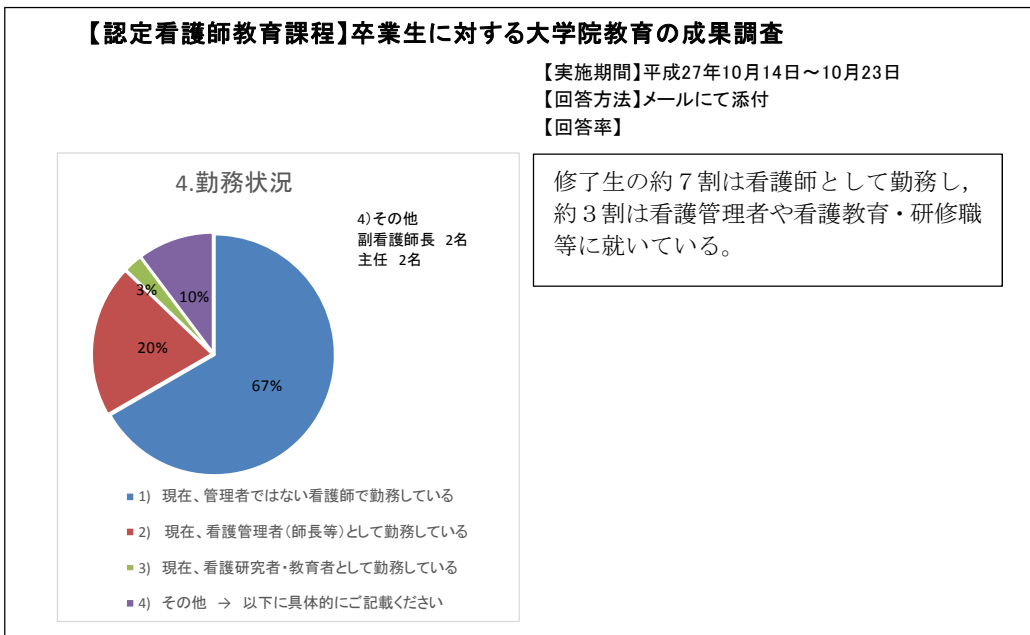
第1期に比べ，第2期においても平均就職率は100%を維持，県内就職率も95.9%と第1期とほぼ同じ水準を維持しており福井県の医療への高い貢献度を保っている。

(事務局資料)

- ③ 看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程では，平成27年度末までに182名が修了し活躍している（資料2-2-3，P5-104 前掲資料2-1-12）。

また，人材育成担当部門の看護実践能力開発講座の参加者からも高評価を得ており，就業看護師への生涯学習支援として，社会に大きく貢献していると言える（P5-72，73 前掲資料1-2-30～32）。

資料 2-2-3 看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程 卒業生に対する成果調査結果



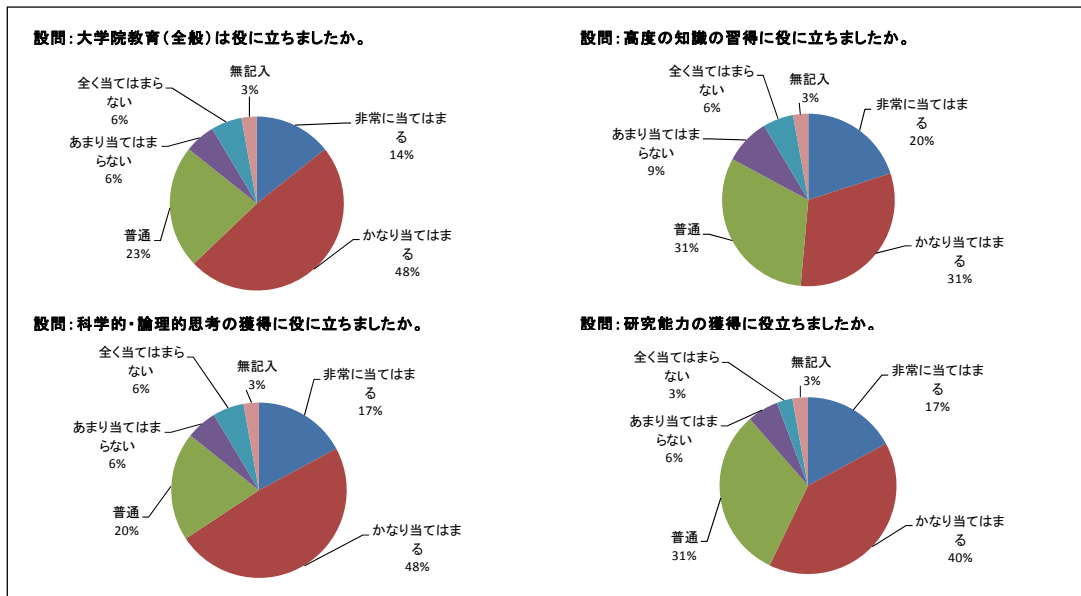
(看護キャリアアップセンター資料から)

●在学中の学業の成果に関する修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果に関する例

【卒業生調査内容】

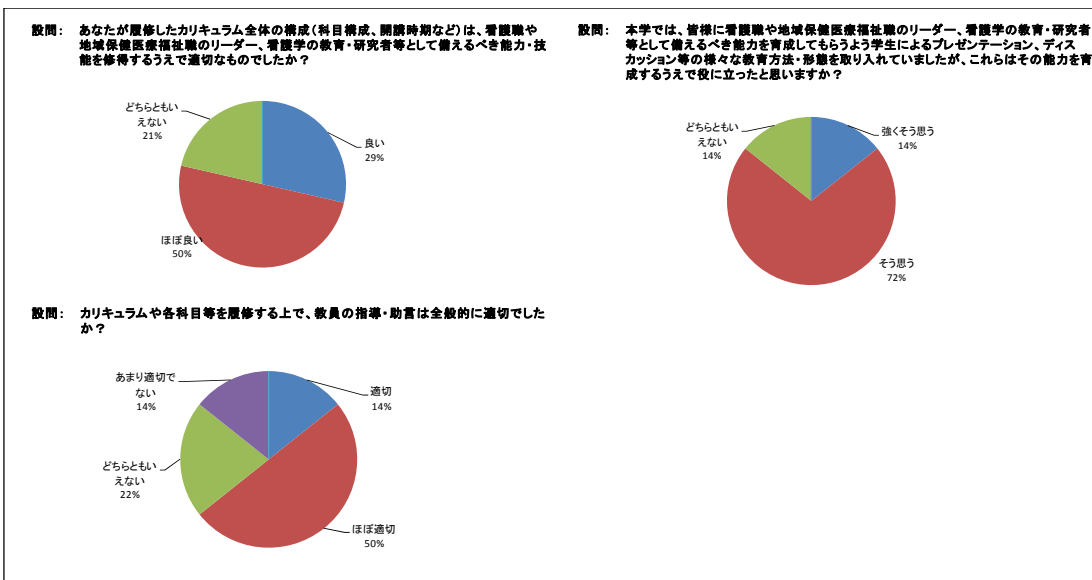
博士・修士課程ともに就職についての修了者の満足度は高い。特に修士課程では、大学院で学んだことが現職に活かされていると評価するものが多く適切である（資料 2-2-4, 5）。

資料 2-2-4 博士課程修了者・仕事と教育内容についてのアンケート結果（平成 27 年度実施）



（資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）

資料 2-2-5 修士課程修了者・仕事と教育内容についてのアンケート結果（平成 27 年度実施）

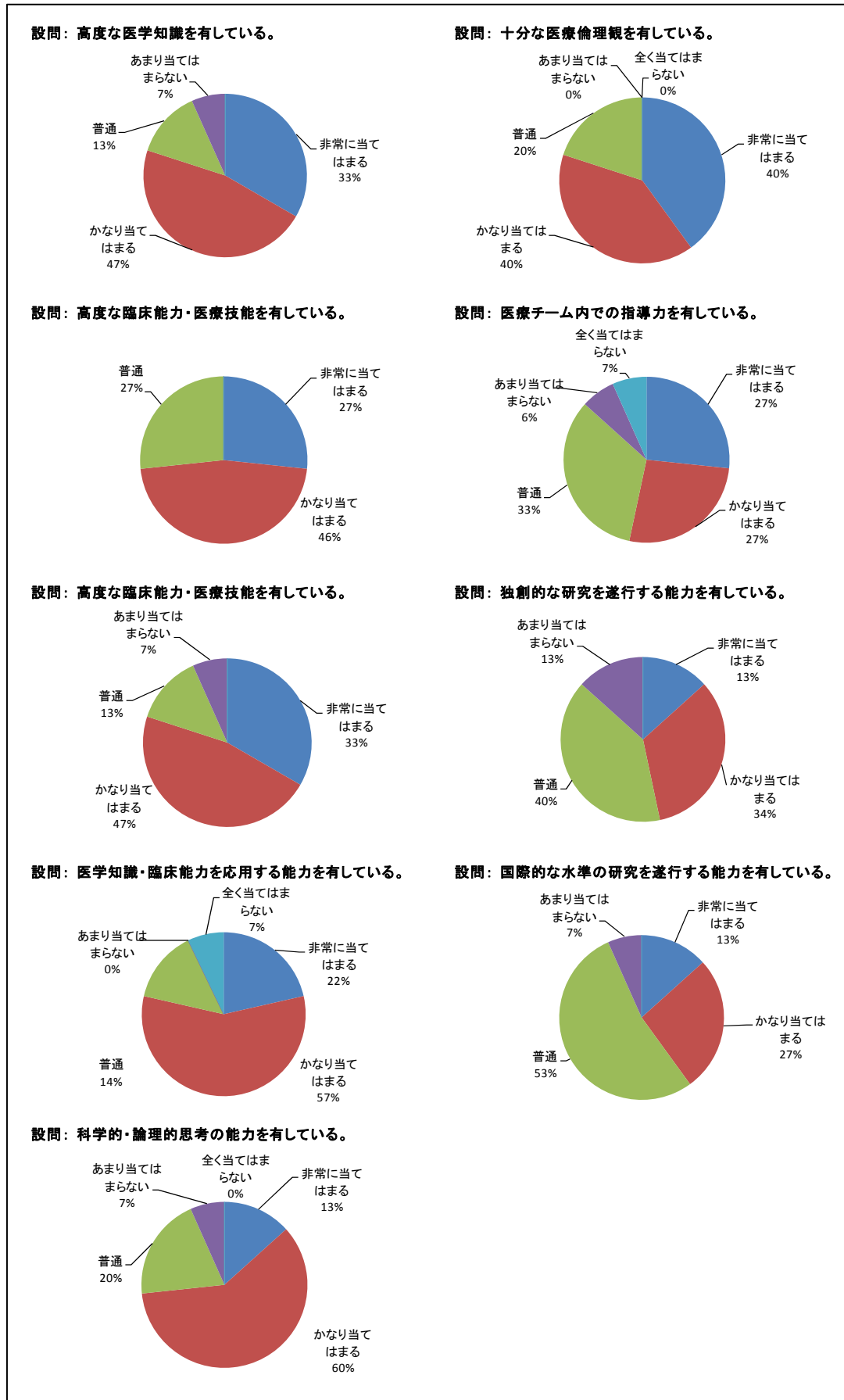


（資料「修了生・大学院教育に関するアンケート集計結果・抜粋」から）

【就職先調査内容】

博士・修士課程ともに修了者の就職先機関からの評価も高く、大学院教育で得た資質・能力が適切であるといえる（資料 2-2-6, 7）。

資料 2-2-6 博士課程 勤務機関へのアンケート結果（平成 27 年度実施）



(勤務機関に対する博士課程修了者に関するアンケート結果より)

資料 2-2-7 修士課程 勤務機関へのアンケート結果（平成 27 年度実施）

<p>○ 就業先, 意見聴取者： A病院 看護部長</p> <p>1. 本学修了生の全体的評価</p> <p>現在の勤務では、新人の教育担当である。自己学習意欲は高く、そのような姿勢が新人の良いモデルになっている。看護実践上のリーダーシップ能力には課題がある。</p> <p>2. 本学修了生の活用</p> <p>看護協会の災害看護委員でありDMAT隊員として災害看護のリーダーとして活躍している。修士課程修了していることで、看護部倫理委員会で倫理審査委員、看護研究の査読委員のリーダー的役割をとって活躍している。</p>
<p>○ 就業先, 意見聴取者： B病院 看護部長</p> <p>1. 本学修了生の全体的印象</p> <p>認定看護師でもあり、看護師特定行為・業務試行に参加中で、12月からの日本看護協会での2か月間の研修が予定されている。自分の専門性を生かして地域で自律した看護ケアを実施できる人材となると思われる。</p> <p>2. 本学修了生の活用</p> <p>つい最近まで病院唯一の認定看護師でもあったことから管理監査を担当し、病院全体の医師、地域保健所からの相談など周囲からの信頼が非常に高い。特に地域連携においては訪問看護師や地域のクリニックからの相談、要望を受けての指導や講演活動も意欲的に行っている。これらの周囲からの期待というモチベーションと修士課程を修了していることも自信になっていると考える。さらに、英国での研究発表も実施している。</p>
<p>○ 就業先, 意見聴取者： C病院 看護部長 , D病院 看護部長の共通意見</p> <p>1. 本学修了生の全体的印象</p> <p>認定看護師でもあるが、看護管理役割を担ってもらいたいと外科病棟の管理師長に任命した。元気でメリハリのある性格であり、CNとしての実践力も高いために、本部の管理研修も受けつつ、看護管理者としてスタッフの信頼も厚く頑張っている。</p> <p>2. 本学修了生の全体的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修了後の仕事の仕方に着目するような活躍ぶりであり、本学の修士課程で学ぶ意欲をもつ看護師に良い影響を与えている。</li> <li>・ 個人レベルで学ぶのではあるが、院内の研究指導や査読委員としての役割を担当し、積極的な研究の取り組みが推進されてきた。</li> <li>・ 院内の他職種との協働する機会が増えてきているが、看護部の意見を明確に発言し、将来への展望や幅広い視野をもっているのが将来を期待したい。</li> </ul> <p>3. 本学修了生の活用</p> <p>看護研究委員を務め、研究のアドバイスや根拠のあるデータの示し方など、自信を持って意欲的な取り組みができています。</p>

（資料「修士課程修了者の勤務先機関へのアンケート結果」より）



(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

- ① 博士・修士課程ともに修了者は卒業後の進路について満足しており、大学院生等の期待に十分応えるものである<sup>1)</sup>。

1) 資料 2-2-1	: 博士課程修了者の進路状況	P5-109
資料 2-2-4	: 博士課程修了者・仕事と教育内容についてのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-111
資料 2-2-2	: 修士課程修了者の進路状況	P5-110
資料 2-2-5	: 修士課程修了者・仕事と教育内容についてのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-111

- ② 博士・修士課程ともにそれぞれの教育目的に応じた人材の養成ができており、相応の機関に就職し、指導的役割を果たしていることは、関係者の期待に十分応えるものである<sup>2)</sup>。

2) 資料 2-2-6	: 博士課程 勤務機関へのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-112
資料 2-2-7	: 修士課程 勤務機関へのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-113

- ③ 博士・修士課程ともに修了者の県内医療機関等への就職率は高く、地域医療・保健に貢献していることは特筆できる。また、就職先機関からは、修了生は教育目的に対応した学力・能力・資質を十分有していることが高く評価されており、関係者の期待に十分応えるものである<sup>3)</sup>。

3) 資料 2-2-1	: 博士課程修了者の進路状況	P5-109
資料 2-2-2	: 修士課程修了者の進路状況	P5-110
資料 2-2-6	: 博士課程 勤務機関へのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-112
資料 2-2-7	: 修士課程 勤務機関へのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-113

以上のように、進路・就職の状況は全ての関係者の期待に十分応えたものであり、期待される水準にあると判断した。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### ① 博士課程の改組

平成 25 年度に 2 専攻体制から「統合先進医学専攻」の 1 専攻体制に統一し、従来のコースとともに本邦初の「地域総合医療学コース」を新設した。このことにより、高度な研究と地域医療を相補的に学ぶ機会を提供できる体制となった。「地域総合医療学コース」は福井の地域性を生かし、現代の社会情勢のニーズにこたえる改組となっている。改組後、専攻の 1 本化とともに複数教員指導体制が導入され、基礎・臨床間の相互指導体制がより有機的に行えるようになった。

このような体制の構築によって、入学希望者が増え、第 2 期の平均入学定員充足率は第 1 期より大きく向上し、改組後は 100%を維持している。大学院生の研究指導についての満足度も第 1 期に比べ高くなっているなど、関係者の期待に応えるものであり、重要な質の変化があったと判断した<sup>1)</sup>。

1) 資料 1-1-3	: 医学系研究科博士課程改組後の組織構成	P5-6
資料 1-1-4	: 博士課程改組後の指導体制	P5-7
資料 1-1-7	: 博士課程 地域総合医療学コース教育体制	P5-9
資料 1-1-19	: 副指導教員制度を定めた規則	P5-18
資料 1-1-20	: 副指導教員制度適用状況	P5-18
資料 1-1-21	: 平成 21 年度, 平成 27 年度福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査 (研究指導)	P5-19
資料 1-2-6	: 博士課程: カリキュラムの展開	P5-51
資料 1-2-11	: 医科学基礎総論に係る「大学院発表会 (研究経過方向・検討会)」について	P5-55
資料 1-2-12	: 博士課程 3 年次生研究発表会実施状況 (平成 27 年度)	P5-55
資料 1-1-40	: 入学定員充足率の適正化に向けた改善の実施とその成果	P5-30
資料 1-1-41	: 医学系研究科における入学定員充足率	P5-31

##### ② 修士課程の専門看護師教育課程の開設

災害による被害が累進傾向にある時代に対応し、平成 25 年に災害看護学分野を設置して修士課程は 6 領域へと拡大した。また、平成 26 年からは、グローバル水準の高度実践看護師教育として専門看護師(CNS)教育課程をスタートさせた。特に被ばく医療に強い災害看護 CNS 課程は、国内初である。また、がん看護 CNS 課程では、がん薬物療法や緩和ケアの専門家を育成している。CNS 課程設置に伴う共通科目の増加と演習や実習を含めた専門科目の充実、大学院全体の教育内容とエビデンスに基づく的確な判断による看護ケアの質の向上に寄与し、学生の履修に関する満足度は高い。この改革により、平均入学定員充足率は第 1 期に比べ、第 2 期は 98.6%と大幅に改善されており、重要な質の変化があったと判断した<sup>2)</sup>。

2) 資料 1-1-5	: 修士課程 CNS 課程開設検討経過	P5-8
資料 1-1-8	: 修士課程 災害看護 CNS 課程の指導体制	P5-10
資料 1-2-15	: 修士課程授業開設表(平成 27 年度)	P5-57
資料 1-2-22(1)	: 修士課程 シラバス(1)「災害看護学特論Ⅰ」	P5-63
資料 1-2-22(2)	: 修士課程 シラバス(2)「災害看護学実習Ⅳ」	P5-64
資料 1-1-40	: 入学定員充足率の適正化に向けた改善の実施とその成果	P5-30
資料 1-1-41	: 医学系研究科における入学定員充足率	P5-31

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

① 博士課程学位論文の質の向上

社会人の大学院入学への門戸を広げるため、単位取得の融通性が高い体制となった。例えば大学院講義に出席できないことを補うために E ラーニングによる補習学習体制を整えた。研究倫理教育の E ラーニングを義務化し、論文執筆などの国際ルールを習得する機会を与えている。さらに、博士論文の投稿前に剽窃チェックを行い、その結果を委員会で詳細に検討し、助言などを大学院生にフィードバックする体制を確立した。

このようなサポートの結果、第2期における学位論文のインパクトファクターの平均値が3.107と、第1期に比べ0.121ポイント向上し、さらに高い水準となり、重要な質の変化があったと判断した<sup>3)</sup>。

3) 資料 1-1-3	: 医学系研究科博士課程改組後の組織構成	P5-6
資料 1-1-4	: 博士課程改組後の指導體制	P5-7
資料 1-1-19	: 副指導教員制度を定めた規則	P5-18
資料 1-2-6	: 博士課程:カリキュラムの展開	P5-51
資料 1-2-9	: 博士課程授業開設表「共通科目」(平成27年度)	P5-53
資料 1-2-33	: 博士課程・大学院セミナー担当研究者数一覧	P5-74
資料 1-2-34	: 博士課程「地域総合医療学コース」招へい講師一覧	P5-75
資料 1-2-47	: 博士課程 シラバス「医科学基礎総論」	P5-87
資料 1-2-48	: 福井大学論文剽窃防止対策実施要項(一部抜粋)	P5-88
資料 1-2-49	: 医学系研究科博士課程学位論文剽窃チェック手順	P5-88
資料 2-1-10(1)	: 大学院生の学会発表数, 論文発表数一覧(博士課程)	P5-102

② 被ばく医療に強い医療人の養成

被ばく医療に強い医療人の養成は、地震大国である日本においてニーズは高く、喫緊の課題である。本大学院では日本で初めて博士課程に「地域医療学コース」を、修士課程に「災害看護 CNS 課程」を開設し、福島原子力発電所事故の教訓を生かし、実習を通して現場から学ぶなど、実践的に被ばく医療を学ぶカリキュラムを組み、被ばく医療の指導的な立場を担う人材の育成を行っている。博士・修士課程の両方に被ばく医療を学ぶカリキュラムを置いたことは、他にない特筆すべき取組であり、相補的な学習は医療現場での有機的なチーム医療につながるものが大きく期待される。また、双方の学びを生かし、両課程の大学院生が協働して、地域での講演や啓もう活動に積極的に取り組んでおり、地域に大きく貢献している<sup>4)</sup>。これらのことから重要な質の変化があったと判断した。

4) 資料 1-1-3	: 医学系研究科博士課程改組後の組織構成	P5-6
資料 1-1-5	: 修士課程 CNS 課程開設検討経過	P5-8
資料 1-1-7	: 博士課程 地域総合医療学コース教育体制	P5-9
資料 1-1-8	: 修士課程 災害看護 CNS 課程の指導體制	P5-10
資料 1-1-54	: 福井メディカルシミュレーションセンター学生利用状況(大学院生含む)	P5-43
資料 1-1-55	: 福井メディカルシミュレーションセンターを利用した演習風景	P5-44
資料 1-2-18	: 緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点概要	P5-59
資料 1-2-20	: 「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点」最終評価	P5-61
資料 1-2-21	: 博士課程 シラバス「地域総合医療学・臨床疫学特論Ⅱ(ER救急学)」	P5-62
資料 1-2-22(1)	: 修士課程 シラバス(1)「災害看護学特論Ⅰ」	P5-63
資料 1-2-22(2)	: 修士課程 シラバス(2)「災害看護学実習Ⅳ」	P5-64
資料 1-2-40	: 博士課程「地域総合医療学コース」の開催プログラム	P5-81
資料 1-2-23(1)	: 修士課程 大学院生協力啓蒙活動(1)	P5-65
資料 1-2-23(2)	: 修士課程 大学院生協力啓蒙活動(2)	P5-66

③ 修士課程 災害看護 CNS 課程の状況

災害看護 CNS 課程は、平成 27 年度に日本で初めて 3 名の修了生を輩出し、平成 29 年度に専門看護師認定審査を受ける予定である。

1 期生は、CNS に必要な能力を高めるため、地域と連携した災害医療に関する講演会、訓練等でも中心メンバーとして活躍しており、後輩の指導も積極的に行っている。今後、地域における災害看護のチームリーダーとして十分な活躍が期待できる本学独自の教材開発やセミナー開講により、今後も地域防災・病院防災に貢献できるとともに、広範な活動実績により、県内はもとより、全国的なネットワークができ、緊急的、長期的協力体制の構築が期待できるものであり、重要な質の変化があったと判断した<sup>5)</sup>。

5)	資料 2-2-2	: 修士課程修了者の進路状況	P5-110
	資料 1-1-8	: 修士課程 災害看護 CNS 課程の指導体制	P5-10
	資料 1-1-9	: 修士課程 災害看護 CNS 課程活動一覧	P5-11
	資料 1-2-22(1)	: 修士課程 シラバス(1)「災害看護学特論 I」	P5-63
	資料 1-2-22(2)	: 修士課程 シラバス(2)「災害看護学実習 IV」	P5-64
	資料 2-2-5	: 修士課程修了者・仕事と教育内容についてのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-111
	資料 2-2-7	: 修士課程 勤務機関へのアンケート結果 (平成 27 年度実施)	P5-113